

第十一章

尋常性鱗屑疹 又 乾癬 Psoriasis vulgaris.

釋義 點狀又ハ圓斑狀ノ紅疹ヲ生ジ乾燥セル銀白ノ鱗屑其上ニ堆積スル所ノ慢性皮膚病ナリ。

症候 先ヅ針頭大乃至瓜核大ノ鮮紅色丘疹ヲ生ジ尋テ銀白ノ鱗屑其上ヲ被ウテ邊緣僅ニ紅暈ヲ露ハシ試ミニ爪尖ヲ以テ鱗屑ヲ剝離スレバ底面ニ針孔大ノ出血點ヲ認ムベシ點狀鱗屑疹 Ps. punctata) 是ノ如キ原疹三々伍々散點シテ飛沫ノ狀ヲナスコトアリ(飛沫狀鱗屑疹 Ps. guttata) 更ニ増大シテ十錢五十錢銀貨乃至以上ノ大サニ及ブコトアリ(貨幣狀鱗屑疹 Ps. nummularis) 又圓形鱗屑疹 Ps. orbicularis) 其中心ノ鱗屑自ラ剝離シ潮紅モ亦隨ウテ消褪シテ環狀ヲナスコトアリ(環狀鱗屑疹 Ps. annularis) 而シテ其輪廓次第ニ周圍ニ擴大スルコトアリ(蛇行性鱗屑疹 Ps. serpiginosa) 斯ノ如クシテ點狀ノモノ圓形ノモノ環狀ノモノ互ニ近接シ遂ニ相融合シテ大小種々ノ形狀ヲナシ地圓狀鱗屑疹 Ps. geographica) 又花環狀鱗屑疹 Ps. gyrata) 甚シキハ全身ニ蔓延スルニ至ル(汎發性鱗屑疹 Ps. universalis) (第八十六圖乃至八十九圖)。

部位 本症ノ好發部位ハ肘及膝蓋ヲ始メトシ四肢ノ伸側手甲足甲軀幹項部及頭部ニシテ顔面ニハ少ク肘窩及膝脰ニハ全ク之ヲ缺ク稀ニ掌蹠ニ來ルコトアリ。

點狀鱗屑疹
飛沫狀鱗屑疹
貨幣狀又圓形鱗屑疹
環狀鱗屑疹
蛇行性鱗屑疹
地圖狀又花環狀鱗屑疹
汎發性鱗屑疹

經過 多クハ青年以後ニ於テ卒然ニ發スルモ經過極メテ緩慢ニシテ一進一退容易ニ根治セズ以テ晩年ニ及ブベシ男女ノ間ニ著シキ差異ヲ認メズ。

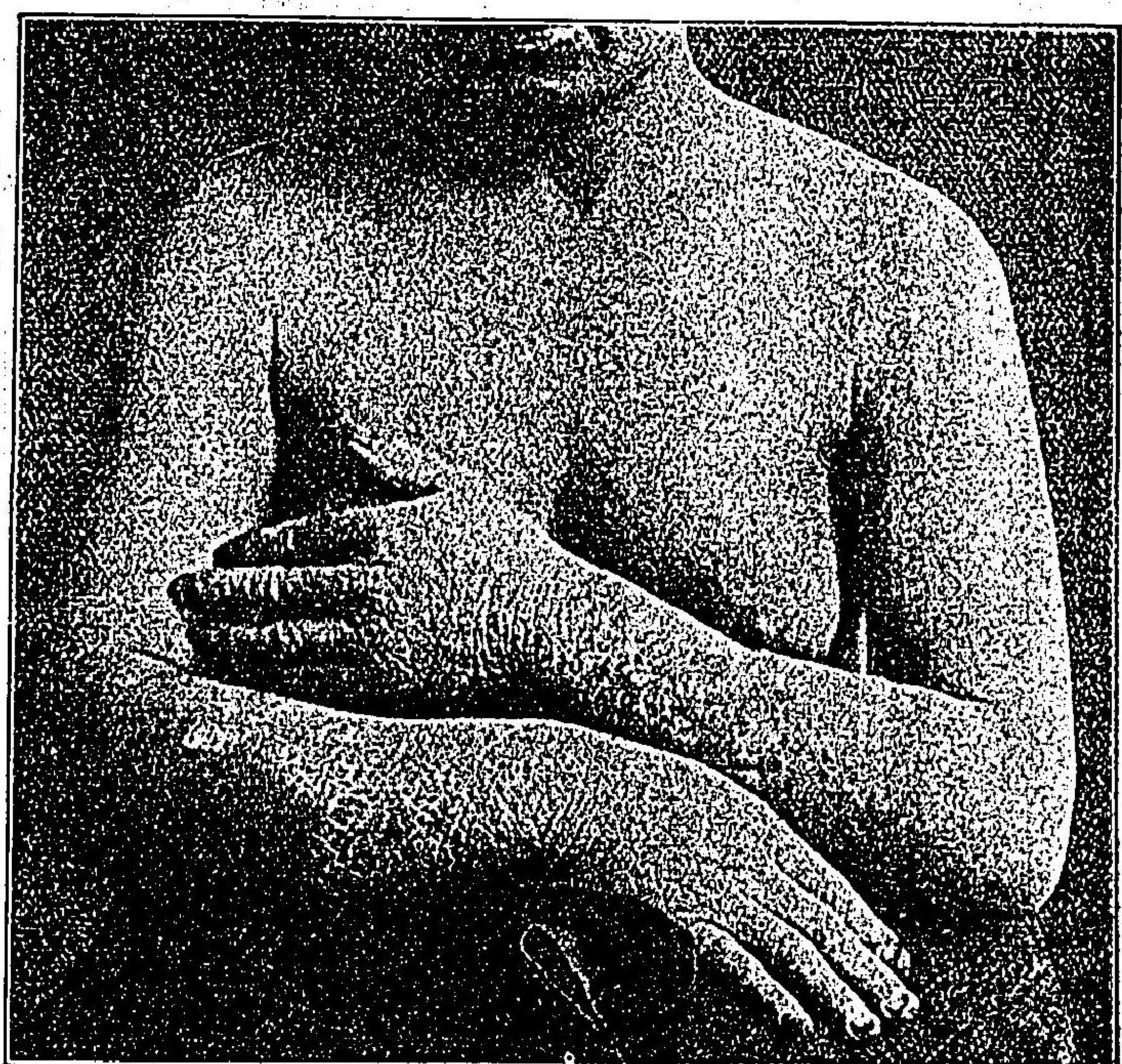
本症ハ歐米人ニハ頗ル多キモ邦人ニアリテハ寧ロ稀有ニ屬ス(著者)。

自覺症狀ハ殆ドナシ時トシテ輕微ノ搔痒ヲ來スコト有リ殊ニ頭部ニ於テ然リ。

鱗屑 鱗屑疹ハ一方ニ表皮ノ肥厚ヲ來シテ種子層肥厚シ角層ハ不全角化ヲ呈シ隨ウテ細胞間ノ聯結薄弱ニシテ剝離シ易シ他方真皮ニアリテハ毛細管擴張シテ充血甚シク圓形細胞ノ炎症性浸潤著明ナリトス。

原因 本症ノ眼局セル圓板ヲ成

シテ周圍ニ増大スルハ臨牀上寄生性皮膚病ニ一致スルニ依リナイセル氏 *Nissen* ノ徒ハ一種ノ寄生性疾患ト看做スモ素ト推測ニ過ギズシテ組織中ニ細菌又ハ他ノ寄生物ヲ染



尋常性鱗屑疹

色シ若クハ培養シ得タルニハ非ズ。且ツ病理ニ就テハ或ハ真皮ノ充血ノ爲メ表皮ノ増殖ヲ來ストナシ(カボシイ氏 Kopon) 或ハ表皮ノ増殖ニ由リ、真皮ノ血管ヲ壓迫シテ充血ヲ來ストナス(ヤグソン氏 Jusselin ルロア氏 Leloir 等)。
寄生病説ノ外、本症ヲ以テ神經性疾患トナス者アルモ亦一ノ臆説ニ過ギズ更ニ一種惡疫性ノ疾患ト看做ス者アリ。

診斷 限局セル發疹、銀白色ノ鱗屑ヲ帶ビ之ヲ剝離スレバ點狀出血ヲ見伸側殊ニ肘及膝蓋ニ好發ス、搔痒ヲ缺キ或ハ僅ニ存ス。

類症鑑別 鱗屑性濕疹 *Eccema squamatum*

musum ノ鱗屑ハ微細ニシテ枇糠狀ヲナス。患部ハ境界明劃ナラズ且ツ主トシテ肘窩膝關ノ如キ屈側ニ來リ、濕潤ノ傾アリ

搔痒劇甚ナリ。脂漏性濕疹 *Ec. seborrhoicum* ハ境界較、明劃ニシテ頗ル本症ニ似タルモ、往々濕潤シ鱗屑脂軟ニシテ微細ニ、搔痒著シク、好シテ屈面ニ發生ス。微毒性鱗屑疹 *Ps. syphilitica* ハ手掌及ビ足蹠ニ限リテ發生スルモノニシテ發疹豆大ニシテ其上ニ細鱗ヲ被ハリ、底面ハ銅紅色ヲ呈シ、浸潤著シクシテ硬シ。他ニ微毒ノ症候アリ。鱗屑性微毒疹 *Syphilis squamosa* トハ微毒性丘疹ノ上ニ鱗屑ヲ被ルモノヲ謂ヒ、多クハ豆大ナルモ、稀



第八十七圖

ニハ貨幣大ノモノアリテ尋常性鱗屑疹ニ酷似ス。拙著圖譜第二十二表ノ如キ以テ證トスベシ。然レモ鱗屑常ニ脂性ヲ帶ビ、且ツ發疹好シテ屈面ニ生ジ、又輪狀ニ排列ス。尖圭紅色苔癬 *Lichen ruber acuminatus* ハ膝關及肘關節ノ角化症ヲ來シテ頗ル尋常性鱗屑疹ニ似タルモ、同時ニ必ズ手掌及足蹠ノ角化症ヲ伴ヒ、且ツ附近及ビ他部ニ於テ針頭大ノ尖圭ナル角栓、毛囊ニ一致シテ散點スルヲ認ムベシ。急性剝脫性皮膚炎 *Dermatitis exfoliativa acuta* ハ全身潮紅シテ葉狀ノ脫皮ヲ來スモノニシテ

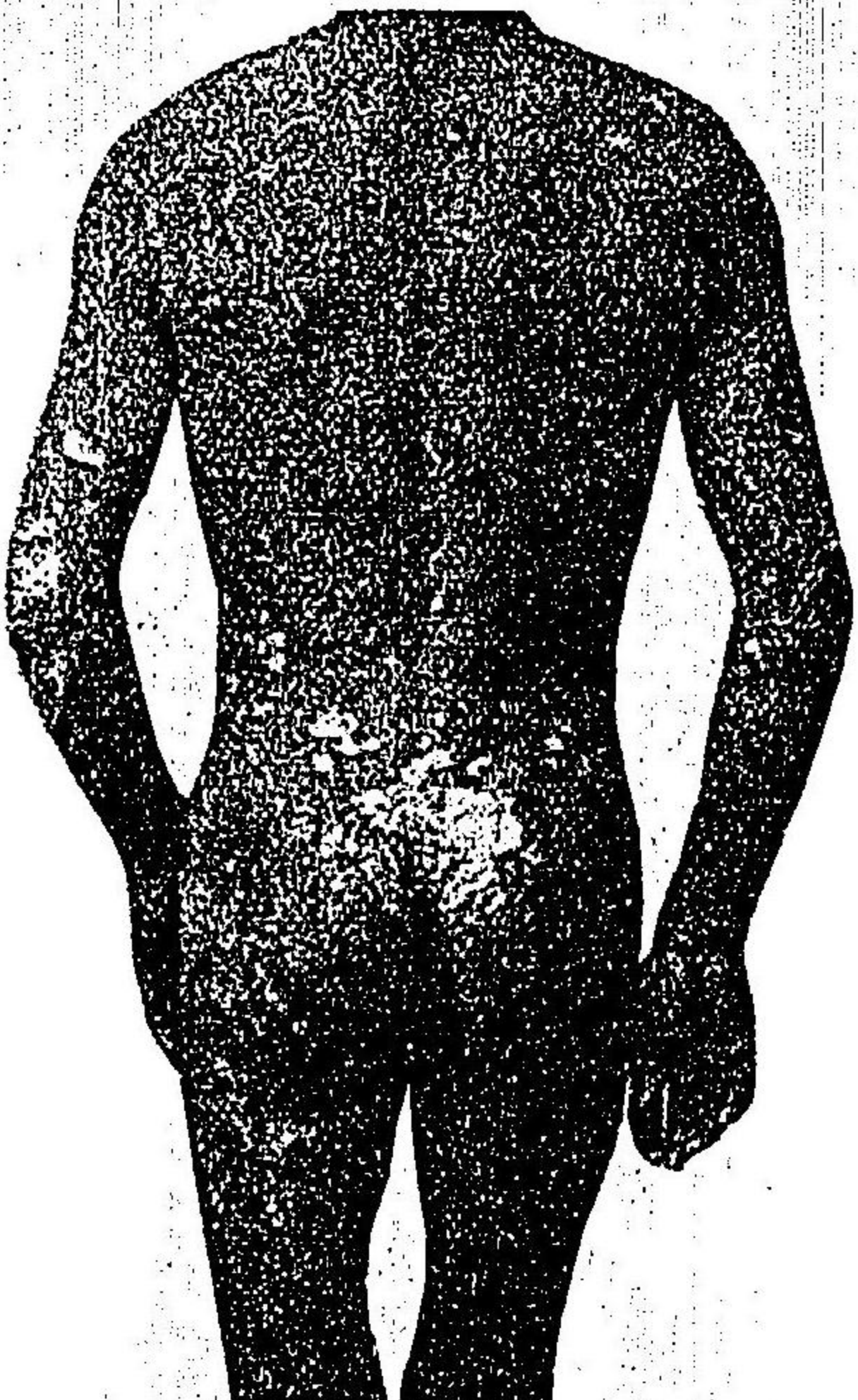
原因一ナラズ尋常性鱗屑疹ニ在リテハ汎發性潮紅ノ傍、必ズ孤立セル原疹ヲ發見スベシ

豫後 一般ニ良好ニシテ、全身狀態ハ毫モ侵サル、コトナク、個々ノ發疹ハ卒然又ハ治療ニ依ツテ一旦消失シ毫モ痕跡ヲ留メザルニ至ルコトアリト雖モ、極メテ再發シ易クシテ之ヲ豫防スルコト困難ナリ。是レ歐米到ル處ノ專門病院ニ於テ常ニ數多ノ本患者ノ收容セラル、ヲ見ル所以ナリ。

療法 内用及外用ノ二方アリ。甲ニハ亞砒酸ヲ用キ、乙ニハクリサロピン、焦性沒食子酸等ヲ塗布ス。兩者共ニ本症ニ對シテ著明ノ效力アルモ、而モ特效藥ト謂フニハアラズ。

尋常性鱗屑疹

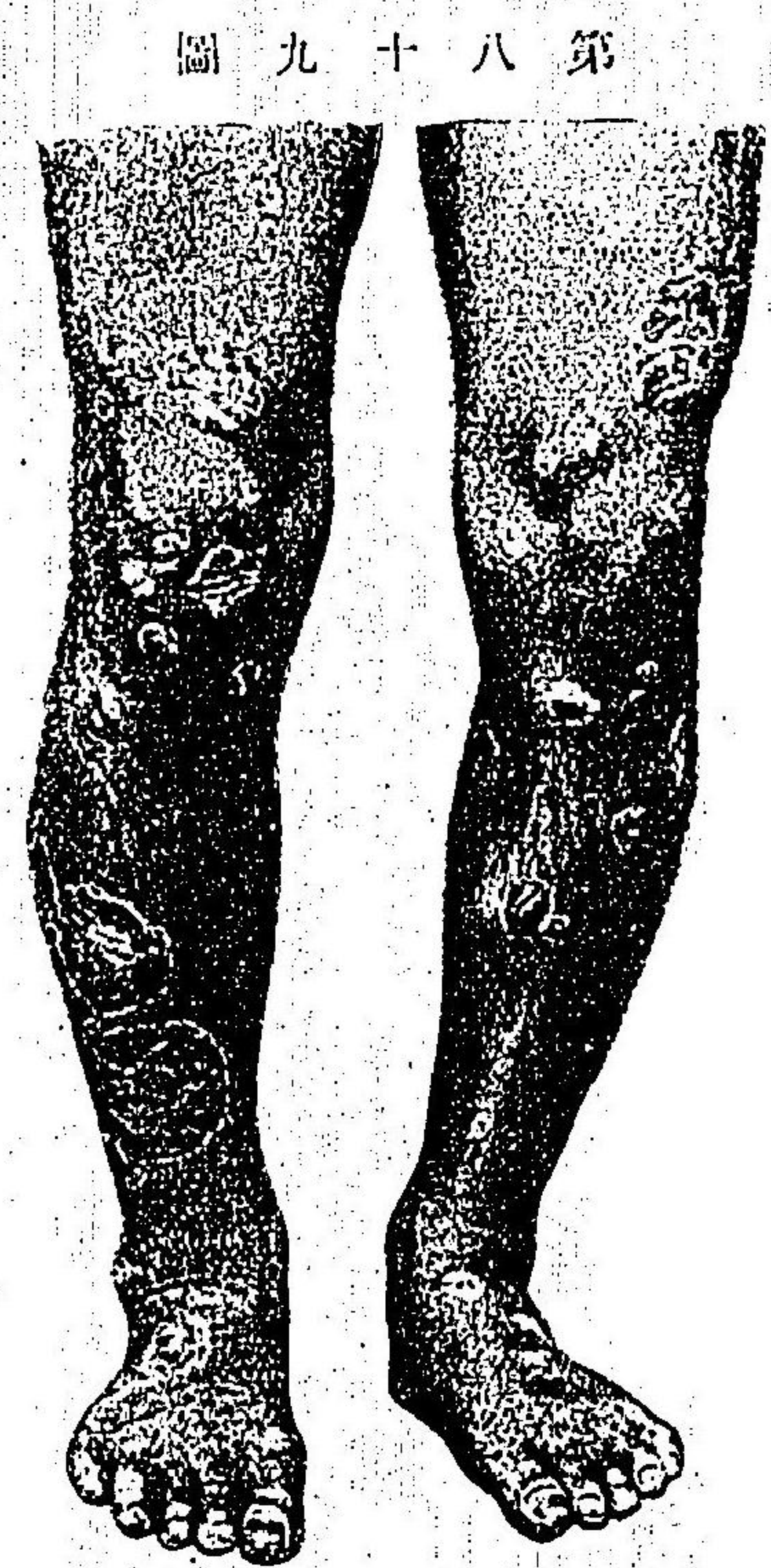
第八十八圖



亞砒酸ノ用法ハ濕疹ノ項下ニ詳ナリ。就中亞砒酸曹達ノ皮下注射ハ胃腸ヲ害セズシテ而モ奏效速カナリトス。ヘルクスハメル氏 Herxheimer ノ靜脈内注射法ハ肘窩又ハ膝關ノ皮膚靜脈ニ亞砒酸ヲ一日〇.〇〇一宛注射シ、二日毎ニ同量宛増加シテ一日〇.〇一五ニ至リテ同量ヲ持長スルモノナレドモ、危険ノ多キニ比シテ特殊ノ效力ヲ認メズ。亞砒酸ノ代用品トシテハカコヂール酸、カコヂール酸曹達(〇.〇二及ビアトキシール(〇.〇五)アリ。著者ハアトキシールノ皮下注射ヲ行キテ割合ニ好結果ヲ認メタリ。

此他沃度加里ノ多量内服(一日一〇.〇一〇〇三〇.〇一五〇.〇)ハ副作用トシテ脈搏ノ増加、沃度熱等ヲ來スモ其效力ハ頗ル著明ナルモノアリト云ヘリ(グレイベ氏 Greve 及ハスルンド氏 Haslund)。

其他甲狀腺ノ有效成分タルチレヲヨチン錠一日一錠ヨリ始メ、毎四日ニ一錠宛増量、一日五個乃至十個ニ達シテ止ム(ハシキス氏 Paschke)又ハ犢牛ノ新鮮ナル甲狀腺(一日二〇一〇〇宛碎挫シテ肉汁ニ和シテ嚙下セシム)ノ内服ヲ稱用スル者アリ。局處療法ハ内服ニ兼用スベキモノニシテ、就中クリサロピン最モヨシ。但シ本劑ハ數、皮膚炎ヲ起シ鱗屑疹以外ノ皮膚ハ潮紅シテ澁柿色トナリ、鱗屑部ハ却テ治癒シテ本



第八十九圖

來ノ皮膚色ヲ見ルノ奇觀ヲ呈スベシ(クリサロピン皮膚炎 Chrysarobin-Dermatitis)之ト同時ニ顔面ノ浮腫結膜炎等ヲ來シ、又衣服ヲ澁色ニ汚染スルノ不快アリ。是等ノ副作用アルニ由リクリサロピンヲ頸以上ニ使用スルハ宜シカラズ。用法ハ一〇%軟膏又ハトノウマチ、ン溶液トナス後者ハ使用最モ便ニシテ、其中ニ含メルコロ、ホルムノ放散ニヨリテクリサロピンハグツタベルカト共ニ患部ニ固著シ散漫ノ虞ナキヲ以テ皮膚炎割合ニ少ナシ。然レドモ猶ホ十分ノ注意ヲ要シ、患者ノ手ニ渡サバ爾ヲ安全ナリトス。且ツ入浴ノ際ハ豫メ本劑ヲ清拭スベシ。

クリサロピンニ比シテ效力較劣レルモ、而モ皮膚ヲ刺戟スルコト遙ニ少キハビロガール(焦性沒食子酸)ナリトス。而モ猶ホ中毒症トシテ虚脱血尿等ヲ來スコトアリ。ムニエー氏 Benier ハ二十四時間ニ於ケルビロガール量ハ五〇ヲ越ユベカラズト謂ヘリ。用法ハ頭部ニアリテハ五—一〇%軟膏トナシ、其他ノ部位ニアリテハ著者ハ五%トラウマチ、ン溶液ヲ稱用ス。

クロマイエル氏 Kramer ハビロガール及クリサロピンノ刺戟性ヲ除カンガ爲ニ醋酸ヲ加ヘテオイガール(ビロガール、モナチエタート)及オイロピン(クリサロピン)トリアテエタートヲ製出セリ。オイロピンハ副作用較少ククリサロピンニ代用シ得ベシ。

- 處方 おいゝびん 二〇 亞鉛華 濃粉 各一〇.〇 黃色華攝林 二〇.〇
 右一日一回塗擦

此他アントラロビン、ヒドラチエチン、ヒドロキシール、アミン等ノ如キ新劑ハ孰レモ效力遙ニ劣レリ。
之ニ反シテ木蓂兒ハ往々效アリ、殊ニ不快ノ副作用少シ、就中樞蓂兒杜松子蓂兒ヲ最モ良トス。其用法ハ一〇—二〇%蓂兒油又ハ純蓂兒ヲ一日二回塗布ス。蓂兒ノ中毒症狀ハ腹痛暗黒色ノ吐出物發熱黒褐色尿下痢等ナリ。
頑症ニアリテハレントゲン療法ヲ施スベシ(ホルツクテヒト氏 *Holsbuch*)

引用書目

- 1) 土肥慶藏、日本皮膚病叢書圖譜第二十一表及圖解。
- 2) *Herrkiner*, Ueber Psoriasisbehandlung. *Heilner* kl. W. 1897. No. 35.
- 3) *Haskind*, Ueber die Behandlung des Psoriasis mit grossen Dosen von Jodkaliun. *Archiv f. D.* u. S. 1887.
- 4) *Bahmann Syre*, Ueber die Behandlung der Psoriasis mit einer Salbe von Chrysothansäure. *Ref. im Archiv*. 1878.
- 5) *Jarisch*, Ueber die Verwendung der Pyrogallussäure gegen Hautkrankheiten. *Wiener med. Jahrb.* 1878.
- 6) *Kromayer*, Einige neue dermatologische Heilmittel etc. VI. Congress der Deutschen dermatol. Gesellschaf. 1898.

慢性苔癬狀秕糠疹 *Psoriasis lichenoides chronica.*

異名 Lichenoides psoriasisartiges Exanthem (*Nessier*), Dermatitis psoriatiformis nodularis (*Jadassohn*).

釋義 尋常性鱗屑疹ニ似タル一種ノ慢性炎症性皮膚病ニシテ、丘疹ト斑點ヨリ成リ、其表面ニ鱗屑ヲ被リ、播種狀ニ全身ニ蔓延シ、新舊ノ發疹錯綜シテ多形ヲナスモ、毫モ爾餘ノ形態ニ變ズルコトナシ。

症候 初メ針頭大鮮紅色ノ丘疹ヲ生ジ、漸ク増大シテ麻實大乃至豆大ニ至リ、橙黃色乃至褐紅色ヲ帶ビ、扁平ニ隆起シテ表面ニ光澤アリ。試ミニ爪端ヲ以テ搔破スレバ鱗屑薄葉狀若クハ秕糠狀ニ剝脫シ、稀ニハ其跡ニ極微ノ出血ヲ認ムルコトアリ。

此丘疹ハ長ク同一ノ狀態ヲ保チ、若クハ漸次扁平トナルト共ニ、表面ノ鱗屑ハ増加シ銀白色ヲ呈シテ徐ロニ剝離スベシ。稀ニ丘疹全ク吸收セラレテ消滅スルニ至レバ中心ハ往々皮膚面以下ニ陥沒スルニ至ルコトアリ。

丘疹ノ消滅スルヤ一時紅色乃至淡黃褐色ノ斑點ヲ留ム。斑ノ大サハ常ニ丘疹ヲ超過シテ小爪甲大ヨリ一厘銅貨大ニ達シ、稀ニハ融合シテ更ニ大ナル部面ヲナスコトアリ。斑ノ表面ハ指壓ニ依ルモ褪色著シカラズ、且ツ尙ホ多少ノ鱗屑ヲ帶ブ。

經過 極メテ慢性ニシテ、斯ノ如キ丘疹紅斑ハ數月數年ニ互リテ出沒シ、一方ニ消退スレバ他方ニ新ニ生ズルアリ。新舊ノ發疹竝ビ存シテ多形ヲナスベシ。間、新發疹一時休止シテ、舊疹モ亦漸ク消失シ、皮膚全然常態ニ復シ、若クハ斑點ノミヲ殘存シテ宛モ大理石斑ノ觀ヲナスコトアリ、特ニ夏季ニ於テ然リトス。而モ秋季ニ至レバ病勢再ビ旺盛スルヲ免レズ。

自覺症狀ハ缺如ス、只時ニ輕微ノ搔痒ヲ訴フルコトアルノミ。

部位 軀幹及ビ四肢ニ平等ニ發生シ、特ニ伸側又ハ屈面ヲ擇バズ、手掌陰部等ニモ亦發生スベシ。獨リ頭部及ビ顔面ニハ發疹甚ダ稀ナリ。

原因 本症ハナイセル *Nasser* ヤグソン *Jadassohn* 兩氏ガ獨逸皮膚科學會(ハル六年)ニ於ケル患

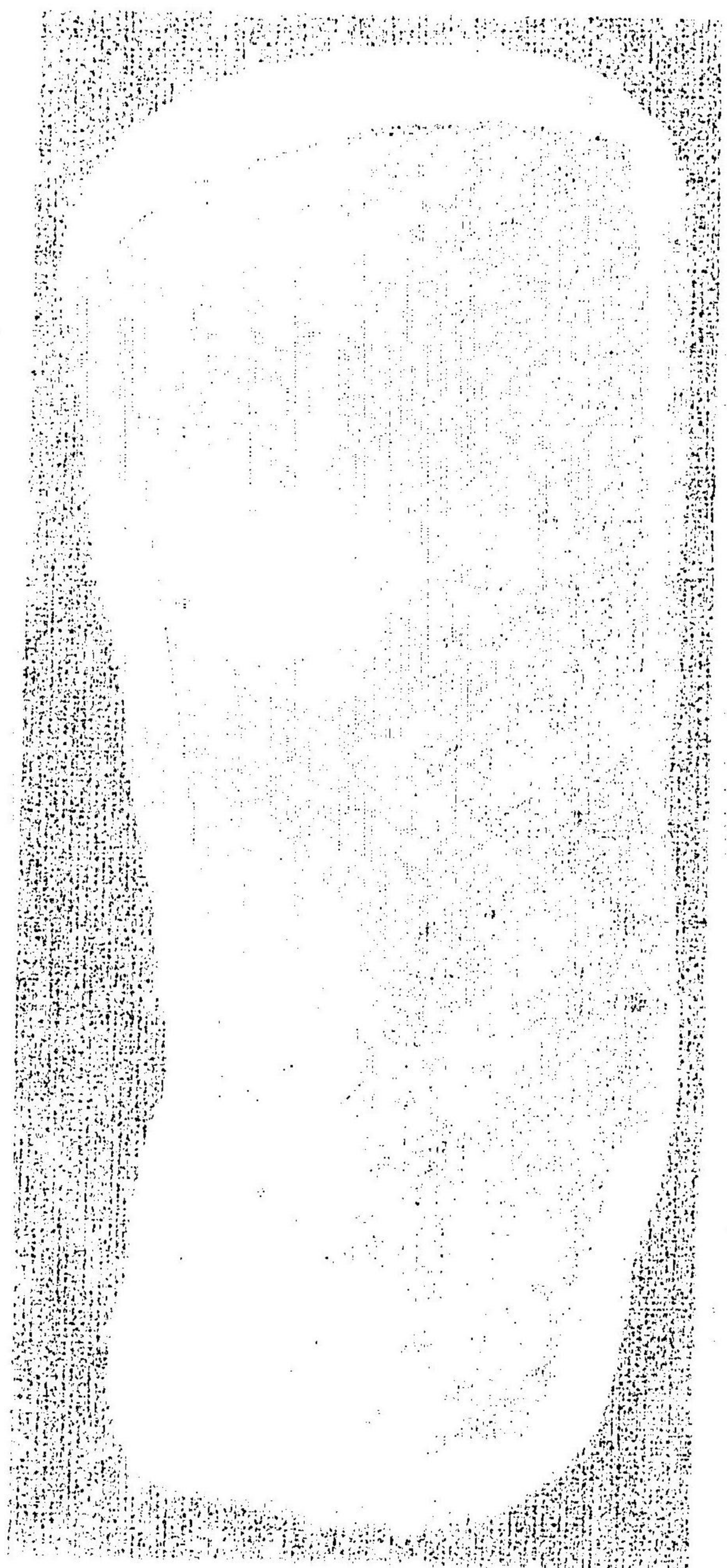
者説明ニ始マリ尋テピンクス *Pinkus* ユリッスヘルグ *Juliusberg* ローナ *Rona* 等ノ報告出デ、病名確定セリ。蓋シブロッグ氏 *Brock* ノ所謂バラブソリアジス *Larupsoiasis* ノ一症ナリ。櫻根徳川兩氏ノ一例モ亦此ニ屬スベキモ、其皮疹ハ較、廣大ニシテ一部網狀ニ融合錯綜セルヲ以テ異トセリ。原因ハ全然不明ナリ、只時トシテ尋麻疹ノ併發スルコトアルニ由リ、血管神經障ナラント推測スル者アリ。近時エールマン氏 *Ehrmann* ハ新陳代謝ノ異常又ハ慢性中毒ヲ本症ノ原因ニ擬セリ。

本症ハ各期ノ年齢ニ來ルモ、特ニ青年ニ多ク、健康肥滿ノ者、貧血虛弱ノ者、共ニ本症ニ罹リ得ベシ。未ダ曾テ遺傳ヲ證明セズ。

【鑑別】慢性表在性皮膚炎ノ徵アリテ、不全角化ヲ營ミ、晶様角素細胞ハ全ク缺如ス。鱗屑中ニハ微菌ヲ證明シ得ズ。

【診斷】小丘疹鱗屑ヲ被リ、之ヲ剝離スレバ小出血點アリ、新舊錯綜スルモ、各疹甚ダ増大セズ、又一定部位ヲ擇マズ、經過慢性ニシテ、頑症ナリ、自覺症ヲ缺ク。

【類症鑑別】尋常性鱗屑疹 *Ps. vulgaris* 特ニ其點狀飛沫狀ノモノハ本症ト酷似スルモ肘關節膝蓋ノ如キ好發部位ヲ有シ、且ツ發疹増大シテ屢、環狀蛇行狀等ヲナスハ本症ニ見ザル所ナリ。鱗屑モ亦遙ニ著明ナリ。扁平紅色苔癬 *Lichen ruber planus* ハ浸潤著シク、隨テ視診及ビ觸診ニ依リテ識別シ易ク、且ツ多角形ニシテ、其色較、濃厚暗紅色ヲ呈シ、單疹上ニハ鱗屑ヲ被ラズ、薔薇色枇糠疹 *Pityriasis rosca* ハ瘙癢アリ、發疹遙ニ大ニシテ、著色亦著シ、常ニ中心ヨリ治癒シテ周圍ニ蔓延スルノ傾向アリテ、圓斑ヲ形成シ、邊緣ハ



鋸齒狀ヲナス。微毒性丘疹 Syphilis papulosa ニ比スレバ本症ハ著色淡ク、鱗屑剝離シ易ク、經過慢性ニシテ、發疹長ク存在シ、驅微療法ニ反應セズ。

豫後 殆ド不治ノモノタリ、稀ニハ卒然消散スルコトアリ、容貌上ヨリ患者ノ精神ニ不快ヲ與フルノ外、全身狀態ノ障礙ヲ來サズ。

療法 殆ド無效ニシテクリザロピン、ピロガルロールモ亦奏效セズ、余ハ三例ニ亞砒酸曹達ノ注射ヲ持長セシモ微效ナカリキ、而モエールマン氏 *Ehrmann* ハ亞砒酸ヲ連用シテ再發ヲ防ギ得タリト云ヘリ。落屑多キトキハ五%硼酸華攝林、二%撒里矢兒酸華攝林ヲ塗布スルモヨシ。

引用書目

- 1) *Jakobson*, Ueber ein eigenartiges psoriasisformes u. ichthemoides Exanthem. Verhandlungen der deutschen dermatol. Gesellschaft. IV. Congress. 1894.
- 2) *Pinkus*, Ein Fall von psoriasisformem u. ichthemoidem Exanthem. Archiv f. D. u. S. Hl. 44. 1898.
- 3) *Jakobson*, Ueber die Pityriasis ichthemoides chronica (psoriasisform-ichthemoides Exanthem). Archiv f. D. u. S. Hl. 50. 1899.
- 4) *Bronn*, Les parapsoriasis. Annales de D. et de S. 1902.
- 5) 櫻根孝之進、徳川攝三、鷓助散片(パラブソリヤジス?) (皮膚八卷一號、明治四一年)。

ヘブラ氏紅色糝糠疹 Pityriasis rubra Hebra.

異名 慢性剝脫性皮膚炎 Dermatitis exfoliativa chronica.

釋義 慢性ノ皮膚病ニシテ、毫モ丘疹水泡膿疱等ヲ作ラズ、只皮膚ニ潮紅ト落屑トヲ呈

ヘブラ氏紅色糝糠疹

ヘアラ氏紅色批糠疹
 シ、終ニ皮膚萎縮ヲ來シ、徐々ニ衰弱ニ陥ルモノナリ。

症候 本症ハ男子ニ多ク殊ニ晩年ニ來ルモ著者稀ニハ少女ニ於テ目撃スルコトアリ(我一例若林某十六歳ノ少女ハ二年前ニ發病セリ)初メハ身體ノ一部例ヘバ關節窩ニ於テ潮紅シ、漸次ニ全身ニ蔓延シテ鮮紅色乃至暗紅色ヲ呈シ、壓迫ニヨリ褪色シテ僅ニ淡黃色ヲ殘スベシ而シテ表面ヨリハ斷エズ批糠樣鱗屑樣又ハ葉狀ノ落屑アルノ外何等皮疹ヲ認メズ又浸潤ヲ缺ク皮膚ノ溫度ハ少シク充進シ時々惡寒アリ。

部位 身體ノ

或ル部位ヨ

リ始マリ割

合ニ迅速ニ

或ハ極メテ

緩慢ニ全身

ニ蔓延ス我

第九十圖



教室ニ於ケル實驗例中ニハ或ハ上肢ヨリシ(田中氏)或ハ股陰ヨリシ(中島氏)或ハ足部ヨリシ(渡邊氏)或ハ肘窩膝窩等ヨリセリ筒井氏ノ例ハ肩胛骨ノ下部ヨリ始マリ楠氏ノ例ハ顔面臍圍背面ヨリ蔓延セリ。

經過 是ノ如クシテ荏苒數年ヲ經過スルノ後早晚皮膚ノ慢性浮腫ニヨリテ肥厚ヲ來シ指間ニ之ヲ撮メバ厚キ皺襞ヲ成シ光澤ヲ帶ビテ革ヲ摩スルガ如ク著色益濃厚ト

ナリ暗褐色乃至帶黑褐色トナリ尋デ皮膚ノ萎縮ヲ來シ殊ニ關節ノ屈面ニ於テ著シク屢々皸裂ヲ生ジ手掌足趾ノ皮膚モ亦菲薄トナリ抵抗力減弱スベシ顔面ニアリテハ眼瞼口圍等多少外翻スベシ又頭部腋窩陰部等ニ於ケル硬毛ノ脱落ヲ來シ爪甲モ亦菲薄トナリ或ハ肥厚シテ粗糙トナル(第九十九、九十一、九十二圖)此他本症ノ特徴トスル所ハ初期ニ於テ已ニ數多ノ無痛性淋巴腺腫ノ鼠蹊窩及下腋窩頸部等ニ於テ表ハルコトニシテ桃大ヨリ鶏卵大以上ニ達スルモノ累々トシテ存スベシ自

覺症狀トシ

テハ瘙癢屢

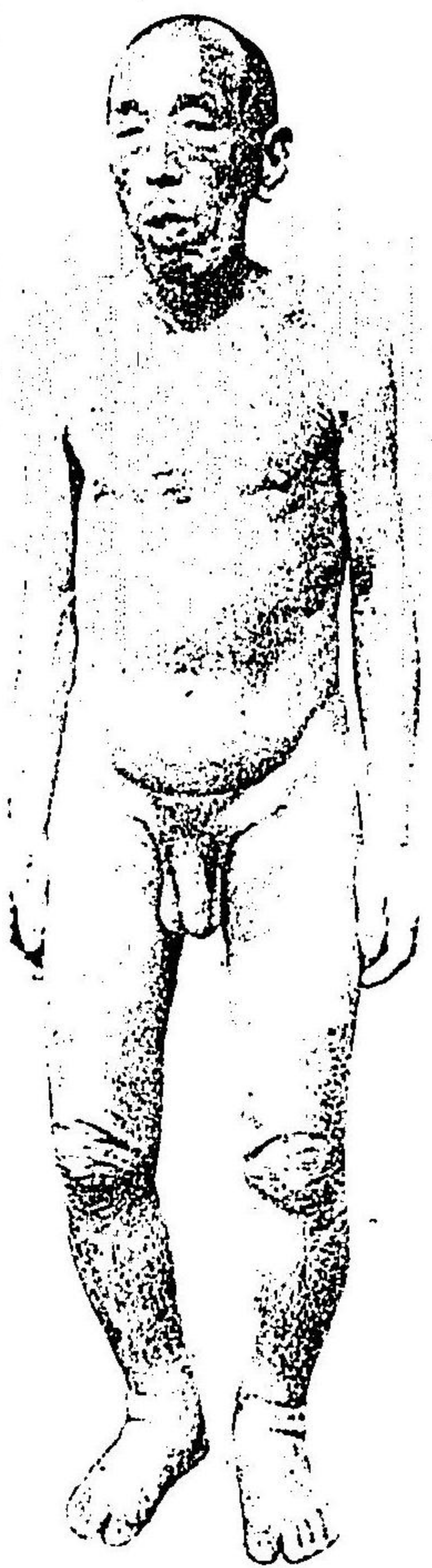
劇烈ニシテ

又惡寒アリ

殊ニ病勢ノ

進行セル場合ニ於テ然リ稀ニハ瘙癢ヲ缺クコトアリ其他患者一般ニ違和倦怠ヲ覺エ、數不眠症ニ陥リ又ハ胃腸ノ障礙ヲ來ス。

第九十一圖

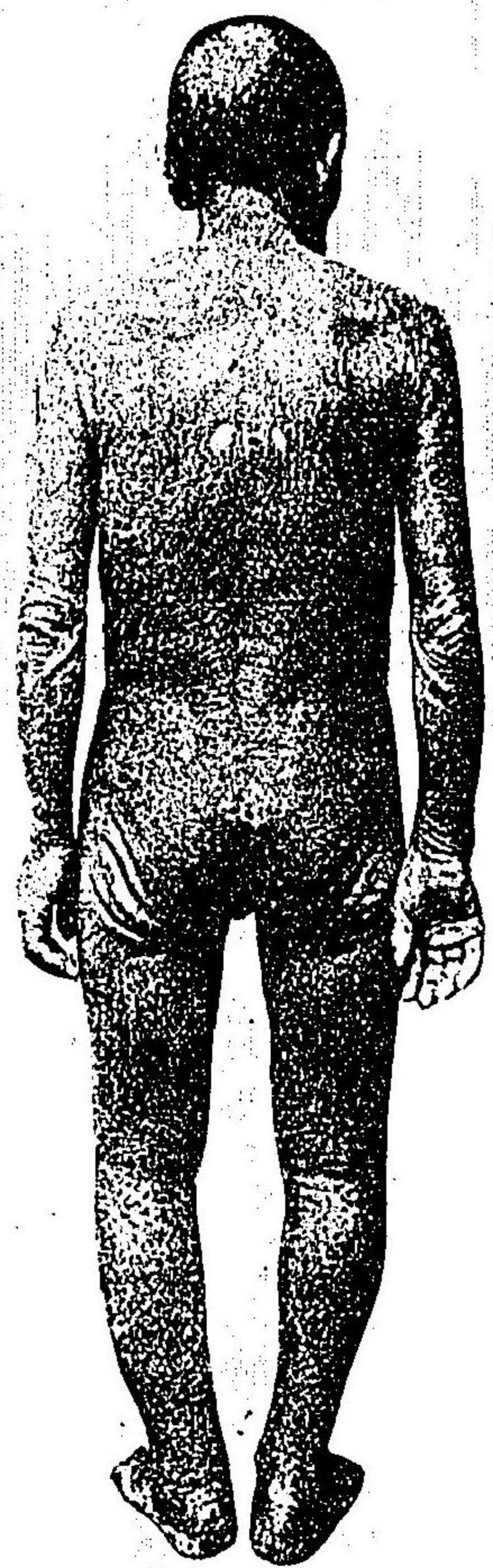


原因 ハ分明セズ間結核ヲ合併スルト云フモ著者ノ實驗數例中一少女ノ腸結核ニ斃レシ者ノ外木原氏多クハ體格強壯毫モ結核ノ徵候ナク一患者關基ノ如キハ八十七歳ノ高齡ニテ本病ニ斃レタリ且ツ解剖セル一例(六十歳男子)ニ於テモ毫モ結核ヲ證明セザリキ。ヤダソン氏 Jadasohn ハ金柑大ノ表在(結核性)淋巴腺ヲ證明シテ本病ノ病理上全ク無意義

ヘアラ氏紅色批糠疹

ニハ非ザルベシト言ヘリ。著者ノ實驗ニ據レバ無痛性淋巴腺腫ハ實ニ本病ノ特徴ノ一ニシテ、殊ニ皮膚ノ浮腫性肥厚又ハ萎縮ヲ來セル場合ニアリテ著シ。蓋シ此慢性淋巴腺腫ハ猶ホ痒疹ニ於ケル便毒ノゴトク恐ラクハ本病ト關係アルモノニシテ、本病モ亦一種ノ自體中毒症ニ外ナラズト信ズルモ、結核トノ關係ニ至リテハ、本病ノ病體解剖的統計ガ肺臟及汎發結核トノ合併症ノ高率ヲ示スヤダツソン氏(Jadassohn)ニ拘ラズ著者ハ病體解剖及ビ淋巴腺腫ノ組織的檢査ノ多數ニ於テ陰性成績ヲ得、又我が教室ニ於ケル患者ノ數例ニ就テツ

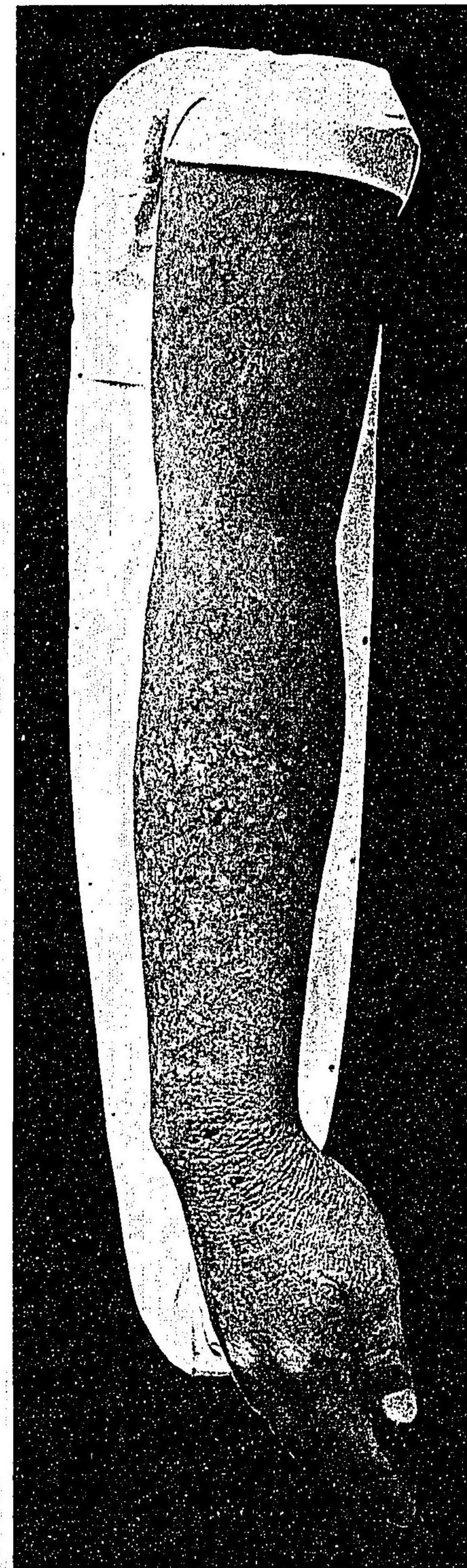
圖二十九第



ベルクリ
ン眼反應
ベルケー
氏皮膚接
種反應モ
ロー氏
軟膏反應
等ヲ試ミタル者亦皆陰性ニ終レリ。渡邊氏血液檢査ニ於テハ白血球及ビエオジン嗜好細胞ノ増加ヲ見タリ田中氏。

【解剖】乳頭體及乳頭下層ノ炎症性浸潤アリ、汗腺及脂腺ハ次第ニ消失スベシ。表皮ハ初期ニアリテハ變化ナク、後ニハ肥厚シ又ハ萎縮スベシ、角層ハ不全角化ヲ呈ス。

【診斷】初期ニアリテハ限局性又ハ汎發性ノ潮紅及落屑ノ他、毫モ高等ノ皮疹ヲ具ヘズ、末期ニ於テハ皮膚ノ浮腫的肥厚ニ次デ萎縮ヲ來シ、經過極メテ慢性ナリ。



(天
紅
原
色
脱
髮
症
脚
部)

疹糠枇色紅氏ラブヘ
Pityriasis rubra Hebra.
(Klinik DOHI - Tokyo.)



類症鑑別 本症ヲ皮膚ノ未ダ萎縮ニ陥ラザルニ當リテ他症ト鑑別スルハ容易ナラズ殊ニ藥疹 Arzenelexantheme 汎發性ノ尋常性鱗屑疹 Ps. vulgaris 落葉狀天疱瘡 Pemphigus foliaceus 紅色苔癬 Lichen ruber ノ類モ亦皮膚ノ潮紅落屑ヲ呈シテ、數本症ノ初期ト誤診スルコトアリ然レドモ是等ノ諸症ハ仔細ニ皮膚ヲ検査スレバ必ズ各症ニ固有ノ丘疹又ハ水疱ヲ發見スベシ末期ニ於テハ慢性濕疹 Ficcum chronicum 若クハ菌狀息肉 Mycosis fungoides ノ濕疹期ニ類似スル所アルモ菌狀息肉ニアリテハ患部ニ早ク著明ノ限局性浸潤ヲ呈シ慢性濕疹ニアリテハ多少ノ濕潤面又ハ丘疹膿疱等ヲ存スベシ尙ホ次項剝脫性皮膚炎 Dermatitis exfoliativa ヲ参照スベシ

豫後 早晚衰弱ニ陥リテ死ヲ致ス。

療法 著者ハ亞砒酸曹達ノ皮下注射ノ割合ニ有效ニシテ、搔痒ヲ輕快シ浸潤ヲ減退スルヲ認ム、アトキシールノ效力ハ較之ニ劣リ且ツ本症ニ對シテハ殊ニ胃腸症狀(疝痛、下痢等)ヲ招キ易キヲ覺ユ内服ニ石炭酸丸、規尼涅肝油等ヲ試ムルモ效少シ、患部ニ於ケル緊張ト搔痒ノ感ヲ除ク爲ニハカミツレ浴甚ダ可ナリ、之ニ次グハ硫黃浴明礬浴等ニシテ、リゾール浴モ亦患者ニ快感ヲ與フルモ久用スベカラズ外用藥ニハ亞鉛華膏、硼酸軟膏、安息香脂ノ類ヲ塗布シテ繃帶ヲ施スベシ。

引用書目

土肥慶藏日本皮膚病微毒圖譜第二十七表及圖解。
田中友治ヘブラ氏紅色剝脫疹患者說明皮膚六卷五六號明治三九年。

ヘブラ氏紅色剝脫疹

- 5) 中島明同上(皮膚八卷五、六號明治四一年)。
- 6) 渡邊晉同上(皮膚九卷一〇號明治四二年)。
- 7) 楠大同上(皮膚七卷三四號明治四〇年)。
- 8) 筒井八百珠(ヘブラ氏紅色批癩疹ニ就テ(皮膚七卷一號明治四〇年))。
- 9) 木原岩太郎(ヘブラ氏赤色批癩疹病理追加(醫會十四卷七八號明治三三年))。
- 10) *Jakobsen, Über die Pityriasis rubra (lepra) und ihre Beziehungen zur Tuberkulose. Archiv. Bd. 33: 24. 1891-1892.*

剝脫性皮膚炎 Dermatitis exfoliativa.

異名 全身性剝脫性紅皮膚病 Erythrodermies exfoliantes généralisées (Basini).

釋義 急性亞急性性稀ニハ慢性ニ皮膚潮紅シテ落屑スルノ外、毫モ他ニ異常ナキ症ヲ謂フ。

種別 ヘブラ氏 *Hebra* (一八六三年) ニヨリテ紅色批癩疹ノ意義確定セシ後、ウールソン氏 *Ensomus Wilson* ハ新ニ剝脫性皮膚炎ナル病名ノ下ニヘブラ氏紅色批癩疹ノ類症ヲ記載シ、該症ニ比スレバ發生迅速ニシテ經過短ク、皮膚ノ腫脹著シクシテ落屑ハ却テ大葉ニ、且ツ豫後佳良ナルコトヲ言ヘリ、尋テウグダール氏 *Ugdael* ノ全身性剝脫性皮膚炎、*Dermatite exfoliative généralisée* フレヴェール氏 *Fleury* ノ再發性猩紅熱樣落屑症、*Desquamation scarlatiniforme récidivante* 等ノ報告アリ。然ルニ英米ノ學者ハヘブラ氏紅色批癩疹ト剝脫性皮膚炎トヲ全く同視シ、且ツ更ニ汎發セル尋常性鱗屑疹、濕疹、尖圭紅色苔癬、天疱瘡等ヲモ之ニ混同セリ、蓋シ是等ノ諸症ハヘブラ氏紅色批癩疹ト潮紅及ビ落屑ナル兩種ノ證候ヲ共有シ、殊ニ病理及病理解剖上並ニ治療上ニ於テ何等ノ特性ヲ有セザルニ於テ類別極メテ困難ニシテ、實ニ現代皮膚病學中最モ難解ノ章ニ屬セリ。

吾輩ハヘブラ氏紅色批癩疹ノ一種固有ノ獨立症タルコトヲ認ムルト同時ニ、姑ク諸家ノ說ヲ左ニ記載シテ參考ニ供スベシ。

ブロック氏 *Block* ハ本症ヲ三種ニ大別シ、更ニ之ヲ細別スルコト左ノ如シ。

一 全身性剝脫性皮膚炎 *Dermatitis exfoliative généralisée*.

(甲) 再發性剝脫性猩紅熱樣紅斑 *Erythèmes scarlatiniformes desquamatis récidivans* 又良性急性剝脫性

皮膚炎 *Derm. exfoliative nigrae benignes* 本症ノ特徴トスル所ハ急性ニ始マリ熱候晩間三十

九度乃至四十度ニ昇リ、朝ハ殆ド常溫ニ復シ、猩紅色ノ斑點ヲ生ジテ搔痒アリ、稀ニハ熱

灼ス。大抵屈面ニ始マリ、急性又ハ亞急性ニ軀幹四肢ヨリ手足顔面ニ蔓延シテ相融合シ、

三四日ニシテ著明ノ木葉狀又ハ批癩狀ノ鱗屑ヲ來ス。爪甲ハ割合ニ早ク侵サレテ徐々

ニ脫離シ、頭髮及ビ體毛モ亦脱落シテ稀疎トナル。本症ハ數再發シ、各箇ノ發作ハ四週乃

至六週間持長シ、全經過ハ數月若クハ一年ニ及ブベシ。既ニシテ輕快ニ向ヘバ、熱候去リ

落屑減少シテ微細トナリ、著色淡褐色トナリ、毛髮爪甲再生シ、遂ニ完全治癒ヲ營ムベシ。

宇野氏ノ本症トシテ報告セシハ四十三歳ノ婦人ニシテ發疹常ニ歇斯の里發作ニ伴ヒ

年々數回ニ及ベリ、但シ紅斑ト同時ニ水疱ヲ發セリト云フ。

(乙) 亞急性及慢性真正全身性剝脫性皮膚炎 *Derm. exfoliative généralisée proprement dite a) subaiguë; b)*

chronique 本症ニアリテハ著シキ自覺症狀ヲ呈セズシテ一局部ヨリ始マリ、數日ノ間ニ

(亞急性)又ハ徐々ニ慢性蔓延シ、而シテ平均三月乃至八ヶ月間ニ一經過ヲ終ルモノナリ。

熱候ハ初メニ必ズ存ズベシ。

鱗屑ハ極メテ多量ニシテ葉狀ヲナシ、毛髮及ビ爪甲ハ脱落スベシ。轉歸ハ種々ニシテ輕

症ノモノニアリテハ固有ノ經過後ニ全治シ中等症ニアリテハ經過緩慢ナルモ尙ホ良
性タルヲ失ハズ。只重症(三〇%)ニアリテハ種々ノ併發病ニヨリテ死ヲ致スト云フ。

二・流行性剝脫性皮膚炎 D. exfoliative epidémique (Sawitz) 小兒剝脫性皮膚炎 D. exfoliative des enfants
à la mamelle (Kilker et Klotzstein) ニ屬ス。

三・紅色靴糠疹 Pityriasis rubra 之ヲ亞急性良性 subaigu bénin 慢性重症 chronique grave (ケブラ氏症
type Hebra) 及慢性良性(chronique bénin)ノ三種ニ分ツ。

* * *

ベニエー氏 Besnierノ種別ハ較實際的ナリ。即チ氏ハ原發性落屑性紅皮症 Erythrodermies exo-
lanes fébriles primitives 及び續發性落屑性紅皮症 Erythr. exfoliantes généralisées secondaires ノ二種
ヲ分チ、後者ハ他ノ皮膚病ニ續發スルモノニシテ、更ニ之ヲ分チテ(一)濕疹鱗屑疹紅色苔癬
等ニ於テ外用若クハ内用ノ藥品(水銀グリサロビン等)ニ依リテ發生シ、又ハ之ナクシテ特
發スルモノ(偶發的續發性落屑性紅皮症 Erythr. exf. sec. accidentelles ou épisodique) (二)菌狀息肉及惡
液性皮膚淋巴腫ノ經過中ニ來ルモノ及ビ(三)惡液質ノ者長ク頑固ノ皮膚病天疱瘡鱗屑疹
濕疹ニ罹ル場合ニ發生スル汎發性紅皮症トナス。

原發性落屑性紅皮症ハ更ニ複雑ニシテ多少著明ナル自覺的症候、亞急性及ハ慢性ノ發生
及ビ經過浸潤ノ多少、落屑ノ多寡、爪甲異常、毛髮脫落等ノ發現ノ早晚、轉歸ノ良惡等ニ基キ
テ之ヲ數種ニ區別セリ。

テレーク氏 Thakéガ(一)急性及亞急性剝脫性紅皮症、(二)急性剝脫性皮膚炎又再發性落屑性猩
紅熱様紅斑、(三)亞急性剝脫性皮膚炎、(四)亞急性紅色靴糠疹、(五)慢性剝脫性紅皮症、(六)ケブラ
氏慢性紅色靴糠疹、(七)慢性剝脫性皮膚炎ヲ區別セシハ略ベニエー氏 Besnierノ說ニ基キシ
モノナリ。

ヤダソン氏 Jadassohnハケブラ氏紅色靴糠疹ノ證候中ニ著明ナル皮膚ノ浸潤、工業性落屑劇
烈ナル搔痒ヲ追加シ、傍ラ全身性剝脫性皮膚炎 D. exfoliativa generalisata (Wilson-Frogg) 及ビ再發
性猩紅熱様紅斑ノ獨立ヲ認ムルモ、爾餘ノ類例ハ悉クケブラ氏紅色靴糠疹ニ屬スベキモ
ノトナス。

要スルニ是等ノ諸症ハ其微候明瞭ヲ缺キ且ツ諸家ノ報告中必ズシモ誤診ナキヲ期シ難
キヲ以テ俄ニ正確ナル定義ヲ下サルヲ穩當トスルニ

【**類稱**】ケブラ氏紅色靴糠疹 Pityriasis rubra Hebra ハ皮膚ノ潮紅落屑慢性ノ經過ノ外、皮膚萎縮ヲ
以テ其特徴トス。

【**發後**】良好ナルヲ常トシ之ニ依リテケブラ氏症ト鑑別スベシト言フ者アリ。

【**療法**】適宜ニ對症の處置ヲ行ウヘシ。

引用書目

1. Brocq, Etude critique et clinique sur la Dermatite exfoliative générale ou mélangée d'Erasmus Wilson. 1882.
2. 宇野剛藏私的里患者ニ發生セル再發性猩紅疹様紅斑皮膚四卷一號明治三十七年)
3. Besnier et Doyon, Pathologie et Traitement des Maladies de la peau du Képosi. 1891.
4. Thaké, Die exfoliative Erythrodermien in Murrachs Handbuch. Bd. 1. 1902.
5. Jadassohn, Ueber die Pityriasis rubra (Hebra) und ihre Beziehungen zur Tuberculose. Archiv f. D. u. S. 23-24. Bd. 1. 1891-1892.

第十二章

紅色苔癬 Lichen ruber.

釋義 紅色苔癬トハ紅色ノ丘疹ヨリ成ル慢性皮膚病ニシテ、此丘疹ハ病ノ經過中始終其形ヲ保チ毫モ高等ノ皮疹ニ變化スルノ傾向ヲ有セザルモノナリ。

種別 本症ヲ分チテ二種トナス。其一ハ即チ扁平紅色苔癬 Lichen ruber planus ニシテ、他ハ即チ尖圭紅色苔癬 Lichen ruber acuminatus ナリ、此兩者ハ同症異形ニシテ、決シテ異症ニ非ズ。

佛國派ノ所謂毛孔性紅色糠疹 Lichen ruber pilaris 即チヅウェルヂー氏毛孔性糠疹 Pityriasis Derygii ノ多數ハ尖圭紅色苔癬ト異名同症ニ過ギズト雖モ別ニ一種獨立ノ同症ヲ存スルナキヤハ尙ホ將來ノ研究ヲ要スベシ。

古來苔癬 Lichen ノ解説ハ濕疹ニ次デ紛糾ヲ極メタルモノニシテ、英ノウヰラン William べー トメン Bateman 佛ノカズナーフ Casenave アリベール Albert ライエー Roger 獨ノリエック Rietsch シモン Simon 諸氏ノ碩學ヲ以テシテ尙ホ且ツ本病名ノ下ニ諸種ノ疾病ヲ混同セシガ、澳ノヘブラ氏 F. Hebra 出デ、ヒポクラテス Hippocrates ガレーヌス Galenus ノ往古ニ溯リ、始メテ苔癬ノ意義ヲ確定シ、後ノ學者ヲシテ適從スル所アラシメタリ。然レドモ臨牀上ニ於ケル苔癬ノ分類及ビ之ト他症トノ鑑別ニ至リテハ爾來更ニ幾多ノ

扁平紅色苔癬
尖圭紅色苔癬
毛孔性紅色苔癬

論難ヲ經タルモ未ダ全ク歸一セズ、今左ニ其梗概ヲ略敘スベシ。

(一) 一千八百六十年ヘブラ氏 Hebra ハ苔癬ニ關スル自家ノ定義ニ基キ、紅色滲出性苔癬 L. exudativus rubra ト腺病性苔癬 L. serophulosorum ノ二種ヲ區別シ、他ノ皮膚病ニシテ苔癬ノ病名ヲ冠スルモノハ眞ノ苔癬ニ非ズトシテ悉ク別名ニ改メタリ。腺病性苔癬モ亦苔癬ニ非ザルコトハ皮膚結核ノ章下ニ詳論スベシ。

(二) 千八百六十九年ウヰルソン氏 Wilsan ハ扁平苔癬 L. planus ナル一症ヲ報告シ、之ヲ以テヘブラ氏苔癬ノ別種トナセリ。

(三) 千八百七十七年カボシイ氏 Kaposi ハ新ニ尖圭紅色苔癬ト扁平紅色苔癬ト病名ヲ立テ、甲ヲ以テヘブラ氏ノ紅色滲出性苔癬ニ代用セリ、乙ハ蓋シウヰルソン氏ノ扁平苔癬ニ一致スルモノナリ。

(四) 是ヨリ先キ千八百五十七年佛ノヅウェルヂー氏 Zvergieff ハ毛孔性糠疹 Pityriasis pilaris ナル一症ヲ報告セリ、其說ニ據レバ本症ハ身體ノ毳毛部ニ來リ、殊ニ第一指節ノ背面ニ好發シ、被髮部ニハ存セズ、各毛ノ根底ニハ圓錐狀ノ小丘疹アリテ宛然糠皮ノ觀ヲ呈シ、且ツ表皮膜ヲ被ムリ、初期ニアリテハ入浴ニヨリテ鱗屑丘疹共ニ容易ニ除去セラレベキモ、存在久シケレバ同著スベシ。又本症ノ前驅症トシテ順次ニ手掌鱗屑疹 Palaris 頭部糠疹 Capitis 及ビ紅色糠疹 Rubra ヲ發生スベシ、但シ搔痒ハ之ヲ缺クテ常トスト云ヘリ。

(五) 千八百七十七年リッショウ氏 Richard ガ始メテ毛孔性糠疹トヘブラ氏紅色苔癬ノ鑑別ヲ説キ、シヨリ、ラウエルニー Lanuzius (一八八三年) プロク(一八八六年) 諸氏ノ研究ヲ經テベニエー

氏 *Mossley* (一八八九)ガ毛孔性紅色枇糠疹 *Tubus planus* ニ關スル自説ヲ公ニシテ該症トヘ
ブラ氏紅色苔癬トハ全ク別症タルベキコトヲ唱道セリ。

(六)是ニ於テ平千八百八十九年巴里ニ於ケル萬國皮膚科學者會議ハ主トシテ毛孔性紅色
枇糠疹トヘブラ氏紅色苔癬トノ關係ニ就テ劇烈ナル論戰ヲ促シ、一波動イテ萬波復動
キ苔癬問題ハ再ビヘブラ氏以前ノ大混亂ヲ來セリ。

(七)之ト同時ニ米ニアリテハロビンソン氏 *Robinson* (一八九九年)ヲ始メトシテイロール *Taylor*
フックス *Fuchs* 諸氏ハ盛ニ扁平苔癬トヘブラ氏紅色苔癬トヲ全ク別症ナリト主張シ、以
テ佛國學者ガウルソン氏扁平苔癬ト毛孔性紅色枇糠疹トニ症ヲ認メテヘブラ氏紅色
苔癬ノ存在ヲ否認スルニ對シテ、隱然一種ノ聲援ヲ與ヘタリ。

(八)是等ノ論難ニ對シテカボシイ氏ノ主張ハ依然トシテ變ゼザリキ、氏ハ更ニ苔癬問題ニ
就テ反覆辯難モ假借スル所ナク、ヘブラ氏紅色苔癬ハ即チ尖圭紅色苔癬タルコト、尖
圭紅色苔癬ト扁平紅色苔癬トハ同症異種タルコト、殊ニ佛國學者ノ所謂毛孔性紅色枇
糠疹ハ尖圭紅色苔癬ト單ニ命名上ノ相違ニ過ギザルコトヲ細説セリ。

(九)爾後今日ニ至ルマデ本問題ニ對スル歐米諸家ノ態度ヲ示セバ、(甲)全然カボシイ氏ノ説
ニ贊成スル者ケブチル *Kühner* シュウニメル *Schummer* デアミチス *De Jankes* マックス、ヨゼー
フ *Max Joseph* ルカシウ *Lukasiewicz* ヤーリツシ *Jarsch* リルレ *Rille* ブロック *Brocq* リエッケ
Kieck 諸氏(乙)扁平紅色苔癬ト尖圭紅色苔癬ノ同症異種タルニ於テカボシイ氏説ニ同
意スルモ、別ニ毛孔性紅色枇糠疹ノ存在ヲ認ムル者(ハンス)ヘブラ *Hans v. Hebra* ノイマン
Neumann イリオート *Elliot* エルクリイ *Pulley* ナイセル *Neisser* ヤダソン *Jakobson* ガレウス

キイ *Gulzowsky* 諸氏(丙)尖圭紅色苔癬ト扁平苔癬トハ全然別症ニシテ、而モ尖圭紅色苔癬
ハ毛孔性紅色枇糠疹ト異名同症ナリトナス者(ローナ) *Rona* テレーク *Tyrok* アロ *Alro*
Alro ル *Leyde* ラン *Lang* ステル *Stel* ウゴン *Wegon* クライ *Kraib* *Kraib* 等)ノ三派ニ
大別シ得ヘシ。就中注目ニ價スルハ佛學派ノ多クガ尖圭紅色苔癬ト毛孔性紅色枇糠疹
ノ同症異名タルコトヲ認知スルニ至レルコト、ヘブラ氏ノ高弟タルノイマン氏ガ後
來毛孔性紅色枇糠疹ノ獨立ニ左祖スルニ至レルコト是ナリ。

(十)著者ハ嘗テ特異ノ一例ヲ實驗シテ毛孔性紅色枇糠疹ノ別症タルコトヲ主張シ、次デ又
扁平紅色苔癬ニ尖圭紅色苔癬ヲ合併セル一例ヲ舉ゲテ兩種ノ同症タルコトヲ立證セ
リ。爾來更ニ數十例ノ尖圭紅色苔癬ヲ經驗シタル後、最近ニ於テ再ビ *Julder* 氏及ベ
ニ *Ehrlich* 氏ノ所謂毛孔性紅色枇糠疹ニ最モ好ク一致セル一例(栗田某女十五歳、第九十六
及九十七圖)ヲ獲タリ。但シ其組織的檢査ノ結果毛囊ノ周圍ニ多少ノ炎症性浸潤ヲ存シ
且ツ毛根ノ分歧セル點ニ於テハ略尖圭紅色苔癬ノ組織ニ一致セルニ依リ、兩者ノ鑑別
上ニ於ケル最モ僥強ナル根據ヲ失ヘリ。

扁平紅色苔癬 *Lichen ruber planus*

異名 扁平苔癬 *Lichen planus* (*Wilson*) ウェルソン氏苔癬 *L. de Wilson*

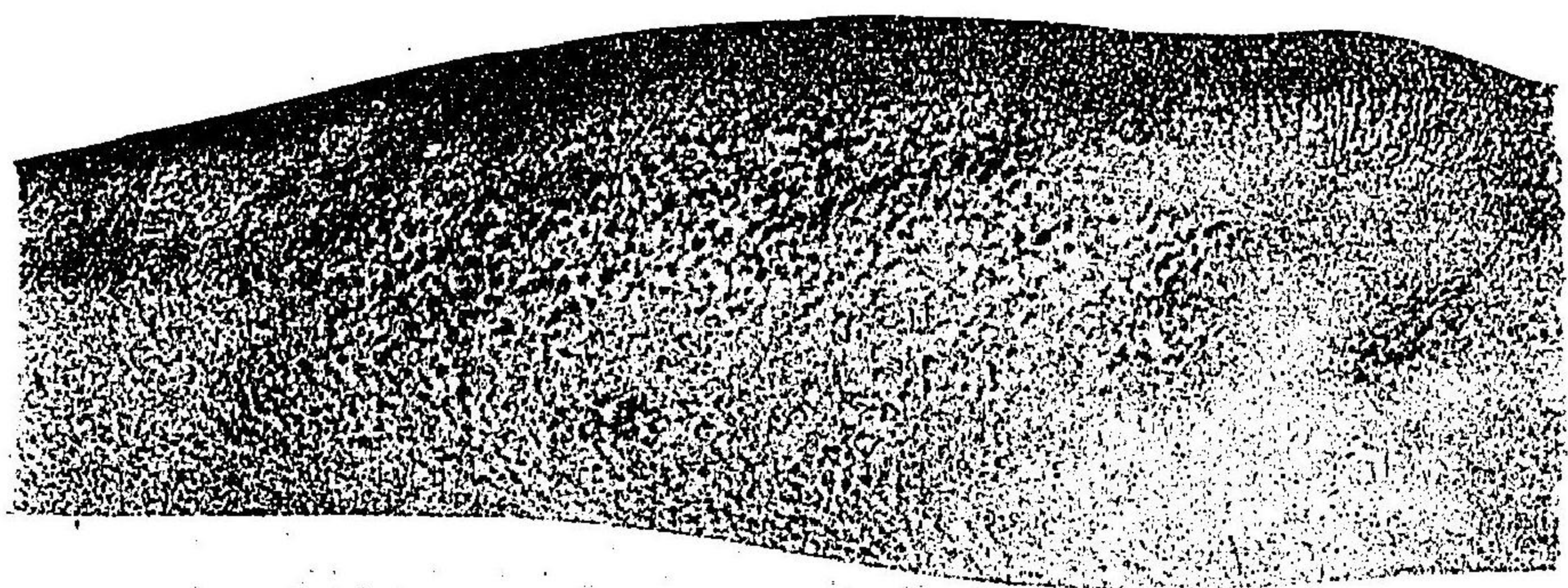
釋義 多角形ニシテ一種ノ光澤ヲ帶ビ、間中心ニ臍窩ヲ存スル紅色扁平ノ丘疹ヨリ
成リ、其集簇シテ局面ヲ作ルモノ、外ハ表面ニ角化ヲ呈セズ。

症候 粟粒大ヨリ小豆大ノ丘疹、紅色乃至紅褐色ヲ呈シテ、側面ヨリ諦視スレバ蠟樣ノ
光澤アリ、其形多角ナルヲ常トシ、間、類圓ノモノアリ、平丘狀ニ隆起シテ、之ニ觸ルレバ
扁平紅色苔癬

稍固ク且ツ往々繊細ノ紅暈ヲ帶ブ而シテ丘疹ノ中央ニ於ケル臍窩ハ或ハ全ク缺如シ、或ハ微小ニシテ僅ニ肉眼ヲ以テ識別スベク、或ハ著明ニシテ丘疹宛モ皿狀ヲナスコトアルベシ。
 是ノ如キ原疹、軀幹又ハ關節屈面ノ如キ一局部ヨリ發生シテ、或ハ播種狀ニ散點シ、或ハ線狀ヲナシ、圓狀ヲ描キ又ハ舊疹ノ中間ニ新疹續生シテ大小不同ノ局面ヲ作り、三四ヶ月ノ間ニ往々軀幹四肢顔面ニ蔓延シ、若クハ數年間一ニ局處ニ偏在スベシ。
 限局部面ノ小ナルモノハ瓜核大錢大ニシテ、大ナルハ遙ニ掌大以上ニ及ビ、肥厚隆起シ且ツ明カニ健康部ト分界シ、往々狭キ紅線ヲ繞ラシ、表面ハ暗紅色褐色乃至紫色ヲ呈シテ、數、白色又ハ灰白色ノ菲キ鱗屑ヲ固著スベシ。但シ其附近ニハ必ズ固有ノ色澤ヲ有シテ、而モ鱗屑ナキ原疹ノ孤立スルヲ認ムベシ。
 此局面ハ時ヲ經ルニ從ヒテ舊キ中心部ヨリ漸ク吸收セラレ、陥沒シテ大小種々ノ輪廓ヲ描クコトアリ。
 (ウ・ルソン氏ノ所謂輪狀扁平苔癬 L. annulatus Wilson) 但シ此輪廓狀ハ割合ニ大ナル原疹ノ中心萎縮ニヨ

輪狀扁平苔癬

第三十九圖



リテ生ジ、若クハ原疹始メヨリ環狀ニ發生シ、連接シテ健康ノ皮膚ヲ圍ムニ依リテ成ルコト亦之アリトス。

原疹又ハ局面ノ吸收セララル、ヤ其跡ニ一時淡褐色ノ斑ヲ遺スベシ。
 自覺症狀トシテハ、搔痒アリ、通常輕微ナルモ、時トシテハ極メテ劇烈ニシテ安眠ヲ妨ゲ榮養障礙、精神過敏鬱憂等ヲ來シ、速ニ衰弱スルコトアルベシ。
 本症ハ主トシテ男子ニ來リ、殊ニ二十歳乃至五十歳ノ間ニ多シ、稀ニ襁褓中ノ小兒ニ之ヲ目撃スルコトアリ、又往々ニシテ家族的發生ヲ證明ス、著者ノ實驗ニ據レバ本症ハ我國ニ於テハ尖圭紅色苔癬ヨリモ却テ少キニ似タリ。

部位 軀幹ニ最モ多ク、胸腹背面、薦骨部等ニ來リ、又腰、陰部、冠狀溝、龜頭、陰唇、陰囊ニ於テ發見ス、四肢ニアリテハ肘窩、腕關節窩、手掌、手甲、膝關節下、腿足、趾趾等ニ來リ、顔面ニテハ稀ニ唇紅、眼瞼、頰部等ニ生ズ、此他好シテ搔痕、緊帶部、鼻緒、摺れノ如キ刺激ヲ受ケタル部位ニ於テ、又ハフイグト氏境界線、皮膚ノ割線、方向、神經及血管ノ經路等ニ沿ウテ本症ノ發生スルヲ見ル。
 汎發性扁平紅色苔癬 L. ruber universalis ハ身體ノ諸部ニ發生セルモノ終ニ相密接シテ成ルモノナリ。

汎發性扁平紅色苔癬

粘膜ニ於テハ舌、頰、唇、紅口蓋等ニ原發シ、又ハ續生シ、銀白色或ハ眞珠色ヲ生ズル點線環圈又ハ局面ヲナス、稀ニハ水泡及ビ出血ヲ伴フコトアリ。

種別 以上記載セルモノ、外本症ノ異型ニ屬スルモノ尙ホ數種アリ。

疣狀角狀乳頭狀
肥大性又結節狀
平紅色苔癬

萎縮性硬化性
肉様斑紋狀
平紅色苔癬

線狀扁平紅色苔癬

珊瑚珠數樣紅色苔
癬

急性(亞急性)扁平
紅色苔癬又猩紅疹
樣紅色苔癬

天疱瘡樣扁平紅色
苔癬

扁平紅色苔癬

三三〇

(一) 疣狀角狀乳頭狀肥大性又結節狀扁平紅色苔癬。L. ruber planus verrucosus, cornicus, papillomatous, hypertrophicus s. tuberosus。最モ多ク見ル所ノ異型ニシテ、苔癬徐々ニ肥厚シテ、局面ヲ成シ、峻急ニ周圍ノ健康面ヨリ隆起シ、間、紅暈ヲ帶ブルコトアリ。表面ハ淡紅色乃至黒褐色ヲ呈シ、粗糙ニシテ往々著明ナル灰白色ノ鱗屑ヲ固著スベシ。外觀宛モ疣贅ノ如ク又蜂巢ニ似タリ。好ンデ下腿ニ發生シ、劇烈ノ搔痒アリ。

(二) 萎縮性硬化性肉様斑紋狀扁平紅色苔癬。L. ruber planus atrophicus, sclerosus, keloidiformis s. morphaeicus。本症ハ患部ノ萎縮ト色素脫失ヲ來スヲ以テ特徴トナス所ノ稀有症ニシテ、局面蒼白色ヲ呈シ、光澤アリテ癢痕ニ似タルモ、周圍ニハ狹キ著色線アリテ明カニ健康面ヨリ分界セラル。蓋シ中央ニ於ケル陳舊ノ苔癬漸次ニ吸收セラ、ト同時ニ、邊緣ニハ尙ホ紅褐色乃至紫紅色ノ苔癬殘存スルニ因ルモノニシテ、吸收セラレタル原疹ノ跡ニハ微小ノ凹窩ヲ留メテ、患部稍、色革ノ觀ヲ呈スベシ。

(三) 線狀扁平紅色苔癬。L. ruber planus striatus s. linealis。トハ即チ扁平苔癬長ク連接シテ線狀ヲ描クモノニシテ、或ハ偶然ニ特發シ、或ハ搔痕ヨリ發生スベシ。時トシテハ又フツイグト氏境界線等ニ一致シテ發生スルコトアリ、列序性母斑ヲ參照スベシ。

(四) 珊瑚珠數樣紅色苔癬。L. ruber moniliformis (Kaposi) トハ、粟粒大乃至豌豆大紅褐色ノ苔癬恰モ珠數繋ギヲナシ兩端ニ向ツテ漸々細小トナリ、多クハ數條竝行シ、稀ニハ蛛網狀ヲナシ、好ンデ四肢ノ屈側又ハ伸側、薦骨部、頸部等ニ來ル。著者ハ本症ヲ尖圭紅色苔癬ニ於テ實驗セリ。

(五) 急性(亞急性)扁平紅色苔癬又猩紅疹樣紅色苔癬。L. ruber acutus (subacutus) s. scarlatiniforme (Hallopeau) ハ卒然一夜間乃至數日內ニ、粟粒大紅色ノ苔癬夥シク發生シテ多クハ播種狀ヲナシ、又ハ集簇シテ局面ヲ作ルト同時ニ、皮膚ニ暗紅色ノ散漫性潮紅ヲ呈シ且ツ著明ノ落屑ヲ伴ウモノニシテ、搔痒毎ニ劇甚ナリ。

(六) 天疱瘡樣扁平紅色苔癬。L. ruber planus pemphigoides。ハペーカー氏 Bakerノ報告(八八一年)ヲ以テ始メトス。水疱ハ或ハ扁平紅疹ノ代リニ發生シ、或ハ扁平紅疹ヨリ變化スルモノニシテ、全身症狀著シク急ニ散漫性紅斑ヲ發生シテ、其上ニ扁平苔癬ト共ニ豌豆大乃至以上ノ水疱ヲ俱發スベシ。此水疱ハ他ノ症候ト同時ニ吸收セラレベキモノニシテ、水疱ノ跡ニハ色素脫失ヲ來シ、苔癬ノ跡ニハ却テ色素斑ヲ遺スヲ以テ本症ノ特徴トス。但シ時トシテ扁平紅色苔癬ノ合併症トシテ特發的又ハ症候的(例ヘバ藥疹)ニ水疱ヲ來ス場合ナキニシモアラザルガ故ニ、注意シテ診斷スベシ。

【論】 若キ原疹ニアリテハ病變眞皮ニ限局シ、數箇ノ乳頭ヲ合セテ一病竈ヲ作り、主トシテ乳頭下血管及乳頭毛細管ノ擴張及ビ血管周圍ノ細胞浸潤ヲ認ムベシ、尋デ遊走細胞ノ表皮中ニ進入スルアリ、後ニハ種子層ノ肥大及ビ浮腫ヲ致シ、且ツ屢表皮ト眞皮ノ間及ビ表皮ノ基底細胞層ト有棘層トノ間ニ於テ數多ノ空隙ヲ生スベシ、眞皮ニ於ケル浸潤ハ徐々ニ加ハルモ下方ニ向ツテ明割ニ分界スルヲ見ル。

汗腺脂腺及毛髮ニ於テハ特異ノ變化ヲ認メズ、皮膚ノ神經モ亦完全ナリ。

【診斷】 扁平紅色多角形ノ丘疹蠟樣ノ光澤、中心ノ凹窩播種狀又ハ集簇的發生、鱗屑ハ集

扁平紅色苔癬

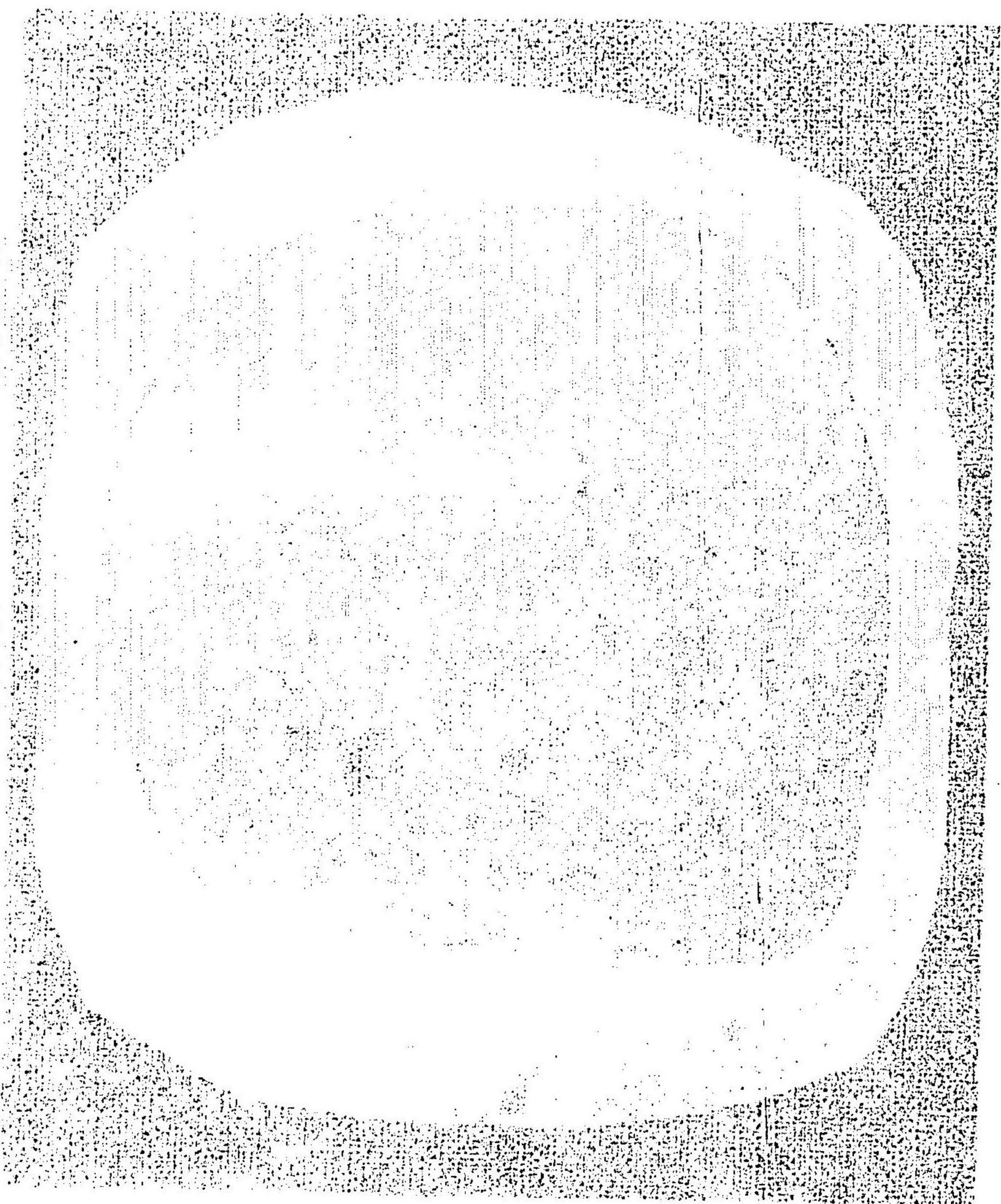
三三一

簇面上ニ存スルモ單疹ニハ存セズ、搔痒アリ、好發部位アリ。

類鑑別 微毒性苔癬 *L. sypiliticus* 即チ小丘疹性微毒疹モ亦間、多角形ニシテ光澤アルモ、形狀恒久ナラズシテ膿疱ニ變ジ易ク、色ハ銅紅ニシテ鮮紅ナラズ、患者ノ榮養多クハ不良ニシテ貧血ヲ呈シ、肘頭鼠蹊ニ腺腫ヲ觸ルベシ、搔痒ナシ、尋常性鱗屑疹 *Poriasis vulgaris* ノ點狀飛沫狀ノモノハ扁平苔癬ノ融合シテ鱗屑ヲ被ムルモノニ似タルモ、鱗屑大ニシテ厚ク、之ヲ剝離スレバ小出血點ヲ認ムベシ、之ニ反シテ苔癬ニアリテハ鱗屑薄クシテ且ツ固著シ強テ之ヲ剝離スレバ其下ニ紫色又ハ紅褐色ノ乾燥セル扁平隆起ヲ露出スベシ、慢性苔癬樣枇糠疹 *Psoriasis lichenoides chronica* モ亦數、蠟樣ノ光澤アリ、臍窩ヲ存シテ、著色亦本症ト大差ナキモ、發疹多角形ナラズ、大ナル融合面ヲ作ラズ、終始吸收セラレズ、粘膜ヲ侵サズ且ツ搔痒ヲ缺ク、慢性單純性苔癬 *L. simplex chronicus* ニ於ケル丘疹ハ多クハ菱形ニシテ、必ズ局面ヲ成シ、浸潤中央ニ厚ク邊緣ニ薄ク、著色淡クシテ間、皮膚ノ常色ヲ呈シ、搔痒ハ却テ劇烈ニシテ、搔痕血痂ヲ認ムベシ、慢性疣狀性濕疹 *Eccema chronicum verrucosum* ノ下腿ニ生ゼシモノハ疣狀性紅色苔癬ニ似タルモ、濕潤面アリ、紅褐色ニシテ灰白紫色ヲナサズ、微毒性乳色斑 *Plaques nuqueuses* ハ濕性ニシテ表面ノ白膜剝離スベキモ、粘膜ノ苔癬ハ灰白蒼色ニシテ硬シ。

豫後 通常良性ナリ、間、卒然治癒スルコトアルモ、再發ノ傾向アリ、正確ニ除去スルニハ適當ノ治療ヲ要ス。

療法 亞砒酸劑ノ内服又ハ皮下注射特效アリ、詳細ハ濕疹ノ療法ヲ参照スベシ、尙ホ左





田中製藥所三色坊

扁平紅色素疹

Lichen ruber planus.

(Clinic DOHI - Tokyo.)

ニ一二ノ處方ヲ追加スベシ

處方 亞砒酸 一〇 石炭酸 三〇 餾水 九六〇

右皮下注射用毎日半筒乃至一筒宛

處方 亞砒酸 一〇 ベタをいかいん 一〇 餾水 八〇〇

右同上

アトキシールノ皮下注射ハ亞砒酸曹達ニ比スレバ效力弱シ、ケゾチル氏 *Köhler* ハ一
%ピロカルピンノ皮下注射ニヨリテ奏效セリト云ヘリ。

外用ニハ著者ノ二五%石炭酸亞鉛華糊膏ノ塗布ハ奏效毎ニ確實ナリ。

此他〇・一二%昇汞溶液ノ洗滌(ベニエー *Besnier* ブロック *Block* 諸氏)一〇%甘汞軟膏(マニ
エー氏 *Manier*)水銀軟膏十分阿列布油四十分ノ塗擦(レウキン氏 *Leucy*)等アリ、就中昇汞
石炭酸軟膏(ウンナ氏 *Ung*)最モ稱用セラル。

處方 石炭酸 二〇〇 昇汞 〇・五—一〇 安息香酸亞鉛華軟膏 五〇〇〇

右朝夕塗擦

爹兒ニハツルキンソン氏軟膏アリ、テロール氏 *Taylor* ハ又左方ヲ處ス。

處方 樺爹兒 三七五 水銀軟膏 七五 單軟膏 三〇〇

右外用

此他クリサロビン、ピロガロール等モ亦使用セラル、モ要スルニ就レモ慢性汎發
ノ皮膚症ニ使用スル藥劑トシテハ使用不便ニシテ殊ニ副作用多ク其效力ニ至リテ

扁平紅色苔癬

モ亦頗ル疑フベシウンナ氏昇汞石炭酸軟膏ノ如キモ亦然リ
レントゲン線ハ止痒ノ效往々ニシテ著シ。

其他水治法始メ攝氏三十五度ノ溫湯ヲ灌注シ次ニ冷水ヲ灌注ス及ビ藥浴(昇汞、硫黃
等)溫泉浴ヲ兼用スベシ。

口粘膜ノ苔癬ニハ亞硫酸內服ノ傍、毎日一回昇汞〇一酒精依的兒各五〇ノ塗布ヲ行ヒ
又ハ五%クローム酸水ヲ塗布セル後硝酸銀桿ニテ擦過スベシ。

尖圭紅色苔癬 *Lichen ruber acuminatus.*

異名 毛孔性紅色枇糠疹 *Pityriasis rubra pitiriasis.*

釋義 紅色尖圭狀ノ丘疹概テ毛囊口ニ生ジ末端ニ圓錐角ヲ被ムリ終始變化セズ、撰簇
シテ局面ヲ作ルノ傾向アリ。皮膚粗糙ニシテ所謂皴膚ヲナス。

症候 原疹ハ粟粟粒乃至粟粒ノ大サニシテ、紅色又ハ帶褐紅色ヲ呈シ、圓錐形ノ白キ硬
キ鱗屑ヲ冠シ、初メハ稀疎ナルモ、新生シテ次第ニ稠密トナリ、終ニ散漫性局面ヲ作リ
皮溝縱横シテ白鱗其全面ヲ被フ、而シテ附近ニハ必ズ原疹ノ散點スルヲ認ムベシ。

部位 對側ニ發生シ且ツ伸側ニ現ハル、コト多シ、大抵先ヅ足趾ト手掌トニ於テ、境界
明劃ニシテ紅縁ヲ有スル高度ノ角質肥厚ヲ呈シ、手指及ビ指趾ハ往々半屈曲ノ位置
ニ在リ、足趾ノ厚キ角板ニハ輝裂ヲ生ジ易シ。

次デ指趾ノ第一節乃至第二節ノ背面ニ於テ、毛囊ニ一致スル原疹密生シ、之ト相前後
シテ肘關節及ビ膝蓋ニ於テモ亦發疹シテ散漫性ノ鱗屑面ヲ成ス(第九十四及九十五圖)。

是ヨリ以後、軀幹ニアリテハ項部肩胛骨間、肛裂胸骨部、左右胸壁、下腹等四肢ニアリテ
ハ伸側又ハ屈面ニ於テ、密集面ヲ作り境界常ニ明劃ナリ(第九十六及九十七圖)。

被髮部ニ於テハ著明ノ原疹ヲ見ズシテ、單ニ乾性鱗屑ヲ存スルニ止マルコトアリ、或
ハ他部ト同ジク毛囊性角疹ヲ生ズルコトアリ、毛髮之ガ爲メニ細弱稀疎トナルベシ。

顔面モ亦單ニ發赤シテ枇糠疹
ヲ呈スルコトアリ、或ハ前額、眉
毛、頰頰等ニ發疹ス。

爪甲ハ早晚著明ノ變化ヲ認メ、第

或ハ菲薄脆弱トナリテ縱横ニ

凹溝ヲ生ジ、或ハ白基石ノ如キ

不透明ノ角質ニ變ジテ末端殊

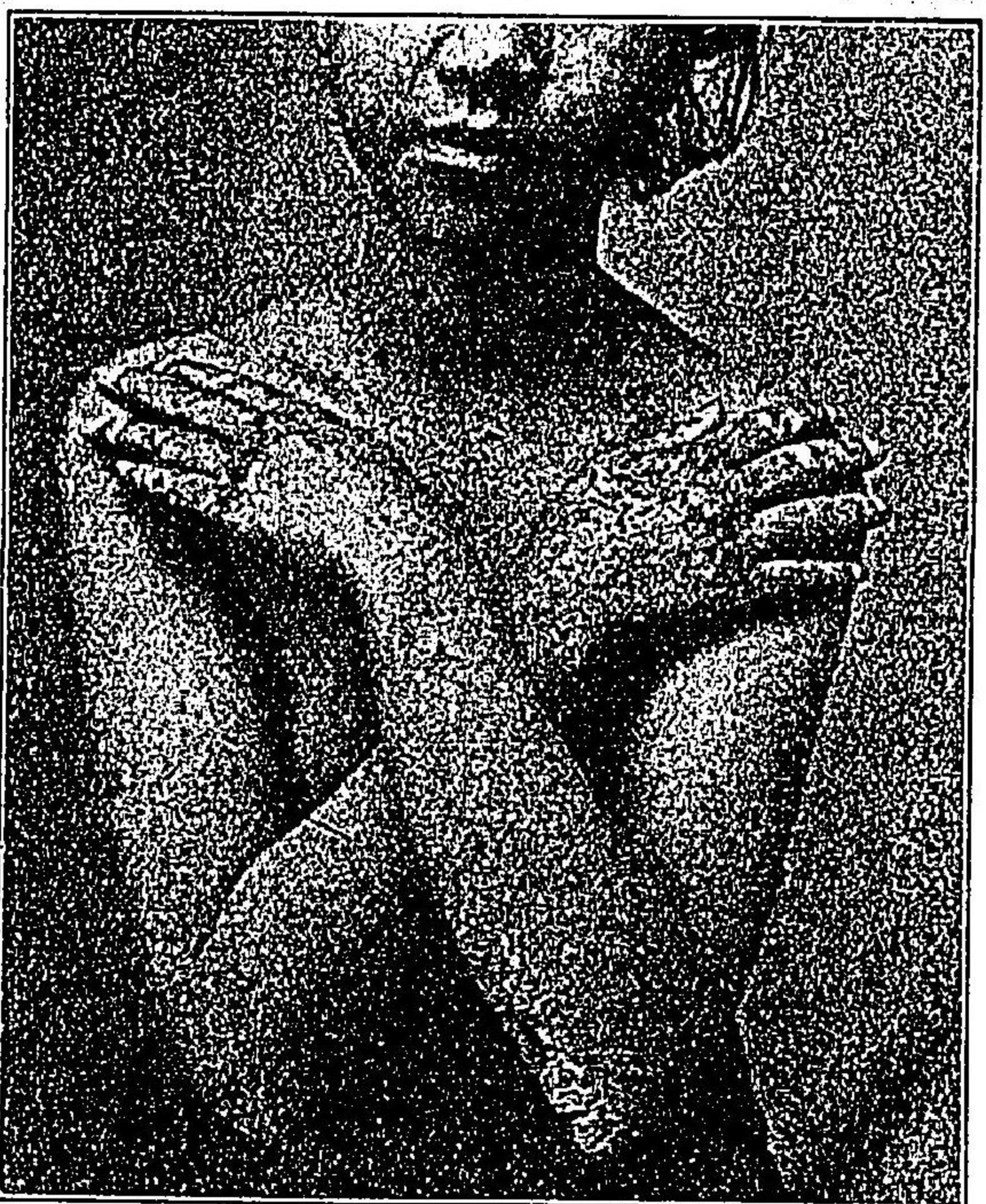
ニ肥厚スルコトアリ、時トシテ

ハ爪甲常ノ如ク、又ハ變質極メ

テ輕微ナルカ、若クハ却テ生長

ノ迅速ナルヲ認ムベシ。

經過 極メテ慢性ニシテ徐々ニ蔓延シ、終ニ全身ノ皮膚淡褐紅色ヲ帶ビ多少肥厚シテ
硬固トナリ、而シテ白鱗ヲ被レル尖圭丘疹略、毛囊ニ一致シテ遍ク全面ニ散布シ、且ツ
處々ニ局面ヲ形成スベシ。稀ニハ發生迅速ニシテ短日月ノ間ニ廣ク蔓延スルコトア



尖圭紅色苔癬

ルベシ。

要スルニ本症ノ經過長キニ從ヒ、輕重ノ差異甚シク、部位亦消長アリ。或ハ甲處ニ發シテ乙處ニ缺キ、或ハ之ニ反シ、若クハ或部分ノ發疹ハ一様ニ迅速ニ退行スルニ當リ、他部ノモノハ依然トシテ長ク存在スルコトアリ。或ハ多年ノ間僅微ノ發疹ヲ存シ、卒然増劇スルコトアリ。或ハ一時退轉シテ健全期ヲ劃スルコトアリ。或ハ消退完全ナラズシテ、多年ニ涉リ在苜治セザルコトアリトス。

自覺症狀トシテハ搔痒アリ、多クハ輕微ナルモ急性ニ發疹スル際ニ當リテハ劇烈ナルコトアリ、且ツ往々全身症狀ヲ伴フ。但シヘゾラ氏 *Hebra* ガ初メ本

症ヲ以テ致死ノ重患トナセシニ拘ハラズ、爾後ノ報告ハ經過ノ割合ニ良好ナルコトヲ言ヒ、著者ノ實驗セル數十例ノ如キ孰レモ全身障礙極メテ輕微ニ經過セリ。然レドモ本症ノ全身ニ汎發シ、特ニ多年ニ亙リテ輕快セザル場合ニアリテハ、患者漸ク羸瘦シテ、精神不安トナリ、不眠ヲ致シ、下痢止マズ、熱候往來シ、遂ニ衰弱ノ爲ニ斃ル

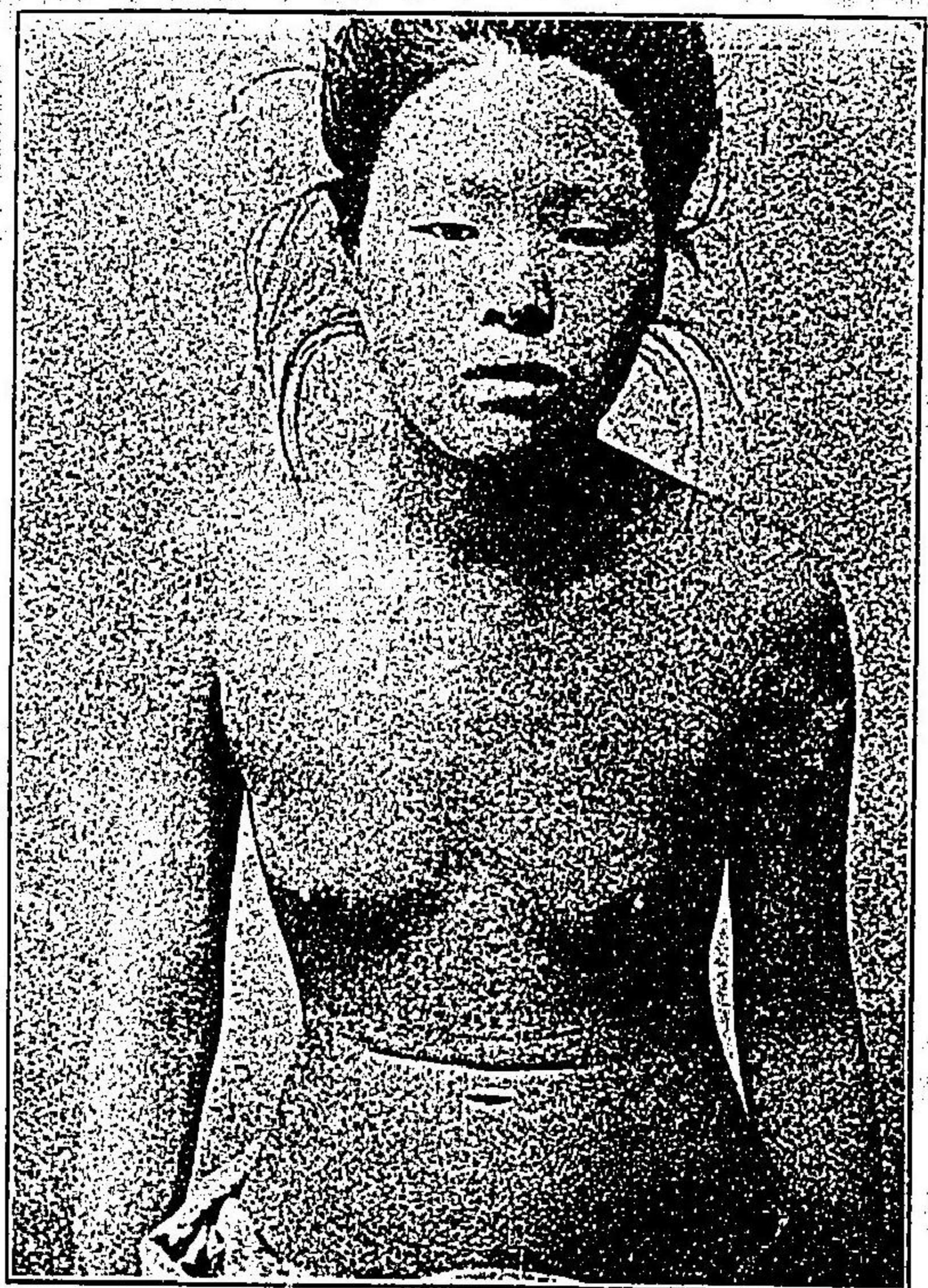
圖 五 十 九 第



ニ至ル。

解剖 丘疹ノ中心ニ著明ノ角質増殖アリテ角栓ヲナシ、擴大セル毛嚢口中ニ楔入シ、毳毛ハ縮シテ角栓中ニ存スベシ。但シ本疹ハ必シモ毛嚢ニ一致セズシテ、稀ニ汗腺排泄管及ビ肥大セル皮丘上ニ同一ノ圓錐角ヲ存スルコトアリ。種子屑ハ廣大トナリ、從ツテ其突起ノ延長ヲ致シ、乳頭體中ニハ血管擴張シ、且ツ血管毛嚢皮脂肪腺汗腺等ヲ繞リテ圓形細胞ノ浸潤アリ明カニ慢性炎症ノ徵候ヲ存ス。彈力纖維竝ニ有髓神經ハ健全ナリ。ノイマン氏 *Nummular* ハ毛根鞘ノ樹枝狀ニ分岐スルヲ認メ、他ノ諸家ハ之ヲ以テ本症ニ固有ナラズトスルモ、著者ノ所見ハノイマン氏ノ說ニ一致セリ。

圖 六 十 九 第

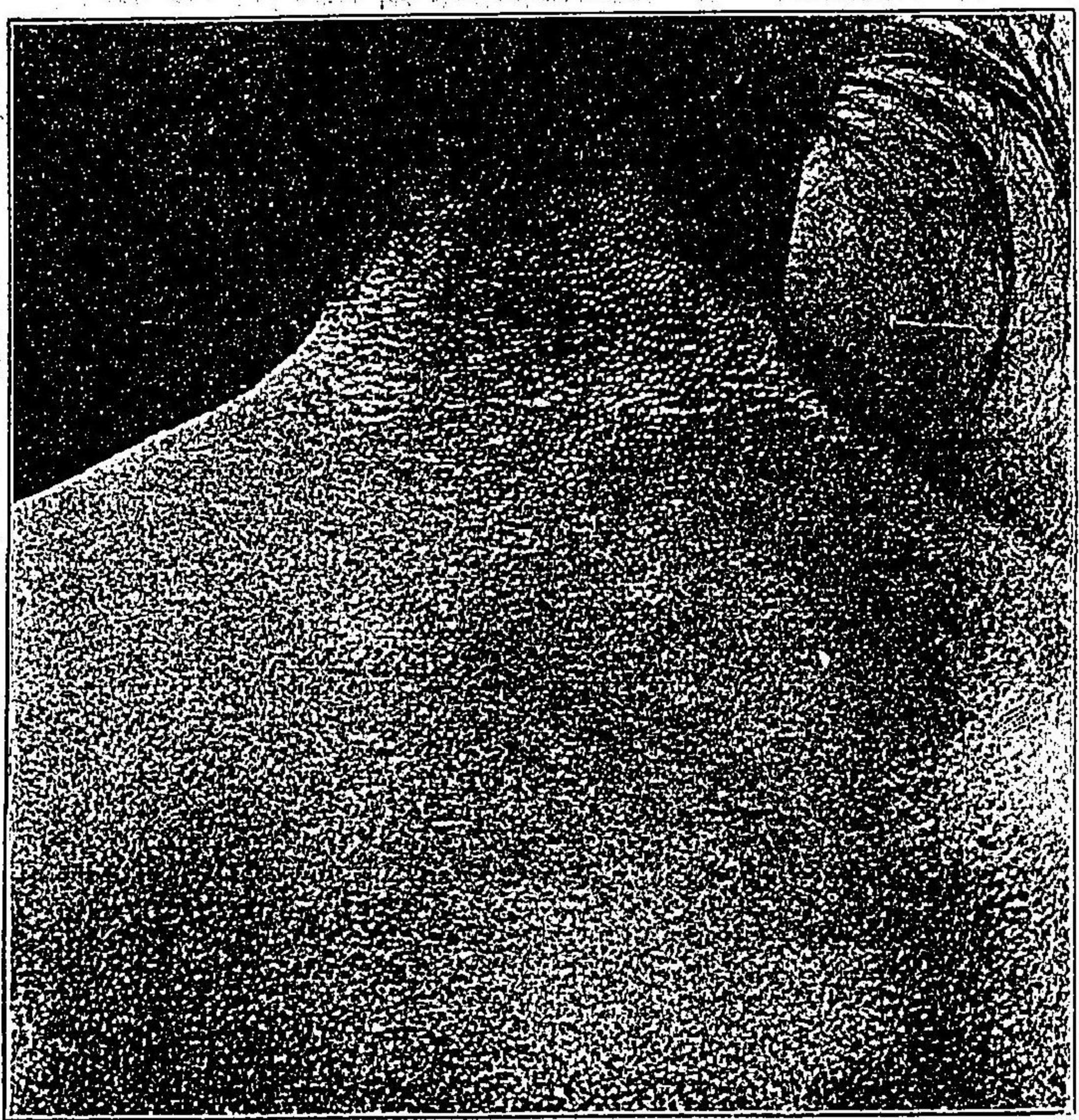


診斷 尖圭紅色ノ小丘疹圓錐形ノ角屑ヲ被ムリ、多ク毛嚢口ニ一致シテ發生シ、局面ヲ作ルノ傾向アリ。對側性ニ來リ、伸側ト屈面トヲ擇マズ、皮膚潮紅ス、搔痒アリ。

類症鑑別 扁平紅色苔癬 *L. ruber planus* ハ本症ト同症異種ニ過ギザレトモ、其臨牀上相異

ノ點ヲ舉グレバ本症ノ原疹ノ尖圭ニシテ且ツ頂點ニ鱗屑ヲ冠スルニ對シテ扁平苔癬ノ集簇面ニハ鱗屑ヲ被ムルモ單箇獨立ノ原疹ハ決シテ角化セザルモノトス。毛孔性苔癬 *L. pilaris* ハ四肢ノ外側ニ限リテ發疹シ、特ニ肩胛及臀部ノ附近ニ於テ著シ、且ツ思春期ニ於テ初メテ生ズ。魚鱗癬 *Ichthyosis* ハ汎發性角化症ニシテ、炎症性紅色ヲ缺キ、且ツ決シテ關節屈面ヲ侵サズ。幼少ヨリ發生シ生涯治セズ。尋常性鱗屑疹 *Psoriasis vulgaris* ハ銀白ノ鱗屑厚ク疊積シテ、之ヲ剝離スレバ小出血點ヲ呈シ、尖圭紅色苔癬ノ鱗屑固定シテ葉狀ヲナサズ且ツ底面全ク乾燥セルト異レリ。毛囊性濕疹 *Eccema follicularis* ノ丘疹ハ硬固ナラズシテ、早晚水疱又ハ膿疱ニ變化シ痂皮ヲ作ル。慢性單純性苔癬 *Lichen simplex chronicus* ハ

第九十七圖



皮丘ノ隆起ニヨリテ生ズルガ故ニ、丘疹菱形ニシテ、中心高ク周圍ハ低ク徐々ニ健康部ニ移行シ、局面ノ上ニハ角化ヲ認メズ、間、血痂アリ。微毒性苔癬 *L. syphiliticus* ハ頗ル本症ニ類似スルモ、丘疹常ニ環列シ、且ツ處々ニ膿疱ヲ混ズルヲ見ルベシ。搔痒ヲ缺キ、他ニ微毒ノ症候アリ。

豫後 増進ト退行ト交代シ、再發甚ダ稀ナラズ、極メテ頑症トナス。限局性發疹ハ割合ニ佳良ナルモ汎發性ノモノハ往々不良ナリ。

療法 亞砒酸ヲ本症ニ用キテ其特效アルコトヲ稱セシハ實ニヘブラ氏 *Hebra* ニ始マリ、爾後今ニ至ルマデ其聲價ヲ維持スルモ、而モ其奏效ハ扁平紅色苔癬ニ於ケルガ如ク正確ナラズ。近時著者ハアトキシールヲ代用スルニ其效力亦伯仲ノ間ニ在リ、其他カコチール酸及カコチール酸曹達ノ内服又ハ皮下注射(極量一日〇八)ヲ試ムベシ。外用ニハ角化著明ナル部分(手掌足蹠肘膝蓋下腿等)ニハ撒酸石鹼硬膏ヲ貼用シ、軀幹ニハ亞鉛華軟膏ヲ塗布ス。其他ハ扁平紅色苔癬ニ準ズベシ。

引用書目

- 1) *Hobra*, Acute Exantheme und Hautkrankheiten. I. Aufl. 1866.
- 2) *Wilson, E.*, On Lichen planus. Journal of cut. med. and dis. of the skin. 1869.
- 3) *Kopetz*, Lichen ruber acuminatus und Lichen ruber planus. Wiener med. W. 1877.
- 4) *Dewezic*, Pityriasis pilaris. Traité pratique de maladie de la peau. 1857.
- 5) *Besnier*, Observations pour servir à l'histoire clinique du Pityriasis rubra planus. Annales de D. et de S. 1889.
- 6) *Kojewi*, Über die Frage des Lichen. Archiv f. D. u. S. 1889. 21. Bd.
- Do, Noch einmal: Lichen ruber acuminatus und Lichen ruber planus. Archiv f. D. u. S. 1895. 31. Bd.

- 1. 土肥慶藏、日本皮膚病叢書圖譜第二十八表及圖解。
- 2. 土肥慶藏、扁平紅色苔癬ニ尖圭紅色苔癬ヲ併發セル患者說明(東京醫學會例會明治四二年)。
- 3. 土肥慶藏、日本皮膚病叢書圖譜第四十八表及圖解。
- 4. *Köper*, Lichen ruber monileformis, Korallenschnurartiger Lichen ruber. Archiv f. D. u. S. 1886, 18. Bd.
- 5. 土肥慶藏、日本皮膚病叢書圖譜第四十九表及圖解。
- 6. *Hobn u. Efferen*, Atlas der Hautkrankheiten. Text von Hebra. 1859. 3. Jil. p. 30.

慢性單純性苔癬 Lichen simplex chronicus.

異名 ウ・ダール氏苔癬 Lichen Vidal, 其他 Neurodermite chronique circumscripse (Bragg), Dermatitis ichenoides pruritus (Nvisser), Pseudo-Iichen (Tommasoli).

釋義 本症ハ元ト濕疹ヨリ分離セラレシモノニシテ、皮膚ノ一定部位ニ限局シテ、皮丘及皮溝粗大深刻トナリ、搔痒劇甚ナルモ濕潤ノ傾向ナキ慢性症タリ。

症候 貨幣大ヨリ手掌大ニ及ベル皮膚ノ限局面ニ於テ、菱形ノ皮丘著シク肥厚隆起シ殊ニ中心部ニ於テ密集シ、漸次周圍ニ向ツテ稀疎トナリ、遂ニ健康部ニ移行スベシ、即チ苔癬狀變化 Lichenification ヲナスモノニシテ、其表面ニハ輕微ノ落屑アリ、搔痒頗ル劇烈ニシテ、搔破ノ爲ニ處々ニ血痂ヲ被ルコトアルモ、決シテ濕潤セズ、著色ハ頸部ニアリテハ常色又ハ淡紅色ヲ呈シ、關節屈面陰部等ニアリテハ多少鼠色ヲ帶ズベシ。

部位 邦人ニハ項部ニ於テ最モ著明ニシテ、之ニ次デ股陰肘窩及膝脰ニ來ル。其他ウ・ダール氏ノ記載ニ據レバ前膊及腕關節ノ外側大腿ノ内而下腿臂部、肛裂等ニ來ルト云フ。

神經性皮膚障礙症

ツートン氏 Toulon ハ本症ノ決シテ汎發スルコトナキヲ云フモ、稀ニハ播種狀ニ現ハル、コトアリテ、甚シキハ全身ニ蔓延スベシ。斯ノ如キ汎發症ハブロック氏 Bragg 始メテ神經性皮膚障礙症 Neurodermitis トシテ記載シタルモノニシテ、四肢ノ伸屈兩面ニ來リ、殊ニ下腿ノ伸側ニ著明ナリ、且ツ往々毛囊性排列ヲ呈スベシ。著者ノ實驗セル數例ハ孰モ五十歳前後ノ男子ニシテ、顔面頭部手掌及足蹠ヲ除クノ外全身ニ汎發セリ。

經過 極メテ頑症ニシテ、常ニ數年ニ涉リテ變化著シカラズ搔破ノ爲ニ結痂シ或ハ落屑スルモ極メテ輕微ナリトス。

病源 ツートン氏 Toulon ハ本症ヲ痒疹ニ屬スベキモノトナシ、ナイセル氏 Nisner ハ依然慢性濕疹ノ一種ト做セリ、蓋シ本症ハブロック氏 Bragg ノ言ハル如ク一種ノ神經性皮膚障礙 Neurodermitis ニシテ、發疹ハ搔破ノ結果ト看做スベシ。エーホルマン氏 Ehrenann ガ本症ニハ必ズ數年間ノ消化不良又ハ便秘ノ前驅スル有リトナシテ、一種慢性ノ自體中毒ト解釋スルハ吾輩ノ實驗ト一致セズ。

本症ハ我國ニテハ我教室ヨリ太田氏始メテ報告セリ。

診斷 限局セル皮膚面ニ於テ、皮丘ト皮溝著明トナリ、常色又ハ淡褐色ヲ呈シ、濕潤セズ、搔痒劇烈ニ、經過慢性ナリ。

類症鑑別 慢性濕疹 Eczema chronicum ハ數、水疱膿疱ヲ作り、濕潤面ヲ呈スベシ、扁平紅色苔癬 Eczema simplex 慢性濕疹 Eczema chronicum ハ數、水疱膿疱ヲ作り、濕潤面ヲ呈スベシ、扁平紅色苔癬 Eczema simplex 慢性單純性苔癬

● Lichen ruber planus ハ紅色鮮明ニシテ數、中心ニ凹臍アリ、血痂ヲナサズ。痒疹 Prurigo ハ必ズ皮膚ノ伸側、殊ニ下肢ニ來リ、漿液性丘疹ヨリ成リ、痂皮アリ、膿疱アリ、且ツ幼時ヨリ存シテ、本症ノ如ク後年ニ發スルモノニ非ズ。皮膚瘙癢症 Pruritus cutaneus ハ瘙癢アリテ皮膚ニ異常ナシ。

【豫後】 極メテ頑症ニシテ、一時輕快ノ兆アルモ、反覆増悪スベシ。

【療法】 著者ハ五%焦性沒食子酸トラウマチ、ンヲ最モ稱用ス。クリザロピンハ皮膚炎ヲ起シ易キガ故ニ採ラズ。

クライビヒ氏 Kreibich ハ五十倍ノ苛性加里水ニテ腐蝕シ、濕潤面ノ乾燥スルヲ俟テ石鹼硬膏ヲ貼用シ、新ニ角層ヲ發生セバ、更ニウヰルキンソン氏軟膏ヲ塗擦シ、後療法トシテハレゾルチン、加里石鹼精各二〇黃色華攝林三〇〇ヲ貼用セリ。
レントゲン線療法ハ一時奏效スベシ。

引用書目

- 1) Finkel, Du Lichen. Annales. 1886. Vol. III.
- 2) Tautou, Über Neurodermitis chronica circumscripta. Brocq etc. Archiv f. D. u. S. 1895. Bd. 33.
- 3) Brocq, Aperçu sur les dermatoses prurigineuses et sur les anciens lichens. II. Internat. Dermatologengongress. Wien. 1892.
- 4) Weissner, Über den gegenwärtigen Stand der Lichenfrage. XI. internationaler Kongress in Bonn. Archiv. 1894. Bd. 28.
- 5) 太田英一、ウヰルキンソン氏苔癬ニ就テ(中外四三七號明治三十一年)。

第十三章

尋常性毛瘡 Sycosis vulgaris.

【異名】 鬚瘡 Bartholin 單純性毛瘡 Sycosis simplex 非寄生性毛瘡 Sycosis non parasitaria 葡萄狀球菌性毛瘡 Sycosis staphylogenes Unna 頤部瘡瘡 Acne mentagra 鬚髯毛囊炎 Folliculitis barbae.

【釋義】 硬毛ニ於ケル毛囊炎及ビ毛囊周圍炎ノ爲ニ生ズル丘疹又ハ膿疱ニシテ慢性ニ經過シ、最モ鬚髯ニ多シ、是レ鬚瘡ノ別名アル所以ナリ。

【部位】 上唇頰頤ニ於ケル鬚髯ノ部位ヲ首メトシテ、兩鬚頂部ノ髮際眉毛睫毛鼻毛腋毛陰毛ノ如キ粗硬ノ短毛ヲ侵ス。

【症候】 丘疹ハ暗紅色ヲ帶ビ、大サ小豆大ヲ超エズ、且ツ中心ニ必ズ毛幹ヲ有スベシ。發疹ハ或ハ散在シ或ハ集簇シ、隨ウテ治スレバ隨ウテ新生シ、多クハ膿疱ニ變ジ、患部ノ皮膚面ニハ多少ノ炎症性浸潤ヲ呈シ、甚シキハ丘疹膿疱密生シテ柘榴ノ實ノ如ク、且ツ膿疱ノ上ニハ黑褐色ノ小サキ痂皮ヲ固著スベシ(第九十八圖)。

皮膚ノ中心ニ於ケル毛幹ハ炎症ノ爲ニ毛囊弛緩シテ容易ニ抜キ去リ得ベキモ、毛根ハ常ニ殘存スルガ故ニ毛幹速ニ再生スベシ、稀ニハ化膿深クシテ永ク毛根ヲ傷害シ、之ガ爲ニ處々ニ小癩痕ヲ雜ヘテ生毛稀疎トナルコト間、亦之アリ。

自覺症狀ハ缺如スルモ、炎症著シケレバ皮膚緊張シテ多少ノ疼痛ヲ感ズベシ。

尋常性毛疥

三四四

【経過】 初期ニ於テ速ニ適當ノ治療ヲ加ヘザレバ慢性症ヲナシ、一弛一張數年十數年ニ涉リテ在苜尙ホ治セザルニ至リ、タトヘ一時輕快スルモ卒然復増悪スベシ、若シ自然ニ放置セバ局處ノ毛囊悉ク膿潰シテ全面荒蕪スルニ至ラズンバ止マザルベシ。

【原因】 本症ハ硬毛ノ毛囊及ビ其周圍ノ結締織ニ

於ケル炎症ニシテ、ボックハルト氏 Boeckhart (一八八

七年)ハ原因ヲ白色及黄色葡萄球菌ノ竄入ニ歸

セリ、而シテ先驅セル濕疹不潔ナル手巾又ハ剃

刀ノ使用等ハ往々細菌ノ侵入ヲ媒介スルモノ

ナリ。

【診斷】 硬毛ノ部位ニ於テ、紅キ丘疹及膿疱、散在

シ又ハ集簇シ、各疹ノ中心ニハ毛幹アリ、搔痒ヲ

缺キ、慢性ニシテ多年治セズ。

【類症鑑別】 寄生性(白癬性)毛瘡 Sycosis parasitaria s. tri-

chophytina ニアリテハ毛根ヨリ白癬絲狀菌 Tricho-

phyton tonsurans ヲ證明シ得ベク、觸接傳染性ニシテ、急性ニ發生シ、瘡面ハ圓形ニ隆起

シテ蜂窠狀ヲ成シ、浸潤深ク、疼痛アリ、搔痒亦著シ。毛瘡狀濕疹 Eccema sycosiforme 皮膚ニ

炎症潮紅アリ、丘疹又ハ膿疱ノ多クハ此潮紅面ニ發生シテ健康部ニ孤立スルモノハ

少ク、且ツ硬毛ト相關セズ、搔痒劇烈ナリ、尋常性膿瘡 Impetigo vulgaris ハ孤立セル膿疱



第九十八圖

ヲ作ルコト毛瘡ニ似タルモ、痂皮ハ淺クシテ大ニ且ツ蠟黃色ヲ帶ビ剝離シ易シ。微毒性丘疹 Syphilis papulosa ハ部位相近キモ、硬毛部以外ニモ亦發生シ、銅紅色ニシテ較扁平ニ、好ンデ環狀ニ配置ス、經過割合ニ速カニシテ、殊ニ驅微療法ニ依リテ容易ニ治スベシ。帶狀疱疹 Herpes zoster ノ紅疹ハ神經痛ヲ伴ヒ、急性ニ經過ス。

【療法】 本症ハ初期ニアリテハ治シ難カラザルモ慢性ニシテ數年ニ涉ルモノハ治療モ亦長時日ヲ要スベシ。

【療法】 急性症ニアリテハ患部ノ硬毛ヲ短ク刈リ、慢性症ニアリテハ剃去シ若クハ毛ぬきヲ用キテ一々病毛ヲ拔去ルベシ。痂皮ハ溫器法(2%レゾルチン水)硼酸水又ハ油脂類ヲ用キテ軟和セシメ、然ル後濕疹療法ニ準ジテ亞鉛華膏又ハ2%赤降汞軟膏ヲ塗布スベシ。深膿疱アラバ切開シ又ハピク氏硬膏ヲ貼用ス。慢性症ニハ我が爹兒軟膏ノ一日一回又ハ二回ノ塗擦最モ他方ニ優レルヲ認ムルモ、尙ホ再發ヲ防ギ難シ。此他一二用ユベキ處方ヲ舉グレバ左ノ如シ。

處方 單寧 五〇 硫黃華 一〇〇 亞鉛華 澱粉 各一七〇

華攝林 五〇〇

右外用

處方 5%水銀油 二八〇 華攝林 一五〇 亞鉛華 澱粉 各七〇

いびちおーる 一〇 水楊酸 一〇

右外用

尋常性毛疥

三四五

尋常性毛瘡

三四六

處方 硫黃華 一五〇

亞鉛華 五〇

酒精

備里施林

各二五〇

右アイヒホッフ氏方 Eschhoff

レントゲン線療法ハレントゲン管ノ距離ヲ大ニシテ(約三十仙米放射時間ヲ短クシ(約十分間)使用スル時ハ數根治ノ效アルベシ)

引用書目

1) 土肥慶藏、日本皮膚病圖譜第六表及圖解。

2) Boeckert, Ueber die Aetiologie und Therapie der Impetigo, des Furunkels und der Sykosis. Monatshefte f. pr. D. 6. 141. 1887.

尋常性座瘡 Acne vulgaris.

異名 若年座瘡 Acne juvenilis.

釋義 妙齡ノ男女ニ於テ顔面其他ニ發生スル急性多發性毛囊炎ニシテ化膿ノ傾向ヲ有シ、經過慢性ニシテ新舊相依リ多形ヲ成ス。

症候 針頭大乃至小豆大ノ紅疹或ハ淺ク或ハ深ク真皮中ヨリ發生シテ、尖頂ニ黃色ノ膿點ヲ露ハシ、周圍ニ紅暈アリ、膿疱性座瘡 Acne pustulosa) 尋デ膿點排出セラレテ小痂ヲ結ブト共ニ、炎症減退シテ膿痂隨ウテ脱落シ、一二週ノ後ニハ紅疹全ク消失シ一時色素ノ沈著ヲ遺シテ治ス。若シ丘疹較大ニシテ中心ノ化膿著シキトキハ細小ノ癩痕ヲ遺スベシ(座瘡癩痕 Achenarthen) 炎症深キトキハ容易ニ膿潰セズシテ豆大暗紅色ノ

膿疱性座瘡

座瘡癩痕

硬結性座瘡

面皰

點狀座瘡

硬キ浸潤ヲ呈スルコトアリ(硬結性座瘡 Acne indurata) 稀ニハ數箇ノ座瘡真皮中ニ於テ融合シテ潰瘍ヲ成シ著明ノ癩痕ヲ結成シ、往々ニシテ癩痕息肉ヲ生ズ。

經過 各箇ノ座瘡ハ長クモ數週ニシテ治癒スト雖モ、隨ウテ消失スレバ隨ウテ發生スルガ故ニ、數月數年ヲ經テ尙ホ未ダ全治セザルコトアリ。大小新舊ノ丘疹及ビ膿疱、色素沈著及ビ癩痕ト相雜處シテ極メテ多形ヲ成スベシ之ニ加ウルニ患者ノ多クハ面皰 Comedo) ヲ併發シ、胡麻ノ如キ黑點ノ毛囊口ヲ充填スルアリ(點狀座瘡 Acne punctata) 且ツ常ニ油性及乾性脂漏ヲ伴ヒ、皮膚滑膩ニシテ益々容貌ヲ損スベシ。

第九十圖



部位 主トシテ顔面及胸背ノ上方ニ發生ス、顔面(第九十九圖)ニテハ特ニ前額、額、頰邊ニ來リ、背面(第一百圖)ニ在リテハ肩胛骨間、胸壁ニ在リテハ胸骨上ニ最モ多シ、爾餘ノ部位ニ來ルコトハ絶無ニシテ、設令僅ニ有リトスルモ極メテ微ナリ。本症ハ人ニヨリテ輕重アリ、同一人ニアリテモ時ニヨリテ消長アリ、輕症ニアリテハ

尋常性座瘡

三四七

僅ニ數箇ノ丘疹散點スルニ過ギザルモ、強度ノ症ニアリテハ、發疹密生シテ悉ク前記ノ部位ヲ侵シ、面皰及ビ癩痕ヲ混ジテ極メテ醜形ヲ呈スベシ。

本症ハ男女兩性ニ來リ、小兒期ニ發生スルハ極メテ稀ニシテ、大抵思春期ニ於テ現ハレ、十四五歳ヨリ二十歳ノ間ニ最モ著シ、多クハ數年ノ間ニ消失シ、稀ニハ高齡ニ達スルマデ往苜治セザルコトアリ、又壯年ヲ過ギテ始メテ發生スルコトアリ、此際ニハ數、酒、皸Rosaceaヲ伴フ。



【解剖】毛囊孔ノ内壁ヲ被ヘル上皮細胞ハ深部マテ角化シ、毛囊中ニハ角質及ビ皮脂ヨリ成ル所ノ栓塞即チ面皰ヲ有シ、又ハ單ニ角化セル表皮細胞及ビ屈曲セル毳毛ニヨリテ充填セラル。之ト同時ニ膿球ハ排泄管及ビ脂腺腔ニ游走シ(毛囊炎、Folliculitis)、延イテ脂腺ノ周圍組織中ニ及ビ(毛囊周圍炎、Perifolliculitis)脂腺ヲシテ

一ノ膿瘍ニ變ゼシムルニ至ル。

【原因】痤瘡ノ素因ヲナスモノハ第一ニ脂漏質ニシテ、特ニ青年期ニ達スレバ皮脂管ニ量ニ於テ増加スルノミナラズ質ニ於テモ亦變化ヲ來シテ顔面ノ脂ざる油性脂漏ヲ見ルナリ。次ハ角化異常ニシテ毛囊壁上皮ノ角化、面皰ノ形成、毳毛ノ肥大等ハ其證左タリ。是等ノ素因ハ化學的及器械的ニ毛囊ヲ刺戟スルモノニシテ、體質榮養疾病ニ依リテ輕重アリ。肥胖、貧血、萎黃病、婦人生殖器障、月經酒類嗜、食料等ハ屢之ヲ催進スベシ。殊ニ消化異常ノ爲ニ腸管内ニ發生スル化學的物質ハ往々々脂腺ニ由リテ排泄セラルベク(自體中毒、Autointoxication)隨ツテ毛囊ニ刺戟ヲ加ウル重要ナル原因ノ一タルベシ。

痤瘡桿菌
脂漏小球菌
酪性白色葡萄狀球菌

細菌ノ發生ハ更ニ痤瘡ノ形成ヲ幫助スベシ。但シ從來發見セラレタル細菌ノ種類竝ニ之ト痤瘡トノ原因的説明ハ一様ナラズ。ウツナ氏 *Uina* ハ痤瘡桿菌、*Aenechillus* ナルモノヲ記載シテ其毒素ニヨリテ毛囊壁ヲ刺戟シ肥大性炎症ヲ起スト爲シ、サブロウ氏 *Schourmüt* ハ脂漏小球菌、*(S.O.C.)* ト稱スル桿菌ニヨリテ先ヅ脂漏ヲ誘起シ面皰ヲ生ジ、之ニ酪性白色葡萄狀球菌、*Staphylococcus albus butyrivius Schourmüt* 續發的ニ感染シテ痤瘡ヲ來ストナセリ。但シサブロウ氏脂漏小球菌トウツナ氏痤瘡桿菌トハ同一菌ナルニ似タリ。然ルニロムリイ氏 *Lenny* ハウツナ氏菌ノ痤瘡膿中ニ於ケル存在ヲ否認シ、且ツ面皰中ニモ偶然寄生スルニ過ギズトナシ、却テ痤瘡患者及ビ他ノ皮膚上ニ於テ常ニ發見スル白色葡萄狀球菌ヲ以テ痤瘡ノ化膿ヲ來ス原因トナセリ。

【豫後】青年期ヲ過グレバ自ラ治癒スベキモ、一消一長シテ美貌ヲ害シ、患者ニ不快ノ感ヲ與フ。又數、癩腫ヲ生ジ及ビ酒皸ヲ續發スベシ。

【診斷】部位一定シ(顔面胸背ノ上方)丘疹ノ中心ニ膿點アリ、面皰癩痕色素沈著皮脂漏等ヲ併發シ、青年期ニ來リ、慢性ニ經過シ、自覺症狀ヲ缺ク。

【類症鑑別】丘疹膿疱性微毒 Syphilis papulopustulosa 扁平ニシテ較大ニ著色遙ニ濃厚ナリ、且ツ身體ノ各處ニ發生シ、顔面ニ於テモ好シ、髮際鼻唇溝眼瞼眼背鼻腔口角頤部等ニ發生スルニ反シテ、瘡瘡ハ之ヲ除外セル鼻頭前額頰邊ノ部位ニ主トシテ占據スベシ、此他微毒疹ハ常ニ集合シテ環狀ヲナスノ傾向ヲ有ス、微毒性瘡瘡 Acne syphilitica ト稱スルモノハ主トシテ被髮部ニ生ズル小膿疱性微毒疹ヲ謂フ、沃度瘡瘡 Acne jodica 一時ニ發生スルガ故ニ、各疹皆同一ノ状態ヲ呈シ、鮮紅色ニシテ紅暈大ニ且ツ身體ノ各處ニ散發シ、癩痕ヲナサズ、癰腫 Furunculis ハ多クハ單獨ニシテ一時ニ多發セズ、炎症性紅暈著シク且ツ速ニ増大シ、疼痛甚シク數、熱發スベシ、結核疹 Tuberculide ハ瘡瘡ニ比スレバ慢性ニシテ變化少ク、色淡ク黃褐色ヲ帶ビ、柔軟ニシテ小サキ壞疽ヲ作シ易シ。

【療法】各箇ノ瘡瘡ヲ治スルハ易キモ、其續發ヲ豫防スルハ難シ、治療ノ目的ハ主トシテ後者ニ存スベシ。

全身療法トシテハ素因ニ注意シ、第一ニ消化器障礙(消化不良胃擴張常習便秘慢性下痢等)ヲ除クベシ、下劑ニハ峻下劑ヲ避ケテ緩下劑ヲ選ムベシ、殊ニ硫黃劑ハ兼テ腸管内ノ發酵ヲ制止スルノ利アリ。

處方 精製硫黃 若干量

右朝夕一茶匙宛分服

處方 精製硫黃 茴香末 各一分 旃那末 甘草末 各二分 白糖 六分

右複方甘草散、每食前一瓦宛内服

多量ノ牛乳飲用モ亦數、效アリ、此他麥酒酵母 Bierhefe (一茶匙乃至一食匙宛、每食時又ハ之ヨリ製出セルチエロリン丸、每食後二粒宛)ノ内服ヲ試ムベシ、近時岡崎氏ガ酒酵母ヲ用キテ製出シタル新劑ハ效力前者ニ比シテ更ニ確實ナルヲ認ム。

貧血腺病質等ノ患者ニ對シテハ亞細亞丸、砒鐵丸アルゼンフラトーゼ、ヨードフラトーゼ等ヲ處方シ、又鹽湯溫泉浴等ヲ命ズベシ。

特ニ注意スベキハ食餌ニシテ、辛辣ノモノ、脂肪ニ富ムモノ、不消化ノモノ等ハ之ヲ避クルニ利アリ。

局處療法ハ先ヅ面皰ヲ除クベシ、其方先ヅ加里石鹼精ヲ綿ニ浸シテ皮膚ニ塗布シ、次に面皰壓出器 Comedopresscher ヲ用キテ面皰及ビ瘡瘡ノ内容ヲ壓出スベシ、筆ノ軸簪ノ耳かきノ類ヲ代用スルモヨシ。

外用藥ニハ昇汞硫黃レゾルチンチオノール(下山氏)テグノール(ロッヘ氏)最モ良シ、或ハ溶液又ハ乳劑トナシ、若クハ軟膏泥膏ノ類ニ和シテ用ユ、蓋シ患者ニヨリテ皮膚ノ性質同ジカラズシテ、極メテ過敏ノ者寡カラザルガ故ニ、絶エズ注意ヲ怠ルベカラズ、又昇汞ヲ用キル時ハ硫黃ノ兼用ヲ忌ミ、硫黃ヲ用キルトキハ豫メ鉛分ヲ含メル顔料ヲ廢スベシ、蓋シ毛孔中ニ黒キ硫化鉛ヲ沈著スルガ故ナリ。

尋常性瘰癧

三五二

- 處方 昇汞 〇・二 亞刺比亞護膜 五〇 偲利施林 五〇
 苦扁桃水 二〇〇 酒精 二五〇 餾水 一〇〇〇
 右畫間塗布
- 處方 昇汞 〇・二 亞鉛華 偲利施林 各一〇〇 苦扁桃水 三〇〇
 餾水 一五〇〇
 右同上
- 處方 硫黃華 一五〇一〇〇 偲利施林 一〇〇 かんふる丁幾 三〇〇
 薔薇水 五〇〇
 右川時振盪シテ筆ニテ塗布スベシ
- 處方 硫黃華 一二〇 かんふる 一〇 護膜漿 六〇
 石灰水 ろしせ水 各一〇〇〇
 右クンメルフルド氏液、毎夕一回振盪液又ハ沈澱物ヲ塗布ス
- 處方 硫黃華 四〇 亞鉛華 六〇 滑石 偲利施林 餾水 各一〇〇
 右毎々塗布
- 處方 ウルソン氏軟膏 三〇〇 硫黃華 三〇
 右外川
- 處方 刺納林膏(土肥方) 三〇〇 ちをのゝる 三〇
 右朝夕瘰癧上ニ薄ク塗布ス

剝離軟膏

頑症ニ對シテハ左ノ剝離軟膏 Schälpasten ヲ應用スベシ、其用法ハ毎日一時間宛厚ク塗布シ、數日ヲ經テ表皮ノ黒褐色ニ變ジテ剝離スルニ至レバ一旦中止シ、其上ニ亞鉛華軟膏ヲ貼用ス。

- 處方 べたなふごゝる 一〇〇 硫黃華 五〇〇 華攝林 二〇〇
 加里石鹼 二〇〇
 右ラッサール氏方 Lassart
- 處方 べたなふごゝる かんふる 華攝林 各一〇〇 白堊 五〇
 加里石鹼 一五〇 硫黃華 五〇〇
 右オステルライヒ氏方 Osterlich
- 處方 れぞるちん 撒里矢兒酸 硫黃華 澱粉 亞鉛華 各四〇
 華攝林 二〇〇
 右エスチル氏方 Eschur
- 處方 べたなふごゝる 撒里矢兒酸 れぞるちん 各五〇
 澱粉 硫黃華 華攝林 加里石鹼 各二五〇
 右ベニエー氏方 Benier

疼痛アル膿腫ヲ生ゼバピク氏硬膏、亞鉛華バラブラスト、撒里矢兒酸グッタブラスト等ヲ貼用シ、又ハピール氏鬱血療法ヲ施シ、若クハ切開ヲ要スルコトアルベシ。

尋常性瘰癧

三五三

引用書目

- 1) Unna, Akne. Histopathologie der Hautkrankheiten. 1894.
- 2) Sabouraud, La sechorrhoe et la pelade. Annales de l'Institut Pasteur. 1897.
- 3) Lowry, Ueber die Aetiologie der Acne. Dermatol. Zeitschrift. 3. Bd. 1896.

痘瘡狀瘰癧 Acne varioliformis.

異名 壞疽性瘰癧 Acne necrotica 前額瘰癧 Acne frontalis (Hebra), 毛孔瘰癧 Acne pilare (Bazin).
定義 一定部位ニ生ズル毛囊炎ニシテ中心淺ク壞疽ニ陥リ、痂皮脱落スレバ痘瘡様ノ瘰癧ヲ印ス

症候 原疹初メハ鮮紅ニ後ニハ黃褐色ヲ呈シ、大サ瓜核大ヨリ豌豆大ニ及ビ、中心ニ小膿疱ヲ生ジ若クハ乾痂ヲ結ビテ深ク陥没シ、繞ラスニ炎症性浸潤ヲ以テシ宛然痘瘡ニ似タリ、而シテ痂皮數日ヲ經テ離脱スルト共ニ、長ク圓形豆大ノ瘰癧ヲ遺スベシ。

經過 是ノ如キ小疹前後相踵テ發生シ、數年ニ涉リテ瘰癧倍、加ハリ、爲ニ著シク顔容ヲ損シテ長ク患者ニ不快ノ念ヲ抱カシム、而シテ男女共ニ中年ニ於テ始メテ現ハル

部位 前額ノ髮際ヲ主トシ(前額瘰癧 Acne frontalis) 額顙部ヨリ頬邊ニ及ビ又被髮部ニ散在シ、稀ニハ胸壁背面ニ傳播ス。

自覺症狀 ハ全ク缺如ス。

診斷 毛漢ノ上方ニ於テ炎症性浸潤アリ、壞疽ハ表皮及ビ真皮ノ淺層ニ止マル、而シテ壞疽

前頭瘰癧

性浸潤部竝ニ其附近ニ於テハ毛細管ノ栓塞スルヲ認ム。皮脂腺汗腺等ハ健全ナリ。

原因 細菌感染説ヲ唱ウル者アルモ確定セズ、多クハ青年期以後ニ來ル。

瘰癧後 瘰癧形成ノ容貌ニ關係アルノ外害ナシ。

診斷 部位中心ノ乾痂、痘瘡様ノ瘰癧、中年ノ發生等ニ據ルベシ。痘瘡様瘰癧ト壞疽性瘰癧トヲ區別スル者アルモ、部位經過等ニ於テ特異ナル差異ヲ認メズ。

類症鑑別 微毒疹 Syphilideノ前頭部ニ發生スルモノ、特ニ其膿疱疹ハ間、瘰癧ヲ遺スニヨリテ本症ニ類似スルモ、著色濃厚ニシテ銅紅ヲ呈シ、且ツ發疹集合シテ常ニ輪狀又ハ弧線ヲ劃スルノ傾向アリ、尋常性瘰癧 Acne vulgarisモ亦間、著明ノ瘰癧ヲ殘スコトアルモ、部位前額ニ限局セズシテ寧ロ頬邊ニ密生スベシ。

療法 撒里矢兒酸石鹼硬膏、硫黃華軟膏等ヲ貼用スベシ。ヘブラ氏 Hebraハ數本症ト胃腸症トノ關係ヲ説ケルガ故ニ食餌ニ注意シ、飲酒ヲ禁ジ、鹽泉ノ内服ヲ命ズルモ徒勞ニアラザルベシ。

人工的瘰癧 Acne artificialis.

化學品例ヘバ、參兒參兒瘰癧 Acne (nit.)、石油華攝林巴拉賓、焦性沒食子酸、クリサロピン等ヲ取扱フノ際、特ニ四肢ノ伸側臂部等ニ於テ瘰癧ニ似タル毛囊炎ヲ來ステ謂フ。

沃度疹 Acne jucka 臭素疹 Acne bromicaノ如キモ亦之ニ編入スルヲ得ベシ。

人工的瘰癧

參兒瘰癧

酒 皰 Rosacea.

異名 酒皰性瘰癧 Acne rosacea.

釋義 血管ノ擴張ニヨリテ生ズル顔面ノ潮紅ニシテ兼テ脂腺及ビ真皮ノ肥大ヲ續發スルン。

部位 鼻尖ニ來ルコト最モ多シ故ニ酒皰鼻又皰鼻あかはな又ざくろはなノ稱アリ又前額頰邊及頤部ニ生ズ。

酒皰鼻又皰鼻
酒皰第一度
酒皰第二度又酒皰性瘰癧
酒皰第三度又鼻瘤

症候 顔面ニ於テ限局性又ハ散漫性ニ發赤シ鮮紅色乃至暗紅色ヲ帶ビ寒暖ノ著シキ變化ニ由リ又ハ酔飽ノ後ニ於テハ著色殊ニ濃厚ナリ而シテ潮紅面ニハ毛細管及ビ靜脈ノ擴張シテ蜘蛛網ノ如クナルヲ識別シ得ベシ之ト同時ニ患部ニ於ケル皮脂ノ分泌著明トナリ油狀又ハ枇糠狀ヲナスベシ之ヲ酒皰第一度 Rosacea I^{um} Grades ト稱シ數月乃至數年間略同一狀態ニ止マルノ後次第ニ消失シ若クハ更ニ其部ニ瘰癧ヲ續發シテ益潮紅ノ度ヲ加ヘ殊ニ鼻頭ニアリテハ毛囊孔擴大シテ漏斗狀ヲナシ壓迫スレバ盛ニ皮脂ヲ排泄スベシ之ヲ酒皰性瘰癧 Acne rosacea 又酒皰第二度 Rosacea II^{um} Grades ト稱ス。

酒皰第三度 Rosacea III^{um} Grades 卽チ鼻瘤 Rhinophyma トハ最モ高度ノ症ニシテ眞皮ノ結締織肥厚シ鼻頭之ガ爲ニ或ハ平等ニ肥大シ或ハ大小ノ結塊ヲ生ジ累々下垂シテ口唇ヲ掩フニ至リ若クハ鼻根ヨリ延イテ眉間竝ニ頰邊ニ及ンデ肥厚スルコトアリ。

其質柔軟ニシテ弾力性硬度ヲ有シ表面ニハ脂腺口開大シテ幾多ノ凹陷ヲ作り外觀宛モ柚皮ノ如ク且ツ決シテ潰瘍ヲナサズ(第一圖)。

經過 極メテ緩慢ニシテ多年ニ互リテ益著明トナリ又ハ自然ニ消失スベシ鼻瘤ハ邦人ニハ稀ナリ。

解剖 乳頭ノ血管ハ擴張シ脂腺

排泄管ノ細胞ハ深部マデ角化

シ脂腺ハ著ク肥大シテ十數倍 第

ニ及ブ鼻瘤ニ就テハ少ヘブラ

He. Hehn¹⁾ ミ²⁾ サール Lassus³⁾ 其他 百

ノ諸氏ハ血管、脂腺及結締織ノ

新生ヲ説クモソハ事實ニアラ

ズ脂腺ハ周圍ニ炎症浸潤ヲ有

シテ往々膿潰シ肉芽組織ヲ生

ジテ遂ニ瘢痕ニ變ズルモノア

リ而シテ高度ノ酒皰ニアリテハ眞皮結締織ノ慢性浮腫及ビ肥大ヲ呈スルヲ認ム此他脂腺排泄管中ニハ球菌及桿菌ヲ含ムモ葡萄狀球菌ヲ存セズ(著者)。

論 之ヲ要スルニ本症ハ一種ノ血管神經障礙ニシテカボシイ氏 Koppanyi⁴⁾ 之ガ爲ニ榮養異常ヲ生ジ脂腺ノ分泌過多及肥大竝ニ分泌物ノ變性ヲ來シ更ニ細菌ノ侵入ニヨリ續發的



ニ炎症ヲ招クモノナルベシ(著者)

原因 一様ナラズ酒鼓ハ、婦人ニ多ク生殖器機能月經不調、妊娠子宮病等ト關係アルモノ、如シ。其他男女共ニ消化器障礙(慢性胃加答兒胃擴張常便秘貧血萎黃病等ニ伴ウコトアリ、又大酒家ニ多シ。特ニ鼻瘤ハ歐洲ニ於テハ馭者馬丁等ノ之ニ罹ル者頗ル多キヲ目撃スルモ、邦人ニアリテハ甚ダ稀ナリ。蓋シ主トシテ酒量ノ少ナキニ由ルナルベシ。

診斷 部位顔面ニ限り、血管擴張ニ基ケル潮紅ノ他表面ハ平滑ニ或ハ油脂ヲ帶ビ或ハ微ニ落屑シ、若クハ瘰癧ヲ存スベシ。鼻瘤ハ表面滑澤ニシテ潰瘍ヲ生ゼズ、柔軟ニシテ擴大セル脂腺ヲ存ス。自覺症ナシ。

類症鑑別 鼻硬腫 Rhinoskleroma ハ鼻硬腫桿菌ノ爲ニ起ルモノニシテ鼻孔ヨリ發生シテ數、咽喉粘膜ニ及ビ其質極メテ硬固ニシテ柔軟ナラズ、尋常性狼瘡 Lupus vulgaris ハ潰瘍アリテ痂皮ヲ生ジ狼瘡疹アリ護謨腫 Gumma モ潰瘍ヲ呈シ易ク且ツ周圍ノ浸潤硬クシテ壓迫スレバ疼痛アリ、ワッセルマン氏血清反應陽性ナルベシ。紅斑性狼瘡 Lupus erythematosus 中心ニ必ズ癩痕様萎縮ヲ見ルベシ。紅斑性濕疹 Eczema erythematosum ハ潮紅散漫性ニシテ丘疹アリ小水泡アリ又ハ濕潤面ヲ呈シテ搔痒著シ。

豫後 適當ノ療法ヲ持長スレバ治癒シ得ベシ。

療法 勉メテ原因ノ除去ヲ圖リ又酒ト番椒ノ類ヲ禁シ、局處ニハ瘰癧アラバ壓榨シテ皮脂ヲ排出シ、擴張セル血管ニハ亂切法又ハ電氣分析術ヲ施スベシ。鼻瘤ハ切除縫合ス。外用藥ニハ硫黃、チオノール(下山氏)イヒチオール等ヲ可トス。

處方 ちおのーる 四〇 亞鉛華 澱粉 各一〇〇 偏利施林 一五〇

留水 五〇〇

右毎夕塗布

處方 硫黃華 一〇 樟腦精 刺賢堉兒精 各二〇 香水 四〇

留水 六〇〇

右毎夕塗布

本間氏ノ查鼻膏ハ一種ノ剝離膏ニシテ四五日毎ニ一回塗布スベシト云ヘリ

處方 硫黃 乳香 巴豆 輕粉 等分

右四味爲レ末、蜜煉以傳患處

引用書目

- ① 土肥慶藏、日本皮膚病微菌圖譜第三十九表及圖解。
- ② Dohi, Ein Beitrag zur Kenntnis des Rhinophyma. Archiv f. D. u. S. 37. Bd. 1896.
- ③ 本間支調、婦科秘録卷五(天保八年版)。

頭部乳頭狀皮膚炎 Dermatitis papillaris capillitii Kaposi.

異名 瘰癧息肉 Acne cheloidique (Razin), 覆盆子様毛瘡 Sykosis frambesiformis (Hebra), 項部息肉 Nackenkneid (Pillizer, Unna), 硬化性項部毛囊炎 Folliculitis nuchae sclerotisans (Elsmann),

釋義 項部及後頭ニ於テ毛囊炎ニ次デ息肉様ノ結締織硬變ヲ呈スル症ヲ謂フ。

頭部乳頭狀皮膚炎

症候 部位一定シテ必ず項部ノ髮際ニ近ク發生シ、其輕キモノニアリテハ僅ニ數箇豆大ノ瘡瘡散點シテ、中心化膿シ、周圍ニ多少ノ硬結ヲ認ムルノミ、既ニシテ漸ク其數ヲ加フルト共ニ、眞皮中ニ於テ相融合シテ益々皮膚ノ硬結ヲ致シ、或ハ横サマニ連結シテ索狀ヲナシ、或ハ集合シテ大小不同ノ腫瘍ヲ形成シ、或ハ肝臓腫ノ如ク扁平ニ隆起スルニ至リ、項部ヨリ延イテ後頭ノ全面ニ互ルコトアリ。

此際皮膚ノ表面ハ暗紅色ヲ呈シ、若クハ常色ヲ帶ビ、平滑ニシテ光澤アリ、毛根荒蕪シテ毛幹漸ク稀疎トナリ、幾ド赤禿ヲナスニ至リ、只數處ニ於テ深ク漏斗狀ニ陷凹セル毛囊口ヨリ數幹ノ硬毛ヲ抽出スルアルノミ、宛モ冬枯レノ野ニ幾叢ノ灌木ノ生ヘ殘レルニ似タリ、附近ニハ尙ホ豆大ノ瘡瘡散在シテ半バ痂皮ヲ被ムリ、壓迫スレバ膿血ヲ排泄スベシ、而シテ消息子ヲ以テ膿瘍ノ深ク腫瘍中ニ潜在スルヲ探知シ



第 二 百 二 圖

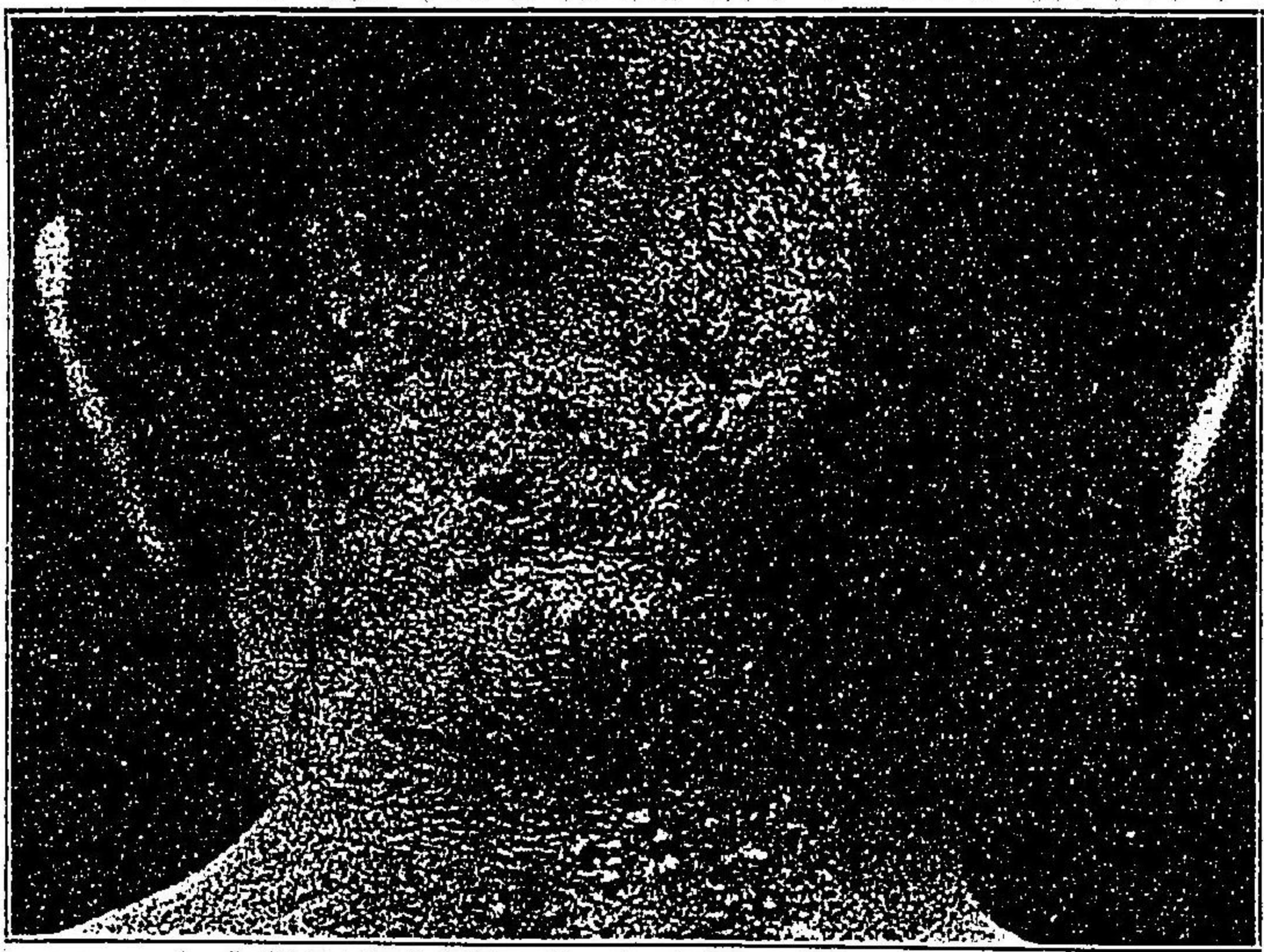
得ベシ(第百二及百三圖)。

経過 極メテ慢性ニシテ數年ニ涉リテ徐々ニ發育スベシ、但シ輕症ニ止マリテ増劇セザルコトアリ、患者多クハ痛痒ヲ感ゼザルモ、時ニ緊張ノ感アルベシ。本症ハ男子ニノミ發生スト謂フモ、余ハ女子ニ於テモ亦之ヲ實驗セリ(第百四圖)。但シ男子ニ比シテ更ニ稀有ナリトス。大抵中年以後ニ發シ殊ニ強壯肥滿ノ者ニ來ルコト多シ。

譯註 カボシイ氏 Kaposi (一八六九年)ノ始メ

テ頭部乳頭狀皮膚炎ヲ記述スルヤ、其病原ヲ眞皮ニ求メテ一種特發ノ慢性皮膚炎ニ結締組織新生ト看做シ、本症ト毛囊炎トノ直接關係ヲ否認セルハ恐ラクハ本症ト別種ニ屬スルナランカ。吾輩ノ所見

本症ハ之ヲ臨牀的症候及ビ解剖的所見ニ照シテ本症ノ毛囊及ビ其周圍組織ヨリ發生スルモノタルハ疑ヲ容レズ、即チ初期ニアリテハ著明ノ炎症性浸潤毛囊ノ全長ニ於テ其内外ニ限局シ、毛囊炎期、其浸潤ハ著者ノ例



第 三 百 三 圖

ニアリテハ殆ト全クプラスマ細胞ヨリ成リ、又白血球及ビ巨噬細胞ヲ混ゼリ。進行セル病
症ニアリテハ毛嚢ノ周圍ニ於テ粗大ノ纖維ヨリ成レル結締織ノ漸ク新生増殖スルヲ認
ムベシ(息肉形成期)。

備註 本症ガ瘡瘡ト關係アルハ著者ノ一例ニ於テ顔面ノ酒敏性瘡瘡ニ伴ウテ發生セルニ
テ知ラル。但本症ガ單ニ項部ニ限
局シ同時ニ身體ノ他部ニ息肉新
生ノ傾向ナキヲ以テ觀レバ單ニ
息肉形成ノ素因ヲ有スル者ニ發
生スル瘡瘡トノミ速斷シ難キモ、
著者ハ輕症及ビ重症ニ手術ヲ施
シテ患部ヲ切除セルモ毎ニ數月
數年ノ間ニ息肉ノ再發スルヲ經
驗セルヲ以テ該患者ガ少クトモ
息肉形成ノ局處的傾向ヲ認定セ
ザルヲ得ズ。而シテ衣襟ノ摩擦ハ

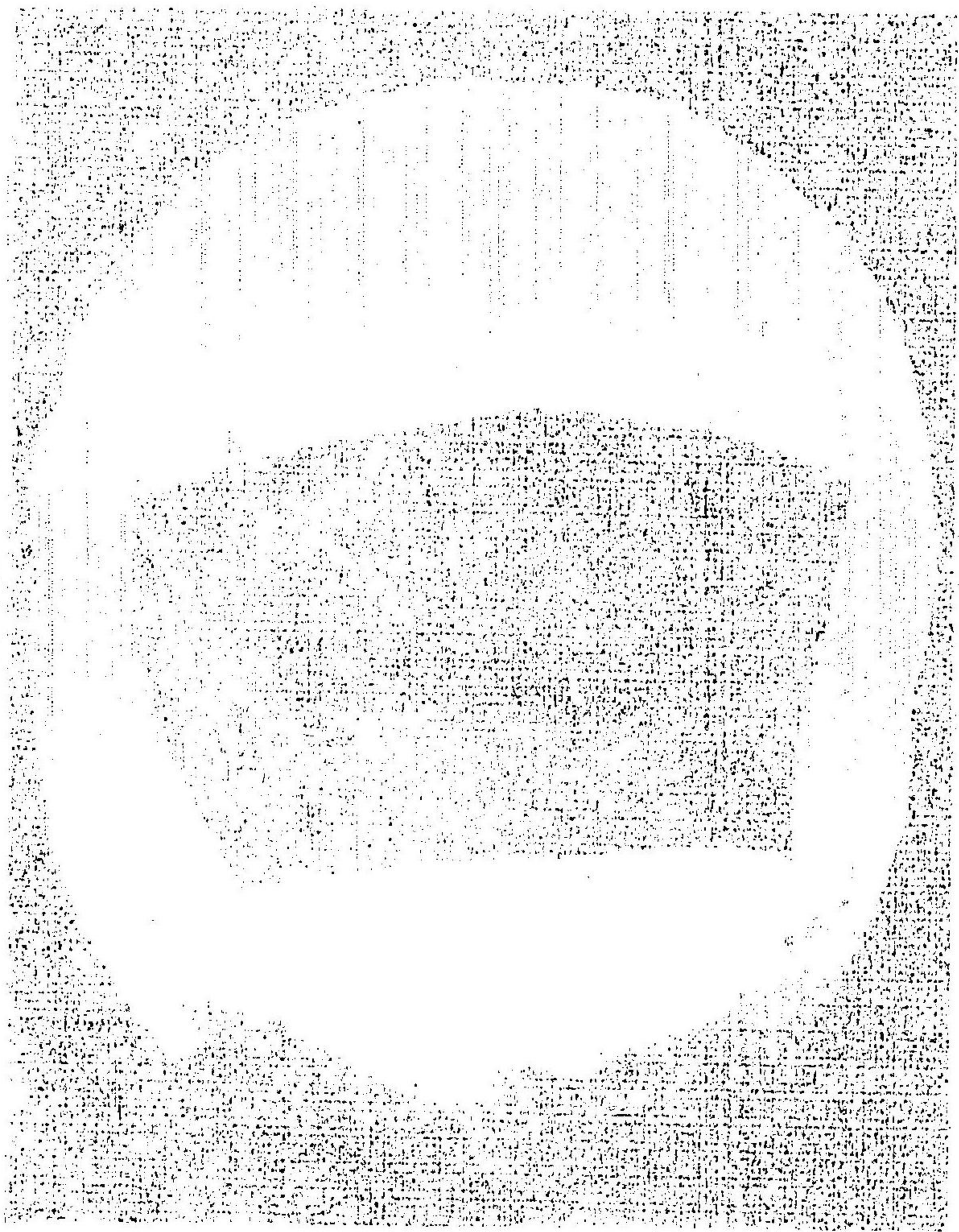
第 百 四 圖

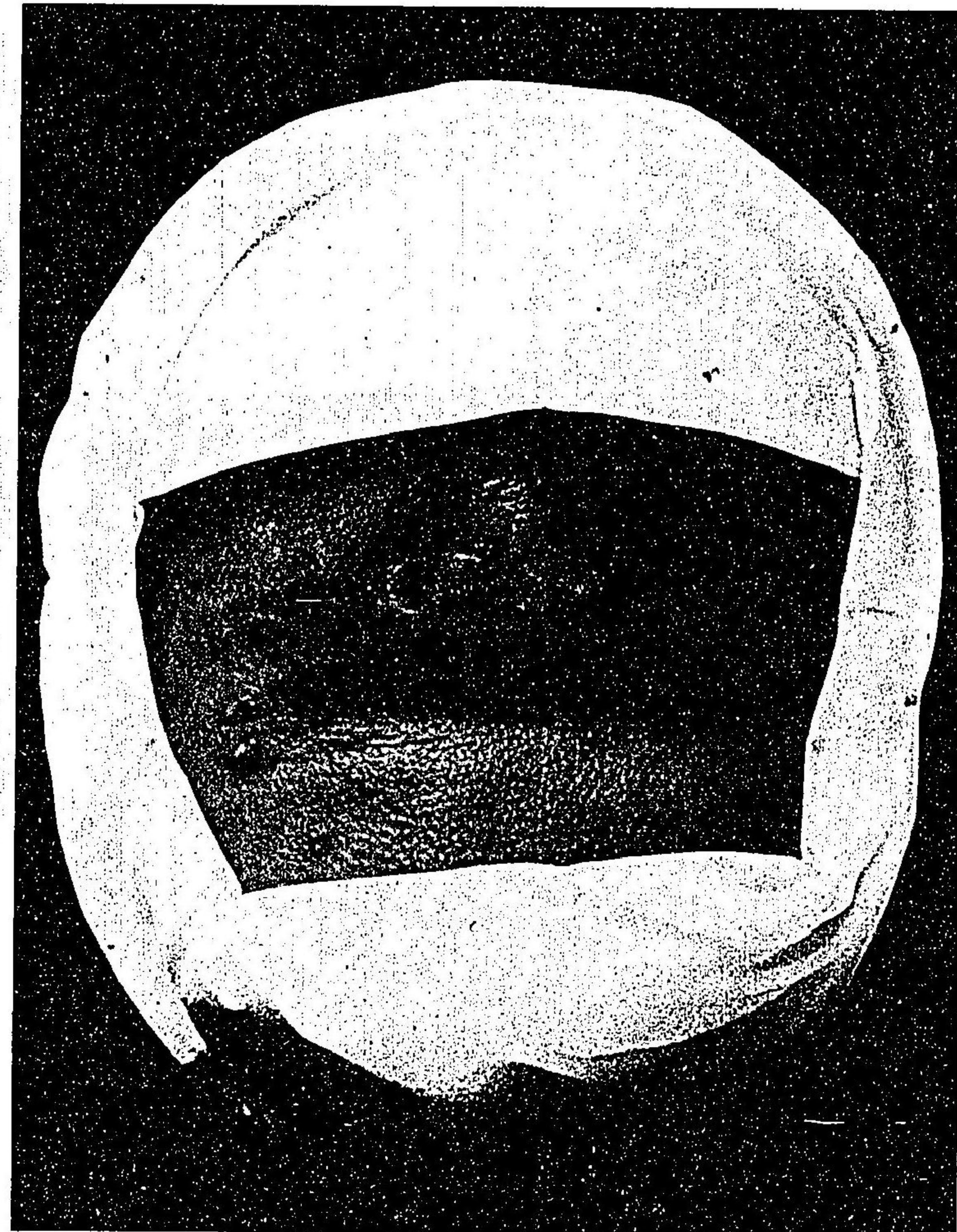


化膿菌ノ侵入ヲ促シ以テ本症ヲ誘發スルモノナルベシ。且ツ山田氏ハ我教室ニ於ケル十
九例中四十歳以上ノ患者多數ヲ占ムルヲ見テ本症ト年齡ノ關係アルベキヲ説ケリ。

診斷 部位、毛嚢炎及息肉ノ發生、毛幹束ノ散在、急性炎症ノ缺如、慢性ノ經過等。

類症鑑別 微毒疹 Syphilide. 就中丘疹及膿疱疹ハ好ニ項部髮際ヨリ後頭部ニ再發スベ





(大江原色版製版印刷)

炎 膚 皮 狀 頭 乳 部 頭
Dermatitis papillaris capillitii Kaposi.
(Klinik DOHI - Tokyo.)

Figure 40: A clinical photograph showing the scalp of a patient with Kaposi's papillary dermatitis. The affected area is a large, dark, circular patch on the scalp, which is covered with a white bandage. The skin in the affected area has a granular, papillary texture. The surrounding scalp skin appears normal.

ク、護謨腫モ亦同一部ニ來ルコト稀ナラズシテ、前者ハ本症ノ毛囊炎期ニ類似スルモ、
發疹ノ中心ニ毛幹ヲ有セズ、後者ハ息肉期ニ似タルモ破潰シ易シ、尋常性瘰癧、Acne
vulgaris ハ各疹ノ硬結甚シカラズ、且ツ數週ノ間ニ消散スベク、又必ズ同時ニ背面及ビ
顔面ニ發生スベシ、肝、胝、腫、Tylosis ハ柔靱ニシテ圓ク決シテ凹凸不平ナラズ、且ツ邦俗
擔荷ノ結果ニヨリテ發生スルモノナルガ故ニ、稍背ニ近ク發生スベシ。

豫後 治癒緩慢ニシテ、切除スルモ多少再發ノ傾向アリ。

療法 初期ニアリテハ撒里矢兒酸硬膏、水銀硬膏ヲ貼用スベシ。息肉形成期ニアリテハ
切除スベシ、但シ早晚再發ノ傾向アリ。輕症ノモノ又ハ再發ノ場合ニハ著者ハエールマ
ン氏 *Ehrmann* ト共ニ電氣分析術ヲ施スノ奏效最モ確實ナルヲ認ム。又フロイन्द氏
Freund ハレントゲン線療法ヲ稱用セリ。

引用書目

1. 土肥慶藏、頭部乳頭狀皮膚炎(皮膚四卷一號、明治三七年)。
2. 土肥慶藏、日本皮膚病徵症圖譜第四十表及圖解。
3. *Tomatis*, Beitrag zu der Pathologie des Akne-Kleidl. 1909.
4. *Ehrmann*, Ueber Folliculitis (Syccosis) nach der Scleritis etc. Archiv f. D. u. S. 1895, 141, 32.

第十四章

膿痂疹 Impetigo.

散在性膿痂疹
圓蓋狀膿痂疹
疥癬様膿痂疹
丹毒様膿痂疹
浸蝕性膿痂疹

傳染性膿痂疹
痂疹様膿痂疹
ホックハルト氏膿痂疹
尋常性膿痂疹

膿痂疹球菌

インペチーゴ Impetigo ナル古語ノ解釋ハウヰラン氏 *Willan* ニ依リテ始メテ稍明瞭トナリ、其著書中ニハ散在性膿痂疹 *sparsa* 圓蓋狀膿痂疹 *figurata* 及ビ疥癬様膿痂疹 *scabida* ノ目アリ、ベートマン氏 *Beitman* ハ更ニ之ニ丹毒様膿痂疹 *erysipeloides* 及ビ浸蝕性膿痂疹 *rodens* ノ二症ヲ追加セシモ、實際孰レモ特種ノ疾病ヲ意味スルニ非ズシテ、濕疹爾他諸種ノ皮膚病ニ於ケル或ル微候ヲ指シタルモノニ過ギズ、而シテ其獨立ノ皮膚病ニ使用セラル、ニ至リシハ實ニチルプリー、フックス氏 *Tilbury Fox* (一八六四年) ノ傳染性膿痂疹 *contagiosa* ニ始マル。尋テヘブラ氏 *Hebra* ノ痂疹様膿痂疹 *herpetiformis* 及ビホックハルト氏膿痂疹 *Bockhart* 出デ、ウンナ氏 *Unna* ニ至リテ更ニ尋常性膿痂疹 *vulgans* ノ稱アリ。蓋シフックス氏ノ傳染性膿痂疹ナルモノハ其記載ノ極メテ明瞭ナルニ拘ラス、命名ノ甚ダ切實ナラザリシ爲メ、後ノ學者ノ誤解ヲ招キ、随ツテ其原因ニ關シテモ説ニ異同アリ、葡萄球菌ヲ以テ原因トナス者、ボグデ氏 *Bogdan*、ブスケー氏 *Bousquet*、ルロア氏 *Leloir*、チブレイ氏 *Dupuy*、ウツカム氏 *Wicham*、マツエナウエル氏 *Mezener*、エンクマン氏 *Engmann*、連鎖狀化膿球菌ニ原因ヲ歸スル者、クルト氏 *Kurtz*、プロセー氏 *Prose*、葡萄球菌ト連鎖狀化膿球菌トノ併存説ヲ唱フル者、ルルウ氏 *Leroux*、シヨルツ氏 *Schorl*、膿痂疹球菌 *Impetigokokken* ナル特種ノ細菌ヲ認定セント欲スル者、ウンナ氏 *Unna*、カウツマン氏 *Kautmann* 等アルト同時ニ、或

初生兒急性天疱瘡

白色葡萄球菌性膿痂疹
連鎖狀球菌性膿痂疹
尋常性膿痂疹

ハ本症ヲ以テ皮疹ヲ具フル一種ノ接觸性全身病ニ過ギズトナシ(ステルワゴン氏 *Stelzner* *sen*)、或ハ初生兒急性天疱瘡 *Pemphigus acutus neonatorum* ノ稱ヲ以テフックス氏膿痂疹ニ擬スル者、ボントビダン氏 *Bontvidan*、フーベル氏 *Fuhrer*、アリテ、未ダ確定スルニ至ラス。

是ニ於テカ著者ハ土肥(栗田)章司氏ト共ニ所謂傳染性膿痂疹ナルモノ、臨牀的及原因的研究ヲ企テ、遂ニ本病ニ二種アリテ各原因ヲ異ニスルコトヲ發見シ、本病ノ原因ニ就テ泰西諸家ノ説ノ一致セザルハ全ク臨牀上兩者ヲ混同シテ一症トナスニ職山スルモノタルコトヲ言明シ(一九〇四年)此兩種ノ膿痂疹ヲ原因ニ從ヒテ假リニ白色葡萄球菌性膿痂疹 *albo-staphylogenes* 及ビ連鎖狀球菌性膿痂疹 *streptogenes* ト命名セリ。前者ハ即チフックス氏膿痂疹ニシテ、臨牀上ニハ専ラ之ヲ傳染性膿痂疹ト稱シ、後者ニハ別ニ尋常性膿痂疹 *vulgans* ノ稱ヲ附シテ之ト區別セント欲ス。但シウンナ氏 *Unna* ノ所謂尋常性膿痂疹トハ同名ニシテ異義ナリト知ルベシ。而シテ現時ノ學者ガ傳染性膿痂疹即尋常性膿痂疹ト爲スノ誤謬タルハ勿論トス。

〔附言〕 *Impetigo* 舊ト膿痂疹ト譯スルモ膿痂ハ即チ *Pustula* ニミテイ、インペチーゴノ臨牀的特徴タル痂皮ノ性質ヲ言明セザルヲ遺憾トシ、著者ハ私カニ膿痂疹ト改譯セリ。

傳染性膿痂疹 *Impetigo contagiosa* Tilbury Fox.

〔異名〕 白色葡萄球菌性膿痂疹 *Impetigo albo-staphylogenes* (Dohi) 初生兒急性天疱瘡 *Pemphigus acutus neonatorum*.

傳染性膿痂疹

主トシテ顔面手足ノ如キ露出セル部位ニ於テ健康ノ皮膚面ニ卒然發生スル水泡ニシテ決シテ厚キ痂皮ヲ作ラズ水泡中ニハ白色葡萄狀球菌(著者)ヲ含ミ觸接ニ依リテ身體ノ一處ヨリ他處ニ又ハ人ヨリ人ニ傳染シ屢流行ヲナス所ノ急性症タリ且ツ好シク小兒ヲ侵ス。

症候 水泡ハ或ハ突然健康ノ皮膚面ニ發生シ或ハ先ヅ紅斑ヲ

點出シテ然ル後二十四時間以內ニ於テ水泡ニ變ズベシ其大サ始メハ針頭乃至豆大ナルモ後ニハ鳩卵乃至鶏卵大以上ニ及ブモノアリ小ナルハ圓クシテ扁平ニ又ハ半球形ニ隆起シ且稍緊張セルモ大ナル水泡ニ在テハ多クハ橢圓ニ傾キ多少弛緩スベシ常ニ小兒ニ來ルモ時トシテ患兒ヨリ大人ニ感染スルコトアリ(第百五圖)水泡ノ内容ハ初メハ極メテ澄明ニシテ恰モ荷葉上ニ漂ヘル滴露ノ如クナルモ時ヲ經ルニ從ヒ日本酒様ノ淡黃色ヲ帶ビ被膜頗ル菲薄ニシテ潮紅セル底面ヲ明カニ透視スベシ而シテ大ナル水泡ニアリテハ底面ノ中心ニ於テ屢帶黃白色ノ小點ヲ見ル

第百五圖



コトアリ若シ水泡ノ被膜自然ニ又ハ輕微ノ外傷ニヨリ破潰シテ水泡底ヲ露出スルトキハ此帶黃色ノ中心ハ明カニ膿様ノ

附著物ヨリ成レルヲ認ムベシ。

既ニシテ時ヲ經ルニ從ヒ水泡微カニ濁シ特ニ下垂部ニ於テ膿汁沈澱シテ弦月ノ狀ヲ呈スベシ而モ水泡ノ上過半部ニハ尙ホ澄明ノ液ヲ含ミテ宛然眼珠ノ前房蓋膿ヲ見ルガ如シ之ト同時ニ緊張セル被膜ハ漸ク弛緩シテ皺襞ヲ呈シ巾著形ヲナスト共ニ水泡ノ内容徐々ニ吸收セラレテ終ニ全ク萎縮シ被膜ハ汚穢白色ノ薄キ痂皮ヲナシテ水泡底ニ膠著スベシ時トシテハ痂皮稍褐色ヲ帶ビ若クハフラクス氏(Forst)ノ所謂葉黃色ヲ呈スルコトアルモ決シテ疊層セル厚痂ヲ結ブコトナシ痂皮ノ下ニハ一時濕潤セル紅色ノ表皮剝脫面ヲ呈シ紅暈ハ淡ク存在シ若クハ缺如スベシ稀ニ炎症性潮紅ヲ認ムルコトアルモ斯ル場合ニハ概テ尋常性膿痂疹ヲ合併スルモノト知ルベシ。

第百六圖



輪狀傳染性膿痂疹
ス輪狀膿痂疹

水疱ハ多數同時ニ發生スルコト少クシテ大抵前後續生シ且ツ中間ニハ必ズ健康ノ皮膚ヲ挾ミテ相離隔シ縱令増大シテ融合スルコトアルモ尙ホ且ツ單形ヲ識別シ得ベシ時トシテ水疱ノ周圍ニ新ニ水疱環ヲ作り漸々蛇行狀ニ蔓延スルコトアリ輪狀傳染性膿痂疹 I. contagiosa circinata Dohi s. I. circinata Umezaki 第六圖。

經過 各水疱ノ經過ハ四五日ヲ出デズ水疱破裂シ又ハ其内容吸收セラレテ痂皮ヲ生ズルモ亦數日ニシテ脱落シ其跡ニ一時紅褐色ノ色素沈著ヲ留ム此色素沈著ハ時トシテ數週數月ノ間消滅セザルコトアリ若シ速ニ患部ニ適當ノ處置ヲ施サズシテ放置スルトキハ水疱ハ一處ヨリ他處ニ傳染シ隨ウテ治スレバ隨ウテ生ジ殆ド全身ニ蔓延シテ月餘ニ及ブモ尙ホ跡ヲ絶タザルベシ。

熱候ハ之ヲ缺ク稀ニハ前驅症トシテ又ハ本症ノ經過中ニ於テ發熱スルコトアルモ多クハ極メテ輕微ニシテ合併症ノ存スル場合ニアリテモ三十八度以上ニ達スルコトハ稀中ノ稀ニ屬シ患兒嬉戲ノ狀平生ト毫モ異ナラザルヲ常トス。自覺症狀トシテハ表皮剝脫面ノ知覺過敏ナル外ニ稀ニ微カニ搔痒又ハ灼熱ノ感ヲ存スルコトアリ結痂ノ際ニハ搔痒稍著シ。

部位 最も顔面ニ多ク特ニ頤頰額眼瞼口唇鼻唇溝等ノ如キ發汗又ハ分泌液(淚涎鼻汁)ノ爲ニ濕潤シ易キ處ニ於テ甚シトス又耳朶ニ來リ頸項頭部手足指趾前膊下腿ノ如キ露出部之ニ次ギ其他上膊上腿ヨリ胸壁背面緊帶部ニモ蔓延スベシ。

流行 本邦ニ於テハ毎年溫暖ノ候ニ至レハ多少小兒間ニ流行シ殊ニ夏季ニ於テ著シク時

白色葡萄狀球菌

トシテハ全國ニ大流行ヲ見ルコトアリ秋冷ノ候至レバ漸ク減少シテ十一月ノ頃ニ及ベバ殆ド全ク終熄スベシ假令冬季ニ於テ稀ニ散發スルコトアルモ決シテ廣ク蔓延セズ。年齡ハ主トシテ小兒ニ來リ初生兒乃至五六歳ノ小兒ヲ侵スコト最も多ク數母乳母子守等ニ傳染スベシ。

原因 著者ハ土肥洋司氏ト共ニ始メテ本症ノ白色葡萄狀球菌ニ原因スルコトヲ證明セリ(一九〇四年)試ミニ本症ノ水疱液ヲ自體及ビ他體ニ接種スルニ必ズ同一ノ水疱症ヲ發生スベク其接種水疱及ビ原水疱ノ内容中ニハ毎ニ白色葡萄狀球菌ヲ證明シ決シテ他菌ヲ混ズルコトナシ。

解剖 吾輩ノ研究ニ據レハ水疱ハ單房性ニシテ淺在シ多クハ角層ト顆粒層トノ間稀ニハ種子層間又ハ表皮眞皮ノ境ニ存シ前者ニアリテハ角層ノ一部半球形ニ擡起セラレテ水疱ノ被膜ヲ形成シ其底面ハ顆粒層ヨリ成ルヲ見ル水疱内ニハ纖維樣物質及ビ多少ノ單核或多核ノ小圓形細胞稀ニハ膨大セル上皮細胞ヲ充填ス。

水疱ノ底面ニ當レル種子層ハ他部ニ比シテ肥厚スルモ乳嚙ハ延長セズ間水疱底ノ中心ヨリ抽出スル毳毛アリ其眞皮ニ於ケル狀態ヲ視ルニ毛囊ノ周圍ニ於テ單核性及多核性圓形細胞ノ浸潤特ニ著シ蓋シ病原菌ハ數毛囊口ヨリ侵入スルナルベク且ツ此部位ハ臨牀上水疱底ニ於ケル黃點ニ一致スベシ此水疱ノ底面及ビ炎症帶ニ一致スル眞皮ノ上層ニ於テモ亦多少ノ細胞浸潤アリ血管淋巴管及淋巴腔ハ擴張シ飽肥細胞ハ稍増加ス蓋シ是等ハ普通輕度ノ急性皮膚炎ノ現象ニ他ナラザルベシ。

油浸裝置ニテ檢スルトキハ種子層肥厚シ其上上皮細胞ハ膨脹シテ半バ水腫狀ヲ呈シ細胞

交互ノ連結疹粗トナリ、從テ擴大セル淋巴腔内ニ白血球ノ侵入セルヲ認ムベシ。而シテ此白血球及ビ水泡底ニ於ケル上皮細胞並ニ水泡内ニ浮游セル細胞ノ原形質、稀ニハ泡液ノ中ニハ毎ニ白色葡萄狀球菌ノ概テ二箇連結シテ存在スルヲ證明シ得ベシ。

診斷 健康ノ皮膚面ニ孤立セル水泡、其内容澄明ニ若クハ上澄下濁シ、痂皮ハ薄クシテ汚穢白色ヲ呈シ、且ツ水泡ノ大サ以上ニ及バズ、露出部ニ於テ好發シ、自覺症狀缺如シ無熱ニ經過シ、自體及他體ニ對シテ觸接傳染性ヲ有シ、夏季特ニ小兒間ニ流行ス。

類鑑別 尋常性膿痂疹 Impetigo vulgaris. 歐米ノ諸家ガ兩者ヲ混同スルハ誤レリ。蓋シ吾輩ノ稱シテ尋常性膿痂疹トナスモノハ小紅疹ヲ以テ始マリ、速ニ膿疱ニ變ジ、痂皮厚ク疊積シテ黃蠟色ヲ呈シ、且ツ原疹以外ニ增大シテ宛モ頭上ニ笠ヲ被ムルガ如ク、紅暈遙ニ著シク炎症ノ微アリ、四季常ニ散發シ、各疹ノ經過較長クシテ一二週ニ及ビ、小兒大人共ニ侵サレ易ク、且ツ白色葡萄狀球菌ヲ見ズシテ連鎖狀球菌ヲ證明ス(著者)、時トシテハ黃色葡萄狀球菌ノ之ニ混ズルコトアルベシ。水痘 Varicella モ亦小兒期ノ流行病ニシテ、觸接傳染性ヲ有シ、經過短ク一週日ヲ出デズ、水泡ノ内容澄明ニシテ膿樣ニ變ズルコト稀ナル等ノ諸點ニ於テ頗ル本症ニ似タルモ、水痘ハ(一)多ク輕熱ヲ伴ヒ、異和倦怠、惡心等ノ全身症狀アリ、(二)紅斑又ハ紅疹ヲ以テ始マリ、中心漸ク水泡ニ化スルガ故ニ、必ズ周圍ニ著明ノ炎症紅暈アリ、(三)痂皮黑褐色ニシテ(四)往々癢痕ヲ遺シ、(五)殊ニ水泡ノ内容中ニ細菌ヲ存セズ、(六)自家傳染ヲナサザルモノトス。天疱瘡 Pemphigus ハ經過慢性ニシテ、各箇ノ水泡モ亦長ク存在シ、化膿スルコト稀ニ、水泡底ニ黃點ヲ認

メズ、又水泡中ニ決シテ細菌ヲ證明シ得ズ、發生ノ部位不定ニシテ、殊ニ大人ニ多ク、大抵衰弱ヲ伴フ。

豫後 佳良ナルモ、稀ニ化膿性淋巴腺炎、急性性淋巴管炎等ヲ來スコトアリ。

療法 水泡ハ破潰シテ内容ノ流溢セザルヨウ殺菌綿ニテ吸ヒ取り、其上ニ硼酸軟膏ヲ塗ルマトール軟膏ノ類ヲ貼用シテ綳帶スベシ。水泡小ニシテ且ツ僅少ナレバ散布藥(オイグホルム、アイロール、キセロホルム等)ニテ足ルコトアルモ、多クハ之ガ爲ニ却テ痂皮ヲ増大セシメテ膿汁ノ溜溜ヲ促スノ虞アリ。著者ノ經驗ニテハ亞鉛華油ノ塗布ノ簡易ニシテ而モ治癒ノ最モ迅速ナルヲ認ム、水泡身體ノ各部ニ散在シテ綳帶ニ不便ナル場合ニ於テ殊ニ然リ。

尋常性膿痂疹 Impetigo vulgaris.

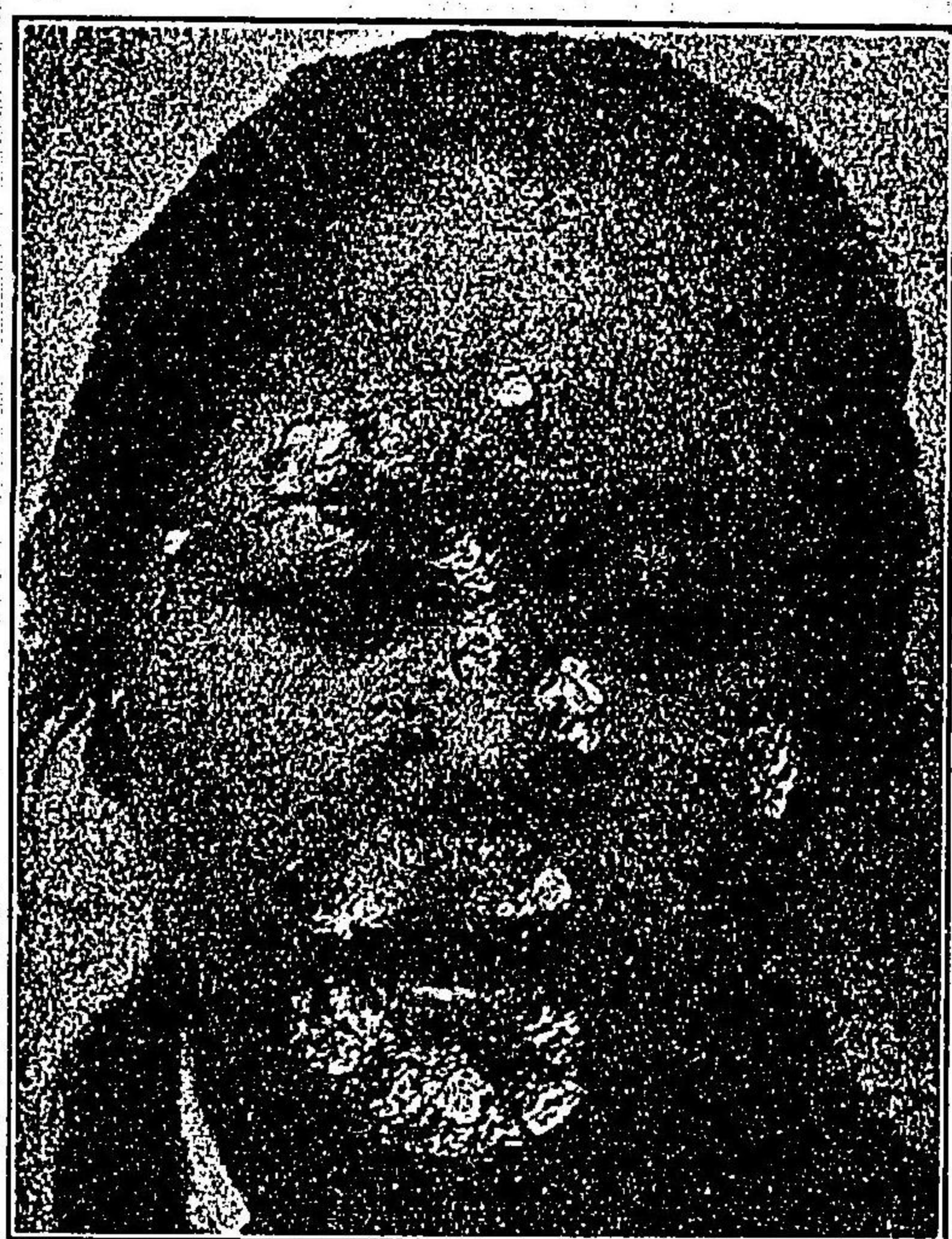
異名 連鎖狀球菌性膿痂疹 Impetigo streptogenus (Dohi) 傳染性膿痂疹 I. contagiosa.

譯義 顔面手足ノ如キ露出部ニ於テ健康ノ皮膚面ニ急性ニ發生スル膿疱ニシテ常ニ蠟黃色ノ厚痂ヲ結ビ、觸接ニ依リテ身體ノ一處ヨリ他處ニ又ハ人ヨリ人ニ傳染シ、經過較緩慢ニシテ數週ヲ要シ、膿疱中ニハ常ニ連鎖狀球菌ヲ證明スルモノニシテ、ブックス氏膿痂疹トハ全ク症候及ビ原因ヲ異ニスルモノナリ(著者)。

症候 初メ粟粒大乃至麻實大ノ紅疹ヲ生ジテ中心小水泡ニ變ジ、尋デ内容濁濁シテ膿

疱トナリ若クハ最初ヨリシテ小膿疱ヲ成シ膿疱破潰スレバ内容漏泄シテ黄蠟色ノ厚キ痂皮ヲ形成スベシ其間僅ニ一兩日ヲ出デズ爾後時日ヲ經ルニ從ヒ痂皮下ニ於ケル漿液四圍ニ流溢シテ直チニ結痂スルニ由リ痂皮ノ容積次第ニ加ハリ豌豆大ヨリ一厘乃至二錢銅貨大ニ及ビ新舊ノ痂皮重疊シテ螺旋狀ヲ成シ更ニ隣接セル膿痂疹ト融合シテ不正形ノ大痂皮ヲ形成スルコトアルベシ痂皮ノ未ダ自然ニ離脱セザルニ當リ試ミニ強テ之ヲ剝離スレバ紅色ノ濕潤面露出シテ其上ニ澀溜セル多少ノ膿漿ハ乾燥シテ忽チ復黃痂ニ化スベシ
 炎症紅暈ハフックス氏膿痂疹ニ比スレバ較著シキモ往々之ヲ缺クコトアルベシ

第百七圖



經過 較緩慢ナリ特ニ著大ノ痂皮ヲ形成スル場合ニアリテ然リ大抵一二週ヨリ四五週ニ及ビ其際汚塵出血等ノ爲ニ黄色ノ痂皮ハ變ジテ黒褐色トナルベシ痂皮脱落スレバ一時色素ヲ沈著スルモ數週數月ノ後ニハ終ニ全ク消褪シ決シテ癍痕ヲ遺スコトナシ

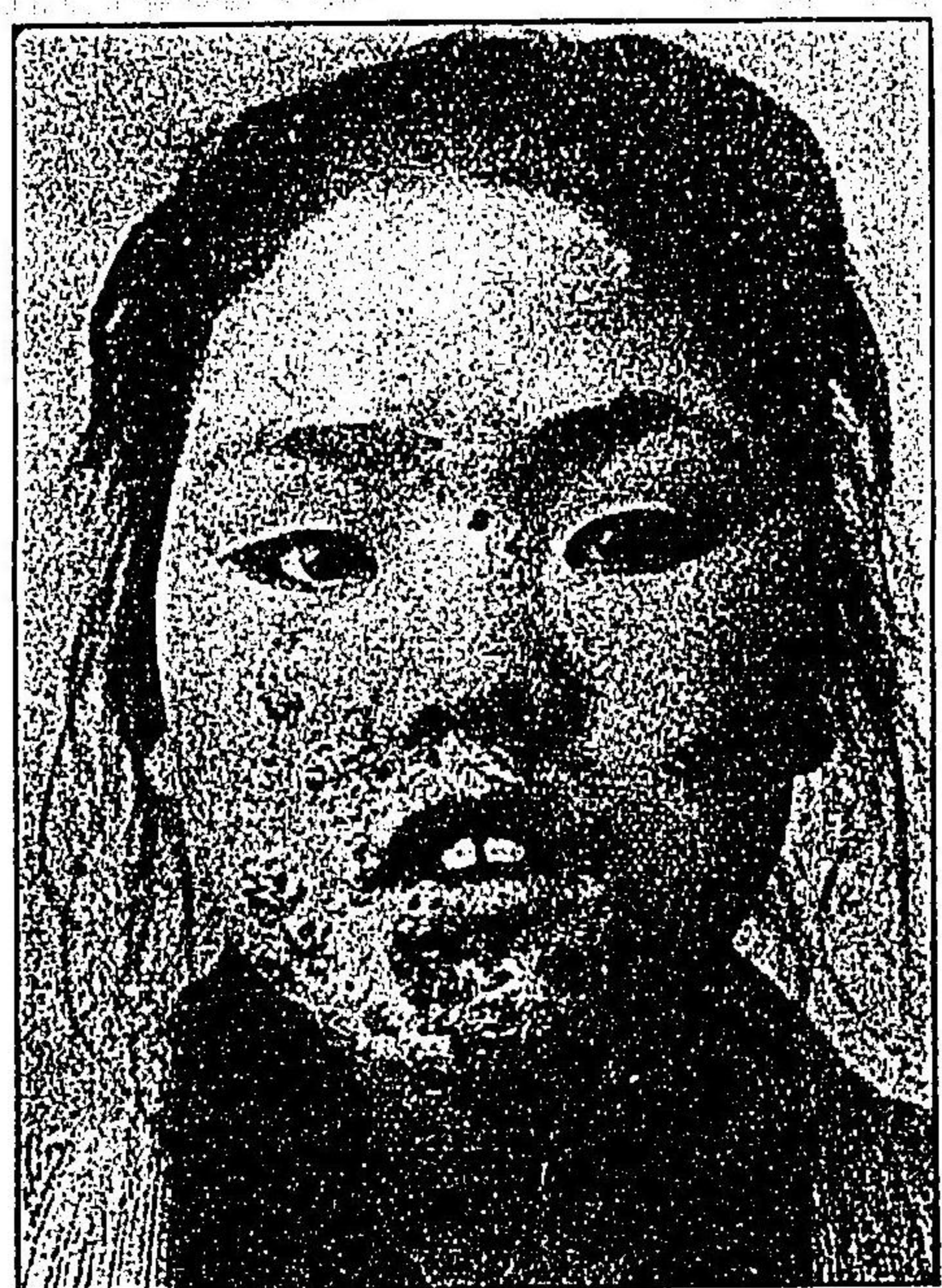
大抵初メハ數箇散發スルニ過ギザルモ膿漿ノ附著ニヨリテ漸ク他處ニ蔓延シ又他人ニ觸接傳染スベシ

自覺症狀トシテハ時ニ輕微ノ痒感アルノミ熱候ハ通常之ヲ缺キ稀ニ熱發シテ三十九度以上ニ及ベバ多クハ急性化膿性淋巴腺炎ノ續發セル證ニシテ決シテ單純ノ膿痂疹ヨリ來ルモノニ非ズ

部位 顔面ニ最モ多ク其他頸部手甲足背等ニ發生スベシ

第百八圖

論題 本症ハ小兒ト大人トヲ擇マズシテ來ル嘗テ吾輩ノ調査セル所ニ據レバ十六歲以上ノ患者ハ總數ノ三分之一ヲ占メフ
 フックス氏傳染性膿痂疹ノ最大多數ガ幼兒ニ發スルモノト自ラ相違セリ



原因 著者及土肥章司氏ハ本症ノ膿疱ヨリ常ニ連鎖狀球菌ヲ證明シ之ヲ以テ本症ノ原因ト断定セリ近時レワンドウスキイ Leunthovasy ハヤグソン Jukashin 氏ノ教室ニ於テ百例ノ尋常性膿痂疹ヲ検査シテ毎回連鎖狀球菌ノ純培養稀ニハ之ト黄色葡萄狀球菌ノ混合培養ヲ得タリト云ヘルハ正シク吾輩ノ所見ニ符合スルモノト謂フベシ但シ同氏ハ臨牀

上フッククス氏傳染性膿疱疹ト吾輩ノ所謂尋常性膿疱疹即チ連鎖狀球菌性膿疱疹トヲ混同スルコト他ノ諸家ト同ジキモ其検査セル症例ハ偶然ニモ後者ノミニ限ラレタルナラベシ。何トナレバ歐洲ニアリテハフッククス氏傳染性膿疱疹ハ歴史上時ニ流行性ニ來リシコトアルモ(例之フリーゼ氏 *Frey* アイヒムテット氏 *Eichstedt* ¹⁰ グロンチ氏 *Gronme* ノ報告)平時ハ却テ稀有ナレバナリ。

吾輩ノ検査セル本症例ノ極少數ニアリテハ黃金色葡萄狀球菌ノ純培養ヲ證明セルモ、恐クハ膿漿攝收ノ際混合感染ノ膿疱疹ヨリ誤テ一方ノ細菌ノミヲ培養シタルナルベシ。

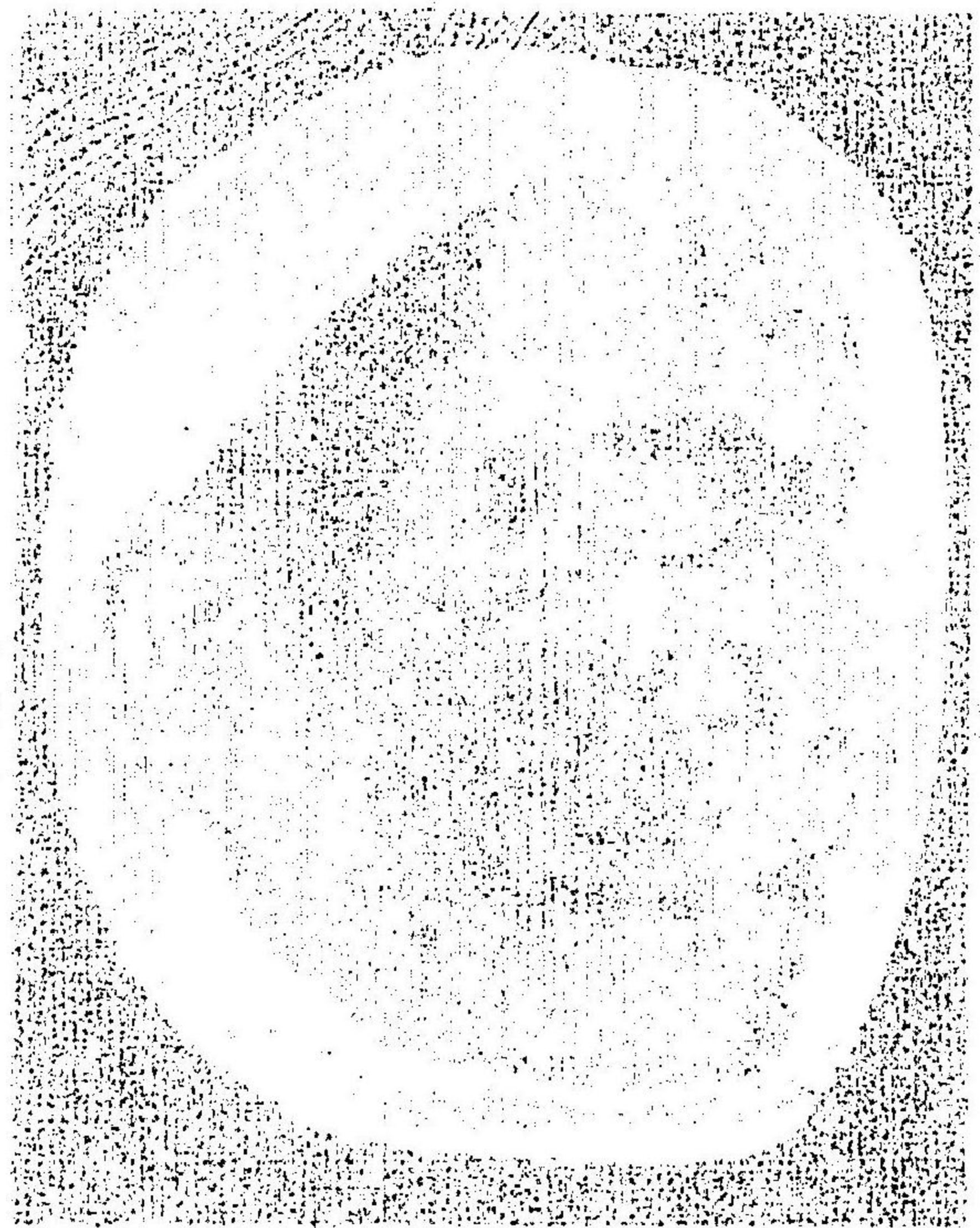
解剖 眞皮ノ乳頭及ビ乳頭下層ニハ炎症性浸潤ヲ有シテ血管擴張シ、表皮ノ角層ハ擡起セラレテ空洞中ニハ漿液及ビ膿球ヲ含ミ種子層ノ淋巴腔ハ擴大セリ。

診斷 蠟黃色ノ痂皮健常ノ皮膚面ニ孤立シ、痂皮ノ大サ原膿疱ノ數倍ニ達シ、觸接傳染性ニシテ四季常ニ存シ、經過急性ニ、全身症狀ヲ缺キ、搔痒ヲ伴ハズ、癢痕ヲ作ラズ、連鎖狀球菌ヲ證明スベシ。

類症鑑別 傳染性膿疱疹 *Impetigo contagiosa* Tilbury Fox ハ水疱ヨリ成リ、痂皮菲薄ニシテ且ツ原水疱ノ範圍ヲ超過セズ、夏季ニ流行シ、水疱中ニハ必ズ白色葡萄狀球菌ヲ證明スベシ。膿痂性濕疹 *Excoria impetiginosum* ノ膿痂ハ外見本症ト同ジキモ必ズ炎症性潮紅面上ニ坐シ、決シテ健常ノ皮膚面ニ孤立セズ、搔痒亦著シ。

豫後 佳良ナルモ、間、急性淋巴腺炎、淋巴管炎、蜂窠織炎等ヲ續發スルコトアルベシ。

療法 阿列布油華攝林ノ類ヲ用キテ痂皮ヲ軟化シ、次ニ硼酸軟膏ヲ貼用シテ繃帶シ、繃





田中製所三色油

疹癩膿性常尋

Impetigo vulgaris.

(Klinik DOHI - Tokyo.)

尋常性膿疱性疹 (Impetigo vulgaris) は、皮膚の表層に起る、最も一般的な細菌性皮膚病である。この病は、通常、顔面や四肢の伸側部に好発し、小児や高齢者に多い。病変は、最初は小さな水疱や膿疱として現れ、その後、乾燥して痂皮を形成する。この病は、通常、自限性であり、適切な治療により、数週間以内に治癒する。しかし、重症化した場合、広範囲に広がることもある。この病の原因は、通常、金黄色葡萄球菌や連鎖球菌による感染である。治療には、抗生物質の使用や患部の消毒が行われる。

この病は、通常、顔面や四肢の伸側部に好発し、小児や高齢者に多い。病変は、最初は小さな水疱や膿疱として現れ、その後、乾燥して痂皮を形成する。この病は、通常、自限性であり、適切な治療により、数週間以内に治癒する。しかし、重症化した場合、広範囲に広がることもある。この病の原因は、通常、金黄色葡萄球菌や連鎖球菌による感染である。治療には、抗生物質の使用や患部の消毒が行われる。

この病は、通常、顔面や四肢の伸側部に好発し、小児や高齢者に多い。病変は、最初は小さな水疱や膿疱として現れ、その後、乾燥して痂皮を形成する。この病は、通常、自限性であり、適切な治療により、数週間以内に治癒する。しかし、重症化した場合、広範囲に広がることもある。この病の原因は、通常、金黄色葡萄球菌や連鎖球菌による感染である。治療には、抗生物質の使用や患部の消毒が行われる。

帶交換ノ際ニハ必ず先ヅ亞鉛華澱粉ヲ以テ乾拭スベシ若シ誤テ患部ヲ洗滌セバ膿汁ノ附着スル處ニ膿疱ヲ移植スベキガ故ニ注意シテ之ヲ避クベシ。

ボックハルト氏膿痂疹 Impetigo Boekhart.

異名 葡萄狀球菌性膿痂疹 Impetigo staphylogenes (Vina).

釋義 皮膚ノ搔破又ハ摩擦ニヨリテ生ズル小膿疱ニシテ其限局セル炎症ハ特ニ乳頭體ニ達スベシ蓋シ黃色葡萄狀球菌ノ表皮中ニ竄入スルニ因ルモノニシテ多クハ毛囊口ヨリス。

症候 山椒實大乃至豆大ノ圓キ膿疱ニシテ多クハ中心ニ毛幹アリ且ツ著明ノ紅暈ヲ有シ大抵長ク同大ニ止マリ或ハ多少増大シ終ニ頂點ニ黃褐色ノ痂皮ヲ被ムリ落脱スレバ一時色素沈著ヲ殘ス多クハ健康ノ皮膚面ニ孤立シ或ハ播種狀ヲナシ或ハ集簇ス大抵慢性癢痒性皮膚病痒疹疥癬慢性濕疹等ニ伴ウテ來ル。

部位 特ニ好ンデ四肢ニ來リ最モ伸側ニ多シ其他軀幹顔面頭部ニモ發生スルコトナキニ非ズ。

原因 ボックハルト氏 Boekhart ハ實驗的ニ黃色葡萄狀球菌ノ培養ヲ稀釋シ之ヲ皮膚ニ擦入シテ本症ヲ發生セシメ得タリ是ニ由リテウンナ氏 Unna ハ本症ニ葡萄狀球菌性膿痂疹ノ名稱ヲ下セシモ吾輩ガ傳染性膿痂疹ノ原因ヲ白色葡萄狀球菌ト認定セル今日ニ於テウン

ボックハルト氏膿痂疹

ナ氏ノ此命名ハ却テ混雜ヲ來スノ嫌アルガ故ニ之ヲ省クヲ可トスベシ。
蓋シ化膿菌ハ或ハ不潔ナル爪甲濕布褌袴等ヲ介シ、又ハ豫メ皮膚面ニ附著セルモノノ摩
擦搔爬ニヨリテ表皮中ニ移植セラレ、若クハ損傷部ヨリ繼發的ニ竄入スルモノナルベシ。
解剖 膿疱ハ主トシテ毛囊口ニ一致シテ發生スルモ、必シモ然ルニ非ズ。且ツ他ノ膿疱疹ニ
アリテハ炎症ハ單ニ表皮ニ止マルモ、本症ニアリテハ眞皮ニ波及シテ乳頭體ノ著シキ充
血及ビ浮腫ヲ來ス。

診斷 好ンデ伸側ノ粗毛部ニ發生シ、多クハ掻痒性皮膚病ニ伴ヘル小膿疱ニシテ、中心
ニ毛幹アリ或ハ之ヲ缺ク。

類症鑑別 微毒性膿疱疹 Impetigo syphilitica ハ結痂大小不同ニシテ且ツ較、黒ク、外暈ハ暗
紅褐色ヲ呈ス。膿痂性濕疹 Eccema impetiginosum ノ膿疱ハ散漫性ニ潮紅セル皮膚上ニ發
生シ決シテ健常ノ皮膚面ニ孤立セズ。

豫後 佳良ナルモ、數多發生スル場合ニ於テ吾輩ハ往々急性腎臟炎ヲ起ヌヲ見タリ、又
痂腫ニ變ジ易シ。

療法 數多散在セルモノニハ著者ハビック氏硬膏ヲ適宜ニ小サク切りテ一々其上ニ貼
用スルニ數日ニシテ全治スベシ。若シ腫大シテ痂腫ヲナサバビール氏鬱血療法ヲ施
シ又ハ切開スベシ。膿疱若シ密集セバ二%レゾルチン水ノ溫器法、十倍レゾルチン軟
膏、十倍硼酸軟膏等ノ貼用ヲ試ムベシ。痒疹又ハ疥癬ニ續發セルモノハ、先ツ軟膏ヲ用
キテ膿痂疹ヲ治シ、痂皮ノ脱落スルヲ待チテ原發症ヲ治療スベシ。

引用書目

- 1) Fox, Zibury, On Impetigo contagiosa or Porrigo. Brit. med. Journ. 1864.
Do, Atlas of the skin. 1877.
- 2) Boeckhary, Über die Aetologie u. Therapie der Impetigo des Furunkels u. der Sykosis. Monatshft f. pr. D. 1887.
- 3) Unna, Ueber die Impetigo contagiosa nebst Bemerkungen über pustulöse u. lufthase Hautaffection. (Archiv f. D. u. S. 1880.)
Do, Die Histopathologie der Hautkrankheiten. 1894.
- 4) 土肥 廣藏 栗田 章司 共著 膿疱疹論 皮膚 第四卷 三四號 明治三十七年。
- 5) 土肥 廣藏 日本皮膚病叢書圖譜第十六表及圖解。
- 6) 土肥 廣藏 日本皮膚病叢書圖譜第十七表及圖解。
- 7) Lermundensky, Über Impetigo contagiosa s. vulgaris, nebst Heilfugen etc. Archiv f. D. u. S. 94. Brl. 1909.
- 8) Fryeze, Hautkrankheiten und ihre Behandlung. (Übersetzung von Willians Description and treatment of cutaneous diseases. 1799.) Breslau, 1816.
- 9) Eischelck, Über die auf Krüthen infolge der Pockenimpfung in diesem Sommer aufgetretene Krankheit. Berl. kl. W. 1885.
- 10) Gierman, Epitome von Impetigo contagiosa in den Kreisen Cere u. Mähtheim am Rhein. Deutsche med. W. 1886.

第十五章

尋常性深膿胞 *Echyma vulgare.*

釋義 本症ハ尋常性膿痂疹ニ似テ、而モ膿胞ノ大ナルト炎症性浸潤ノ著明ナルト及ビ癩痕ヲ遺ストヲ以テ異レリトス。

症候 原疹ハ豌豆大乃至爪甲大ノ扁平ナル紅キ固キ小結節ニシテ、炎症著シク且ツ多少ノ疼痛アリ。一二日ニシテ其頂點ニ溷濁セル内容ヲ有スル膿胞ヲ生ジ、漸ク増大スル間ニ基底ノ炎症性浸潤ハ益々周圍ニ進行スベシ。斯クテ數月ノ後ニハ中心ノ膿胞ハ褐黑色ノ痂皮ヲ結ビ、之ヲ圍ミテ幾多ノ膿疱堤防狀ニ發生シ、其外縁ニハ更ニ炎症性浸潤ヲ見、痂皮ノ下ニハ濃膿ヲ盈セル淺キ潰瘍ヲ存スベシ。既ニシテ病勢中止スレバ炎症減退シ、痂皮乾涸シ次デ脱落スルト共ニ、一時暗紅ノ著色ヲ遺シ、淺キ癩痕ヲ結ビテ治癒ス。

部位 本症ハ主トシテ下腿ニ生ズルモ、身體ノ隨處ニ發生シ得ベシ。

原因 多クハ不潔ノ爪尖ヲ以テ搔破スルニ由リ、連鎖狀球菌又ハ黃色葡萄狀菌ヲ移植スルモノニシテ、屢尋常性膿痂疹ニ併發シ、又癩腫淋巴管炎淋巴腺化膿深潰瘍及壞疽ヲ續發スルコトアリ。

診斷 割合ニ大ナル黒褐色ノ痂皮周圍ニ於ケル膿疱及ビ著明ノ炎症性浸潤アリ、疼痛

甚シカラズ。

類症鑑別 尋常性膿痂疹 *Impetigo vulgaris* ハ痂皮小ニ炎症微ナリ。微毒性膿痂疹 *Impetigo syphilitica* ハ邊縁及ビ底面ニ著明ノ硬キ浸潤アリ、且ツ邊縁鮮紅色ナラズシテ紅褐色ナリ。經過較長ク、爾餘ノ微毒性微候アリ。

豫後 佳良ナリ。

療法 硼酸軟膏ヲ貼用スベシ。浸潤著シキ時ハヘブラ氏軟膏效アリ。周圍ノ炎症著シケレバ硼酸水醋酸礬土水一―二%レゾルチン水等ノ罨法ヲ施スベシ。本症若シ疥癬痒疹等ニ併發セバ其根本的治療ヲ怠ルベカラズ。

壞疽性惡疫性深膿胞 *Echyma gangraenosum caeheticorum.*

異名 壞疽性深膿胞症 *Echyma gangraenosum (Hirschmann-Kreibich).*

釋義 惡疫質ノ小兒ニ多發スル所ノ銳縁ヲ有スル小潰瘍ニシテ、屢死ヲ致ス。

症候 惡疫質ノ小兒ノ皮膚ニ深在性淡紅色ノ小結節又ハ鑷色ノ結節散發シ、殊ニ後者ニアリテハ中心ニ紅褐色ノ出血性乾痂ヲ生ジ速ニ増大シテ陷沒スベシ、而シテ此血痂ハ壞疽組織ヨリ成ルガ故ニ底面ニ固著シテ白血球ニ圍繞セラレ、終ニ放離セラレバ、其跡宛モ癩ヲ以テ穿テルガ如ク(穿孔病 *Malum terribile*)邊縁銳利ニシテ硬ク浸潤

シ、依然紅褐色ヲ帶ブベシ。時トシテ附近ノモノ互ニ相融合スルコトアリ、患兒幸ニ生ヲ保タバ其跡ニ境界明劃ナル圓キ癩痕ヲ留ムベシ。

部位 肛圍陰部下腹部等ヨリ始マリ、又ハ頸部ヨリシテ他部ニ及ブ。

病型 本症ハ榮養不良重症ノ傳染病及體質病(微毒糖尿病、結核、窒扶斯麻刺利亞等)ニ起因スル惡液質ノ小兒ニ來リ、殊ニ一歳乃至三歳ノ間ニ多ク、大人ニハ稀ナリ。解剖上原疹ハ出血性壞疽性炎症竈ヲ呈ス。

原因 壞疽中ニハ常ニ綠、膿桿菌ヲ證明スクライビヒ氏(Krywicki)。

診斷 惡疫質多發性壞疽小兒ニ多シ。

豫後 患者ノ全身狀態ニ關係シ、惡液質早ク去レバ豫後隨ウテ良キモ、多クハ死ス。

療法 榮養ヲ善クシ、鐵劑規尼涅亞砒酸等ヲ與ヘ、勉メテ惡疫質ヲ除キ、藥浴(リゾール、過滿俺酸加里硫肝等)ヲ命ジ、濕布繃帶又ハ一〇%プロタルゴール軟膏ヲ貼用スベシ。

第十六章

癤 腫 Furunculosis.

釋義 化膿菌ニ因ル皮膚及皮下結締織中ノ急性限局性炎症ニシテ、圓錐狀ニ腫起シ、真皮及ビ其附屬器官ノ一部ノ膿潰壞疽ヲ起スモノナリ。

種別 本症ヲ分チテ脂腺癤腫及ビ蜂窠織癤腫ノ二種トナスベシ。脂腺癤腫 Talgdrüsen-furunkel 又毛癤腫 Follikularfurunkel ハ病毒毛囊口ヨリ入リテ毛囊炎及ビ毛囊周圍炎ヲ起シ、中心ニハ壞死セル組織ヨリ成レル栓塞ヲ有シ、蜂窠織癤腫 Zellgewebefurunkel ニアリテハ中心ニ栓塞ヲ作ラズシテ、病竈皮膚ノ深層中ニ發生ス。一ニ肝腺癤腫 Schweißdrüsenfurunkel 又汗腺炎 Hydradenitis ノ目アリ。

症候 脂腺癤腫ハ鮮紅色微小ノ丘疹又ハ膿疱ヲ以テ始マリ、硬結漸ク加ハリ紅暈増大スルト共ニ中心崩潰シテ壓抵スレバ僅少ノ膿汁ヲ漏シ疼痛甚シ。斯クテ炎症數日間依然トシテ持續スルヤ體熱弛張シテ三十八九度ニ及ビ違和倦怠シテ食思缺乏シ時時惡寒アリ、然ル後膿瘍遂ニ破潰シテ濃厚ノ血膿ヲ排泄スルト共ニ中心ノ壞疽組織放離セラレテ潮紅腫起一時ニ減退シ、患者急ニ輕快ヲ覺ユルニ至ル。而シテ膿瘍洞ニハ肉芽速ニ新生シテ其跡ヲ充填シ、二三週間ヲ出デザルニ圓形暗紅色ノ癩痕ヲ作りテ全癒スベシ。

脂腺癤腫 又毛囊癤腫

蜂窠織癤腫

汗腺癤腫 又汗腺炎

蜂窠織癰腫ニアリテハ膿痂疹又ハ瘡瘡ノ前驅スルコトナクシテ直チニ深層ノ結節
狀浸潤ヲ來シ搏動性疼痛アリ徐ロニ皮膚ノ表面ニ近ヅキテ其潮紅腫起ヲ致シ五六
日ノ間ニ内部ヨリ膿潰シテ皮膚ニ穿孔又ハ數孔ヲ穿テ多量ノ血膿ヲ漏泄スルニ至
ルモノニシテ前者ニ比スレバ經過較長ク全身症候モ亦著シキヲ常トス。

部位 顔面頸部臀部等ニ最モ多シ蜂窠織癰腫ハ腋窩乳房陰囊會陰大陰唇等ニ好發ス。

經過 輕キハ二三日重キモ數週ヲ出デズト雖モ數淋巴管炎及ビ淋巴腺炎ヲ伴ヒ稀
ニハ蜂窠織炎栓塞性靜脈炎膿毒症敗血熱ノ爲ニ斃ルコトアリ特ニ顔面(口唇)及ビ
頭部ノ癰腫ハ注意スベシ邦俗最モ面疔ヲ忌ムモノ蓋シ謂レナキニ非ズ。

癰腫症

初生兒多發性皮膚
潰瘍

癰腫ハ單發スルアリ數箇竝ビ生ズルコトアリ或ハ數月ノ間反覆シテ發生スルコト
アリ殊ニ青年期ニ多シ其慢性ニ出沒スルモノヲ癰腫症 Furunkulosis ト稱ス。
時ニ嬰兒ニ於テ多數ノ蜂窠織癰腫ヲ作ルコトアリ隨ツテ破潰スレバ隨ツテ新生シ、
全身殆ド完膚ナキニ至リ發熱稽留シ甚シキ衰弱ヲ致スベシ大抵榮養不良ニシテ皮
膚枯槁セル初生兒ヲ侵シ頭部頸部臀部大腿等ニ最モ多ク生ズ但シ普通ノ癰腫ニ比
スレバ疼痛劇合ニ輕ク而カモ容易ニ膿瘍ヲナスノ傾キアリ(初生兒多發性皮膚膿瘍
multiple Hautabszesse der Neugeborenen)。

原因 壞疽組織ヲ繞リテ圓細胞ノ浸潤著シク周圍結締織ノ膿潰ヲ致ス。

原因 化膿菌殊ニ葡萄球菌ノ竄入ニ因ルモノニシテ衣帶ノ摩擦皮膚ノ糜爛搔破等ハ正
ニ細菌ノ附著ヲ容易ナラシムベシ是レ搔痒性皮膚病濕疹疥癬瘡疹等癩瘡膿痂疹等ニ於

テ數本症ヲ繼發スル所以ナリ又ハ化膿菌久シク表皮中ニ潜伏セルモノ皮膚ノ刺戟狀態
ニ於テ卒然病毒ヲ選ウシテ自體感染ヲナスコトアリ若クハ血行ニヨリテ一處ヨリ他處
ニ轉移スベシ糖尿病腎臟炎急性熱性病ノ恢復期等ニアリテハ皮膚ハ化膿菌ニ對シテ殊
ニ嗜好ナル培養基タルモノ、如シ。

豫後 單獨性癰腫ニアリテハ多クハ佳良ナリ但シ短時日ノ間ニ再發スルコト多シ。

診斷 中心ニ膿點アル紅疹周圍ノ炎症性紅暈疼痛發熱急性ノ經過。

類症鑑別 尋常性瘡癤 Acne vulgaris 多發多形ニシテ疼痛ナク經過較緩慢ニシテ全身症
狀ヲ缺ク微毒疹 Syphilide 疼痛ナク急性炎ノ徵候ヲ缺キ經過慢性ナリ他ニ微毒ノ徵
候ヲ認ムベシ蜂窠織炎 Phlegmone 瀰漫性ニ皮膚廣ク潮紅浮腫シテ硬韌トナリ熱度常
ニ高シ。

療法 初期ニ於テ硬結未ダ甚シカラザル時ハ勉メテ吸收ヲ催スベシ即チ撒里矢兒酸
石鹼硬膏水銀硬膏ヲ貼用シ又ハコルラルゴール水銀軟膏ノ類ヲ塗擦ス。

化膿既ニ顯著ニシテ中心ニ穿孔シ黃色ノ壞疽組織少シク露出スルニ至レバピール
氏鬱血療法ヲ試ミ又ハ切開スルヲ例トスルモ著者ハ好ンデ左方ヲ施ス即チ古加因
水ノ少量ノ自然ノ穿孔ヨリ注入シ又ハ附近ニ注射シタル後細長ノ銳匙ヲ穿孔部ヨ
リ插入シテ縱橫ニ内部ヲ搔破シ排膿ト共ニ壞疽組織ヲ摘出ス然ル後硼酸濕布ヲ施
シ又ハ輕症ニアリテハ單ニ軟膏(デルマトールアイロール)硼酸ヲ貼用スレバ數日ニ
シテ全然治癒シテ幾ド痕跡ヲ留メザルベシ。

勿論浸潤深クシテ炎症著シク而モ温卷法ニヨリ尙ホ速ニ膿潰ノ望ミナキニ於テハ切開ヲ要スベシ但シ顔面ノ如キ永ク刀痕ノ醜形ヲ貽スヨリハ勉メテ保守的療法ヲ試ムベキナリ。

嬰兒ノ多發性癰腫ハ刀尖ヲ用キテ一々切開スベシ其全ク再發セザル迄ニハ往々數週間ヲ要スルコトアリ。

内服ニハ麥酒酵母ヲ用キテ往々奏效スルコトアリ又ハ其製劑タルチエロリン丸一日三回二粒乃至三粒ヲ試ムベシ。

症候的癰腫ニアリテハ原發病ノ治療ヲ圖ルベキハ勿論ナリ初生兒多發性癰腫ニ罹レル嬰兒ニハ沃度鐵劑等最モ宜シ。

癰疽 Carbunculus.

釋義 癰疽ト同ジク化膿菌ノ感染ニ基ク急性局在性皮膚炎ニシテ深層ニ占據シ部位廣大ニシテ數多ノ栓塞狀壞疽ヲ呈シ進行ノ傾向遙ニ旺盛ナリトス。

癰疽ノ名ハ孟子以後諸史ニ見ユ醫籍ニハ素問ニ癰疽アリ陰樞ニ癰疽篇アリ疽者上之皮天以堅上如牛領之皮癰者其皮上薄以澤トアリ明カニ深在ト淺在トノ差別ヲ見ル病原候論ニ至テハ敘述最モ審ナリ曰ク腫一寸至二寸癰也二寸至五寸癰也五寸至一尺癰疽也一尺至三尺者名曰竟體癰又曰ク少苦消渴年至四十已上多發癰疽又曰ク凡發癰疽高者

疹源淺腫下者疹源深大熱者易治小熱者難治初便大痛傷肌晚乃大痛傷骨諸癰發於節者不可治也又曰ク都半鞣者未有膿也按之半鞣半軟者有膿也又以手掩腫上不熱爲無膿。

若熱甚者爲有膿凡覺有膿宜急破之不爾侵食筋骨也云々又陰樞ニ癰發四五日退燒之ト

アルハ灸治法ニシテ後世ニ至リテ益稱用セラレ外科正宗ニハ凡疔初起惟除項之上餘皆竝用艾火トアリ我邦ニテハ天正記ニ後陽成天皇ノ癰疽ヲ今大路道三灸燭ヲ柱テ治シ岩淵夜話ニ家康ノ癰疽ヲ患ヒテ危篤ニ及ビタル時本多重次ノ勸メニテ亦灸治ニヨリ癒エタリトアリ癩科秘錄ニハ詳ニ其適應症ヲ説ケリ。

症候 概シ高熱戰慄ヲ以テ始マリ直徑數仙米ノ炎症性浸潤ヲ呈シ底面ハ深ク筋膜ニ達シテ移動スベカラズ表面ハ發赤腫脹シテ硬キコト板ノ如ク加フルニ搏動性劇痛アリ既ニシテ其中央部暗紫色トナリ幾多ノ膿點ヲ生ジ遂ニ蜂窠ノ如ク穿孔シテ壞疽性栓塞ヲ露出スベシ尋デ排膿漸ク加ハリ約三週ニシテ壞死セル眞皮及ビ皮下組織全然放離セララルト共ニ炎症漸ク消退シ健康ノ肉芽新生シ五六週ノ間ニ全ク缺損部ヲ充填スベシ然レドモ斯ノ如キ良好ノ經過ヲ取ルコトハ稀ニシテ多クハ病勢更ニ周圍ノ組織ニ進行スベシ。

全身症狀ハ初メヨリ重態ニシテ高熱戰慄劇痛不眠等ノ爲ニ患者速ニ衰弱シ虛脱ニ陥リ易シ。

本症ハ四十歲以後ニ最モ多ク老年ニ及ブニ從ヒ危險益大ナリ。

部位 項部及ビ背面ヲ好發部トシ間亦顔面頰口唇臀部等ニ生ズ其他ノ部分ニ發生

スルコトハ甚ダ稀ナリ、顔面ノ癰疽ハ靜脈栓塞ノ虞アルガ爲ニ特ニ危險ナリ。

解剖 本症ノ初期ニ於ケル組織的變化ハ未ダ詳ナラズ。

原因 癰腫ト同ジク化膿菌ニ因リテ生ズ。而シテ病竈ノ深キト病毒ノ劇烈ナルト及ビ患者ノ素質(高齡糖尿病等)トニヨリ本病ヲ誘致スルモノナルベシ。

診斷 限局セル皮膚ノ腫起及ビ潮紅板ノ如キ硬結、數箇ノ膿潰口、劇痛惡寒戰慄、高熱等。
類症鑑別 癰腫、Furunculus、位置淺ク形狀小ニシテ、浸潤ハ基底ヨリ移動スベク膿潰口多クハ單箇ニシテ全身症狀遙ニ輕シ。蜂窠織炎、Phlegmone、最初ハ鑑別ニ苦ムコトアルモ總ジテ皮膚ノ發赤本症ノ如ク著明ナラズシテ較、蒼白ナリ。

豫後 數、不良ナルコト前述ノ如シ、特ニ糖尿病患者ニ在リテハ最モ危險ナリ。

療法 本病ニアリテハ只迅速ニ且ツ十分ニ切開スルノ一途アルノミ、切開ノ後殘存セル壞疽組織ハ成ルベク完全ニ切除スベシ。但シ糖尿病患者ニアリテハ保守的療法ヲ主トシテ蒸罨法(三%硼酸水、一%レゾルチン水)ヲ持長シ經過ヲ俟ツベシ。
切開ハ普通之ヲ十字形ニ施シ、猶ホ不足ナラバ更ニ各瓣ニ一刀ヲ加フベシ。マーデルング氏 *Madelung* ハ健康部ニ沿ウテ患部ノ三方ヲ切開シテ之ヲ底面ヨリ剝離シ乾燥繃帶ヲ施シ七八日ノ後創面ノ乾燥スルヲ待ツテ、第二期縫合ヲ行キ皮膚ヲ舊位ニ復スルノ法ヲ推奨セリ。

脾脫疽 Anthrax.

異名 惡性膿疱 *Pustula maligna*, Malignant pustula.

釋義 脾脫疽菌ノ皮膚ニ於ケル原發的感染ニ因リテ發生スル限局性壞疽ヲ謂フ。

症候 感染後二三日稀ニハ七八日ノ潜伏期ヲ經テ小丘疹ヲ生ジ、瘙癢アリ。一晝夜ヲ出ズシテ麻實大乃至豌豆大ノ血性水泡ニ變ジ、尋テ褐色ノ乾痂ヲ生ズベシ(コラニイ氏 *Koranyi* ノ所謂第一期)而シテ其基底及ビ周邊ニハ硬キ浸潤アリテ著明ノ炎症浮腫之ヲ圍ミ、更ニ其上ニ同一ノ血性水泡環生シテ中心ノモノト融合シ、次第ニ厚層ノ痂皮ヲ作り、其下ニハ尙ホ境界明割ナル硬キ結節ヲ觸知スベシ(第二期)。是ニ於テ病勢一旦休止シテ分界線ヲ作り、痂皮ト共ニ壞疽部放離セラル、ニ至ラバ、肉芽新生シテ速ニ治癒スベシ。若クハ腫瘍迅速ニ増大シテ周圍ノ浮腫益、加ハリ、淋巴管炎及淋巴腺腫ヲ來シテ熱發スベシ(第三期)。稀ニハ患者衰弱甚シク頭痛眩暈嘔吐血便等ノ如キ全身感染ノ症候ヲ呈シ、終ニ昏睡ニ陥リ、癩癩様又ハ破傷風様ノ發作中ニ斃ルベシ。
間 所謂脾脫疽浮腫 *Milzbrandodem* ヲナスコトアリ。斯症ニアリテハ局處反應缺如シ或ハ極メテ輕微ニシテ、浮腫卒然廣ク發生シ、初メハ蒼白ニ後ニハ潮紅シ、表面ニ水泡紫斑及ビ痂皮ヲ被ムリ、好シデ眼險手腕等ニ發生ス。
或ハ單ニ創面及ビ膿疱ノミヲ作り、細菌ノ證明ニヨリ始メテ其本症タルヲ知ルコトアリ。

経過 迅速ニシテ第一期ヨリ第三期ニ至ルニ往々三四日ヲ出デズ。死亡ノ場合ニハ通常第一週ノ終リ第二週ヲ始メニ於テス。

部位 露出部ニ多ク、特ニ顔面及ビ頭部ニ來リ、次ハ手甲前膊頸部ニシテ、爾餘ノ部位ニハ遙ニ寡シ。

原因 脾脱疽菌 *Bacillus anthracis* ハボルレンデル氏 *Pollender* (一八四九年) 及ビグデーメ氏 *Dyrcan* (一八五〇年) ノ發見ニ係リ、容易ニ水疱ノ内容及ビ潰瘍ノ分泌物中ヨリ證明シ得ベシ。本症ハ

牧童屠者獸醫革屋靴屋等ニ多シ、又蒼蠅ニヨリ病毒ノ傳播セラル、コトアリ。

解剖 漿液纖維性壞疽性急性炎症ノ微候ヲ有シ、白血球ノ浸潤著明ニシテ、真皮浮腫シ血管及淋巴管擴張シ、病竈ヨリ浮腫帶ニ至ル間ノ淋巴管中ニハ脾脱疽菌ノ填塞スルヲ見ル。

診斷 固有ノ症ニアリテハ中心ノ痂皮ト周圍ノ水疱環、高熱ニ伴ウ全身症狀等ニ據リテ診斷困難ナラズ、且ツ患者ノ職業、獸疫ノ有無等ヲ質シテ參考ニ供スベシ、而モ確診ヲ下スニハ水疱ノ内容又ハ痂皮下ノ組織液ヨリ脾脱疽菌ヲ染色シ又ハ培養スルヲ要ス。

類症鑑別 癰腫 *Furunculus* 経過割合ニ長ク、頂點ニハ黃色ノ壞疽性栓塞アリ、浮腫著シカラズ、全身症狀微ナリ。癰疽 *Carbunculus* 表面蓮子ノ如ク數多ノ栓塞アリ、疼痛劇烈ニシテ経過較、緩慢ナリ。蜂窠織炎 *Phlegmone* 脾脱疽性浮腫ハ主トシテ皮膚中ニ存シ、早ク水疱ヲ生ジ且ツ疼痛ヲ缺クモ、蜂窠織炎ニアリテハ病勢筋間組織中ニ侵入シ易ク、其ノ漿液性血性水疱ヲ作ルハ初期ニ於テセズシテ必ズ數日ノ後ニ於テシ、且ツ切開ス

レバ漿液性膿性腐敗性創液ヲ漏シテ、脾脱疽性浮腫ニ於ケル浮腫液ト同ジカラズ、疼痛又劇烈ナリ。丹毒 *Erysipelas* 多ク戰慄ヲ以テ始マリ、其鮮紅色ノ邊縁ハ少シク隆起シ浮腫ハ輕微ニシテ潮紅面ニ限レリ、之ニ反シテ脾脱疽性浮腫ハ遙ニ潮紅部ヲ超エ且ツ其高熱ハ浮腫ノ著明ナルニ至リテ始メテ潮來スベシ。

豫後 嚙下性及吸入性脾脱疽ノ危険ナルニ似ズ、皮膚脾脱疽ハ多クハ病變局在スルガ故ニ甚ダ不良ナラズトス、但シ脾脱疽性浮腫ノ廣大ナルモノハ重患ニ屬ス。此他部位ニヨリテ亦自ラ輕重ノ差アリ、四肢ニ來ルモノハ頭部頸部軀幹ニ來ルモノヨリモ遙ニ良好ナリ。ナサロウ氏 *Nasawa* ハ百八十名ニ就テ死亡率一七%ヲ得、獨逸帝國疫病報告(一八八六年—一八九三年)ニ據レバ本患者五百名中死亡率七%ヲ算セリ。

療法 エスマルヒ氏驅血帶ヲ施シテ局處ヲ廣ク周圍ヨリ切除シ且ツ燒灼スルヲ最モ安全ナリトス。若シ周圍ニ尙ホ浮腫ヲ存セバ、三—五%石炭酸水一%昇汞水又ハ酒精ノ數筒ヲ一日二三回宛浮腫ノ去ルマデ注射スベシ。其他局處ニ硼酸水昇汞水等ノ巻法ヲ施シ、全身症狀ニハ適宜對症療法ヲ施シ、殊ニ規尼濕(一日二〇)ト石炭酸(一日一〇)ノ合劑ヲ稱用ス。

脾脱疽血清ハバストル氏 *Yastur* ノ創意スル所ニシテ、スグラホ氏 *Sikro* マルシウ氏 *Marchoux* ヲ經テゾムルンハイム氏 *Sobornheim* ニ至リ、最モ有效ノ免疫血清ヲ得、又之ヲ脾脱疽ニ罹レル動物及ビ人間ニ注射シテ數、治效ヲ收メリ(コルレ氏 *Kollie*)。

引用書目

- 1. Paltauf, Vierteljahresschrift f. gerichtl. Medizin. 1855.
- 2. Scherrenheim, Immunität bei Milzbrand. Handbuch der pathol. Mikroorganismen. Bd. IV. 1904.
- 3. Kelle u. Hesch, Die experimentelle Bakteriologie. 1908.

蜂窠織炎 Phlegmone.

釋義 化膿菌ノ爲ニ起ル皮下組織及皮皮膚ノ瀰漫性炎症ニシテ化膿ノ傾向ヲ有ス。
症候 戰慄・高熱ヲ以テ始マリ、割合ニ廣キ皮膚面ニ硬靱ニ又ハ柔軟ナル腫脹ヲ來シテ、炎症ノ徵候著シク暗紅浮腫ヲ呈スベシ。此腫脹ハ概テ卒然ニ發シ之ニ觸ルレバ劇痛アリ、境界分明ナラズシテ徐々ニ健康部ニ移行スベシ。炎症更ニ加ハルトキハ處々ニ波動ヲ呈シテ自然ニ破潰シ、若クハ切開ニヨリテ多量ノ臭膿ヲ排泄スルト共ニ炎症速ニ去リ體溫急ニ下降スベシ。此際膿瘍ハ深ク筋膜筋層又ハ骨面ニ達シテ壞死セル組織ノ斷片ヲ混ジ、其全然放離セラル、ト共ニ新肉芽ヲ發生シ、尋デ癬痕收縮ヲ遺シテ治癒スベシ。時トシテ淋巴管炎、敗血膿毒症ノ爲ニ危殆ニ陥ルコトアリ。
 急性・化膿性・水腫又電擊性・壞疽。das acute phlegmone Oedem s. Gangrène foudroyante (Virchow) トハ特ニ惡性蜂窠織炎ニシテ、病勢ノ進行迅劇ヲ極メテ速カニ壞疽ニ陥リ、瓦斯ヲ含メル惡臭ノ膿液浸潤シ、症候極メテ險惡ナルモノヲ謂フ。
部位 四肢ニ生ズルコト最モ多シ。

急性化膿性水腫又電擊性壞疽

原因 輕症ニシテ限局セルモノハ黃色及白色葡萄狀菌ニ因リ、重症・進行性ノモノハ化膿性連鎖狀菌ニ因リテ起ルモノニシテ、必ズ多少ノ外傷ニ續發スルモノナリ。

診斷 高熱・惡寒・戰慄ニ伴ウ廣汎ナル皮膚ノ潮紅腫起、其境界ノ不明、深組織ノ浸潤・波動・膿潰。

類症鑑別 丹毒 Erysipelas. 境界明割ニシテ、炎症性浸潤ハ深組織ニ及バズ、皮膚隨ツテ柔軟ナリ、數、表面ニ水疱ヲ生ズ。紅斑性・濕疹 Eczema erythematosum ハ搔痒劇烈ニシテ而モ疼痛ナシ。間、惡寒アルモ、熱度低ク多クハ缺如ス。

豫後 熱度高ク膿ノ排泄十分ナラザル間ハ警戒ヲ要ス。

療法 初期ニアリテハ患部ヲ高舉シ、銀軟膏又ハ水銀軟膏ヲ塗擦シ、硼酸水ブロウ氏液又ハ酒精ノ濕布ヲ施シ、化膿セバ深ク數箇處ヲ切開シテ、壞疽組織ヲ搔破シ去リ、沃度仿談綿紗ヲ插入シ、濕布繃帶ヲ施スベシ。化膿尙ホ進行セバ、更ニ切開ヲ施シ、且ツピロゾンヲ以テ創面ヲ清拭シ肉芽面ノ發生ヲ促スベシ。

丹毒 Erysipelas.

異名 羅斯 Rose 火丹 赤遊丹 はやくさもへくさもへじり。

釋義 皮膚及皮之ニ連接セル竅口ノ粘膜ニ於テ、數、輕微ノ損傷ヨリシテ發生スル境界明割ナル炎症性潮紅及腫脹ニシテ、迅速ニ蔓延スル傾向ヲ有シ、傳染性著シク、常ニ

多少ノ全身症狀ヲ伴フ。

症候 十五時乃至六十時間ノ潜伏期ノ後卒然惡寒戰慄ヲ以テ始マリ高熱ヲ發シ、嘔吐ヲ伴ヒ、倦怠疲勞、肢痛、口渴、食思缺乏等ノ全身症狀アリテ、皮膚ノ一局部ニ丹紅斑ヲ生ジ、境界分明ニシテ微シク隆起シ、壓抵スレバ略褪色スベシ。自覺的ニハ熱灼緊張ノ感アリテ潮紅及ビ腫脹ノ進行スルニ從ヒテ疼痛アリ。

固定丹毒 Erysipelas fixum ニアリテハ紅斑數日ノ間ニ増加シテ掌大又ハ其ノ倍以上ニ及ブヲ最高潮期トシテ、丹紅變ジテ暗紅トナリ淡黃褐色トナリ次第ニ消褪スルト共ニ腫脹減ジテ緊張去リ熱度亦下降シテ、患部ハ枇杷様ノ落屑ヲ呈シ二三週間ニシテ全治スベシ。

- 遊走丹毒又赤遊丹
- 小泡性又粟粒丹毒
- 水疱性丹毒
- 融合性丹毒
- 結痂性丹毒
- 壞疽性丹毒
- 蜂窠織炎性丹毒

若クハ潮紅益々蔓延ノ傾向ヲ有シ、一方又ハ多方面ニ連續的ニ若クハ飛躍的ニ進行シテ半島ノ如ク孤嶼ノ如ク離レテ復々合シ宛然地圖狀ヲナシ、遂ニ身體ノ大部分ニ及ブ之ヲ遊走丹毒又赤遊丹 E. migrans s. ambulans トナス。時トシテハ一旦消滅セル部分ニ於テ再燃スルコトアリ。此他潮紅面上ニ小水疱ヲ散點シ(小泡性又粟粒性丹毒 E. vesiculosum s. miliaris) 或ハ澄明又ハ帶黃紅色ノ水疱ヲ生ジ(水疱性丹毒 E. bullosum) 往々ニシテ互ニ融合シ(融合性丹毒 E. confluent) 且ツ内容ノ吸收又ハ漏泄ニヨリテ痂皮ヲ作ル(結痂性丹毒 E. crustosum) 時トシテハ組織中ニ漿液ノ滲溜スルコト甚シク、血行之妨爲ニ阻碍セラレテ皮膚ノ一部壞疽ニ陥ルコトアリ(壞疽性丹毒 E. gangrenosum) 若クハ病毒更ニ深層ニ入りテ皮下組織中ニ膿腫ヲ作ルコトアリ(蜂窠織炎性丹毒 E. phleg-

monosum)

遊走丹毒ハ蔓延ノ程度ニヨリテ數週數月ヲ要シ、若クハ一旦治癒セル後時ヲ隔テ、一年ニ一回又ハ數回再發スルコトアルベシ。蜂窠織炎性及壞疽性丹毒ハ最モ險症ニ屬シ、經過迅速ニシテ食思全ク缺乏シ、口渴却テ甚シク數、嘔吐アリ、呼吸促進シ、頭痛劇烈ニシテ、精神瀟灑シ、譫語アリ、終ニ昏睡ニ陥リテ斃ルベシ。其間往々數日ヲ出デズ。此他合併症中殊ニ多キハ淋巴管炎及ビ淋巴腺炎トナス。頭部ノ丹毒ニハ腦膜炎及ビ腦水腫ヲ來シ易ク、軀幹ノ丹毒ニハ間、心包炎、肋膜炎等ヲ兼發スベシ。

熱候ハ前ニモ述ベシガ如ク卒然上昇シテ四十度乃至四十一度ニ及ビ、朝間ニハ三十七度五分乃至三十八度ニ下降シ、弛張性又ハ間歇性ヲ示シ、然ル後分利的又ハ換散的ニ解熱ス、而シテ患部ノ新ニ進行スル場合ニハ毎ニ體溫ノ上昇ヲ見ルベシ、但シ熱度ノ高下ハ必シモ症ノ輕重ヲ意味セズシテ、重症ニシテ間、輕熱(三十八度乃至三十八度五分)ニ止マルコトアリ。

部位 顔面頭部ニ最モ多シ、就中顔面丹毒ニアリテハ眼瞼浮腫シテ眼常ニ閉テ、口唇外翻シテ口常ニ開キ、鼻頭耳朶亦甚シク腫大スベシ。之ニ反シテ頭部丹毒ハ皮膚緊張スルガ故ニ浸潤平等ナリ。其他頸部、軀幹、陰部、四肢等孰レノ場處ニモ發生スベシ。大抵病勢進行シテ一定部位ニ到レバ急ニ停止スルモノナリ、殊ニ皮膚ソノ下層ト相緊著スル處ニ於テ然リ、例ヘバ後頭部丹毒ハ頸部ニ至リ、軀幹丹毒ハ腸骨冠又ハ髀部ニ至リテ止マルノ類ナリ。下顎縁ノ顔面丹毒ニ於ケル、鼠蹊窩ノ腹部丹毒ニ於ケルガ如キモ

亦恰好ノ防禦線タリ。

粘膜特ニ鼻口咽喉ニ於テモ數、原發的及續發的丹毒ヲ來スベシ。

論理 本症ハ老幼男女ヲ問ハズ發生スルモノナレトモ、或者ハ特異ノ素因ヲ有シテ數回本症ニ罹リ又ハ同一部ニ於テ幾回カ再發スルコトアリ。同一局處ニ再發スルモノハ初發ニ比スレバ局處及全身症狀較輕微ナルヲ例トスルモ、皮膚漸々肥厚シテ象皮病狀ニ變スベシ。蓋シ丹毒ノ發生ハ必ズ皮膚又ハ粘膜ノ小裂傷ヨリスルモノニシテ、例ヘバ鼻腔口、眼角等ノ皸裂、頭部顔面外聽道等ノ濕疹膿痂疹等ノ如キ即是ナリ。若クハ大ナル潰瘍外科的創傷等ニ伴ヒ、幼兒ニアリテハ數、臍窩又ハ種痘疱ヨリ發生ス。再發性丹毒ハ深層ニ於ケル局處的病機、例ヘバ慢性鼻炎、顔面副竇ノ化膿、中耳炎、四肢骨髓炎等ノ潛伏スルニ基クモノ多シト知ルベシ。

原因 フォールアアセン氏 *Falkson* ハ丹毒連鎖狀球菌 *Streptococcus erysipeloides* ヲ以テ原因トナスモ、ハエーク *Hoyek* アセルスヘルグ *v. Eiselsberg* フレンケル *E. Frankel* ウグター *Ugta* 諸氏ガ連鎖狀化膿球菌ヲ川井テ家兎ノ耳ニ丹毒ヲ起シ得タルヲ始メトシ、ヘトルシキイ氏 *M. Muehly* ハ新鮮ナル腹膜炎膿汁ヨリ得タル連鎖狀球菌ノ純培養ヲ二人ノ癌腫患者ニ接種シテ亦固有ノ丹毒ヲ來セリ。此他ゾルダン *Jordan* フェルゼンター *Felsenthal* 諸氏ハ黃色葡萄狀球菌ヲ川井ベトルシキイ及デリウス *Delius* 兩氏ハ大腸菌ヲ川井、ノイフェル下氏 *Neufeld* ハフレンケル氏肺炎菌ヲ川井テ執レモ家兎ノ耳ニ丹毒ヲ發生シ得タリト云ヘリ。而シテボノーメ *Bonome* ボンヂニー、ウップレヅッチー *Bondini-Upprecht* 諸氏ハ臨牀上ヨリシテ化膿菌性丹毒ノ存在スルコトヲ報告シ、著者モ亦嘗テ固有ノ丹毒患者ニ就テ助手中野氏ト共ニ

丹毒連鎖狀球菌

嚴正ナル細菌検査ヲ施シテ毎回黃色葡萄狀菌ノ純培養ヲ得タルコトアリ。

是ニ由テ之ヲ觀レバ丹毒ニハ固有ノ丹毒球菌ヲ存セズシテ、人間ノ丹毒ハ丹毒患者以外ヨリ得タル連鎖狀球菌ニ依リテモ亦發生シ得ルモノナリ。且ツ葡萄狀化膿菌ニヨルモ臨牀上丹毒ト同一症狀ヲ呈スルコトアリ。而シテ病毒感染ハ直接ニ丹毒患者ヨリシ、或ハ中間ノ人間器械、繻帶品等ニ依リテ媒介セラル、モノトス。

論理 眞皮皮下組織及表皮ニ於ケル小細胞性漿液性浸潤ヨリ成リ、種子層ニハ細胞ノ膨大、瀰濁、壞疽ヲ認メ、眞皮及表皮下組織中ニハ結締組織纖維ノ膨大及ビ分解アリ。淋巴管血管周圍ノ間隙竝ニ淋巴腔ニハ連鎖狀球菌ヲ充填スルモ、毛細管中ニハ之ヲ缺キ且ツ潮紅、面ヲ距ルコト二三仙米ニ及ベバ細菌及ビ小細胞浸潤漸ク其跡ヲ絶ツベシ。

診斷 戰慄、高熱ニ伴フ炎症性紅斑、境界明劃ニシテ、腫脹、熱痛著シク、數、水疱ヲ形成シ、進行迅速ナリ、且ツ紅斑ノ中心又ハ附近ニハ多クハ損傷ヲ發見スベシ。

類症鑑別 單純性紅斑 *Erythema simplex* 中毒性器械的濕熱的紅斑ノ如キ孰レモ境界明劃ナラズ且ツ熱發セズ、多形滲出性紅斑 *E. exsudativum multiforme* ハ熱發腫脹アルモ紅斑散在シ且ツ増大セズ、融合稀ナリ、部位多クハ四肢ノ伸側ヨリ始マリ、對生スベシ。紅斑性濕疹 *Eccema erythematosum* 熱發ナク、疼痛ナクシテ、瘙癢ハ却テ著明ナリ、且ツ紅斑ノ境界分明ナラズシテ附近ニ小水疱又ハ丘疹ノ散點スルヲ認ムベシ。蜂窠織炎 *Phlegmone* 熱候アリ、腫脹疼痛アリ、潮紅亦著明ニシテ丹毒ニ類似シ、一ニ假性丹毒 *Pseudo-Erysipel* ノ稱アルモ、暗紅色ヲ帶ビ境界明劃ナラズ、且ツ深層ニ於ケル炎症性浸潤遙ニ著明ニ

シテ患部板ノ如ク固ク、切開スレバ膿液ヲ漏シ臭氣酷シ。急性淋巴管炎 Lymphangitis acuta ニ於ケル潮紅ハ線狀又ハ紐狀ヲナスノミ。

類丹毒

類丹毒 Erysipeloid (Rosenthal) ハ丹毒トハ別症ヲナシ、主トシテ家畜業者、鞣工、屠人等ニ來ル所ノ指頭ノ炎症ニシテ、暗紅色乃至蒼紅色ノ腫脹ヲ呈シ、境界分明ニ且極メテ徐々ニ進行シテ、約一週ニシテ僅ニ指頭ヨリ掌骨部ニ達スベシ。而シテ局處ニ瘙癢ト刺痛トヲ感ズルノ外、毫モ全身症狀ヲ伴ハズ又熱發セザルヲ以テ丹毒ト鑑別シ得ベシ。但シ稀ニ顔面ニ來リテ宛モ蝶翅ノ形ヲナシ、偏側ニ又ハ兩頰ニ發生スルトキハ丹毒ト誤診シ易キガ故ニ毎ニ熱候ノ有無ニ注意スベシ。

併發 合併症ナキ場合ニハ總ジテ佳良ナルモ、遊走丹毒ニアリテハ中毒作用ニヨリテ心力減弱シ虚脱ヲ來シテ死ヲ致スコト太ダ稀ナラズ。此他窒扶斯患者ニ續發シ又ハ産褥婦ニ發生スルモノハ危險殊ニ多シ。初生兒若シ丹毒ニ罹ラバ概テ斃ルベシ。又脱疽淋巴管炎漿液膜疾患等ヲ併發セバ特ニ警戒ヲ怠ルベカラズ。

丹毒ノ死亡統計ハ〇・八五%乃至一%ノ間ニ在リ(チルツェル氏 Zilber)。

療法 丹毒患者ハ其恢復期ニ於テモ尙ホ能ク病毒ヲ他ニ傳播スベク且ツ連鎖狀球菌ハ體外ニ於テ長ク生存シ得ルガ故ニ、患者ノ起臥セル病室ハ嚴重ニ消毒ヲ行キ(ホルマリン瓦斯消毒最モ宜シ)鼻腔外聽道眼險結膜淚囊ヲ精密ニ検査シ、創傷濕疹膿痂疹等アラバ速クニ治療スベシ。是レ丹毒療法ノ第一要義ナリ。其他患者ノ用キシ襦袢縞帶ノ類ハ悉ク燒却スルヲ安全ナリトス。

丹毒ニハ正確ノ療法ナシ。始メヒヒル氏 Hilar ハ二%石炭酸水ヲ丹毒ノ進行方面ニ於ケル皮膚ニ數筒注射シ、尋デキユステル氏 Kister ガ十倍昇汞水ヲ之ニ代用セシヨリ、ウエルフレル氏 Welfer ハ器械的療法ヲ唱導シテ丹毒ノ周圍ニ絆創膏ヲ貼用シ、ニーハウス氏 Nihaus ハ更ニコロヂウムノ塗布ヲ試ミタルモ、孰レノ方法モ長ク其弊價ヲ保ツ能ハザリキ。

次デイヒチオール療法出デ、之ヲコロヂウム(二〇-五〇%)又ハ僱利施林(二〇%)ニ溶解シテ塗布シ、若クハ軟膏華攝林及ワゾゲン(三十倍乃至等分)ニ和シテ貼用シ、又兼テ丸劑又ハ膠囊(一日〇三-〇六)トナシテ内服セシム。但シ坊間ニ販賣スルイヒチオールハ純良ノモノ少ク動モスレバ皮膚炎ヲ來スコトアルガ故ニ、著者ハチオノール(下山氏無臭イヒチオール)及ビチゲノール(ロッヘ)製ヲ代用スルニ刺戟ナクシテ有效ナリ。

血清療法

血清療法ニハマルモレック氏 Marmorock ガバスター氏 Pasteur ノ研究所ニ於テ強力ノ連鎖狀球菌培養ヲ漸次増量注射シテ免疫トナシタル所ノ動物ノ血清ヨリ製出セル連鎖狀球菌血清アリ。淺川氏丹毒液モ亦試用スヘシ。

此他症狀ニ注意シ、主トシテ心力ヲ維持スル爲ニ少量ノ實麥答利斯(〇・五-二・〇〇)ストロファンツス丁幾鹽酸各一〇、右毎二時間一食匙宛内服)ヲ四五日間持長シ、全量ニ瓦ヲ超ユルトキハコッフエイン(一日〇・五-一・〇)チガール(一日三〇)ヲ代用スベシ。譫語幻覺等アラバ抱水クロラールノ内服(二-三〇)又ハ座藥(二-三〇)ヲ與フベシ。解熱藥ハ效果少ナクシテ心臟機能ヲ衰弱セシムルノ虞アリ。

序ニ丹毒ノ治療的應用ニ就テ一言スベシ。蓋シ丹毒ニ感染シテ偶然他病ノ治癒セシ
 經驗ハ十七世紀ノ頃佛人ノ始メテ報告セシ所ニシテ(救治的丹毒 Erysipèle salutaire)爾
 來腺病性淋巴腺腫慢性關節炎神經痛護膜腫狼瘡惡性腫瘍等ガ丹毒ノ併發ニ依リテ
 治癒セル例證少カラズ。著者ハ紅斑性狼瘡ノ一例ニ於テ之ヲ實驗シ、頃者富田信吉氏
 モ亦著者ニ同一例ヲ示セリ。而モ丹毒ヲ實際治療上ニ使用セントノ考ハデーブレー
 Despres リコール Ricord 諸氏ニ始マリ、獨逸ニアリテハブッシュ氏 Busch 始メテ之ヲ惡
 性腫瘍ニ移植シテ治效ヲ奏シ、フールアイゼン氏丹毒連鎖球菌ノ培養行ハル、ニ及
 ビコレイ氏 Colley ハ其培養ヲ廣ク惡性腫瘍ニ接種シテ好成績ヲ得、更ニ其病理組織ヲ
 検査シテ肉腫細胞ハ速ニ吸收セラレテ脂肪變性ヲ營ミ(リンドフライシユ氏 Rind-
 fleisch) 癌腫細胞巢ハ細菌ノ爲ニ圍繞セラレテ粘液性分解ヲ呈スト云ヘリ(ナイセル
 氏 Neisser) 然レドモ移植丹毒ノ多クノ場合ニ於テ毫モ效ナクシテ危險ノ却テ大ナル
 ヲ説ク者アリテ、廣ク應用セラル、ニ至ラズ。

引用書目

1. Kehlson, Ätiologie des Erysipels. Berlin, Fischer, 1883.

第十七章

疱疹樣膿痂疹 Impetigo herpiformis Hebra.

異名 匍行疹樣膿痂疹別譯膿毒性匍行疹 Herpes pyaemicus (Nannanz).
釋義 ヘブラ氏 Hebra (一八六九年)ノ始メテ記載セル稀有症ニシテ、多クハ妊婦ニ來リ殊
 ニ臨月ニ迫リ一種ノ進行性膿痂疹ヲ生ジ、危篤ノ全身症狀ヲ伴ヒ、概テ死ニ轉歸ス。
症候 本症ハ股陰下腹臍窩乳房腋窩等ヨリ始マリ漸次ニ他部ニ進行スルモノニシテ、
 先ヅ銅貨大ノ腫脹セル紅斑ヲ生ジ、其上ニ芥子粒大ノ小膿疱密生シ、數日ニシテ膿疱
 乾涸シテ連絡セル黒褐色ノ薄キ痂皮ヲナスト共ニ、其外周ニ於テ新ニ一帯ノ膿疱ヲ
 生ジ結痂シテ前者ト癒合スレバ、又其外方ニ新膿疱帶ヲ作ル、而シテ附近ノ健康部ニ
 於テモ多少ノ膿疱不規則ニ散點スベシ。痂皮脱落ノ跡ハ一時潮紅シ又ハ薄キ表皮ヲ
 生ジ、若クハ長ク濕潤スベシ。斯クテ漸々四方ニ進行シテ汚穢ノ痂皮鱗屑又ハ濕潤面
 色素沈著ト相交リ、只其外縁ニ於テノミ堤防狀ニ新膿疱ノ連絡スルヲ認ムベシ。皮膚
 ノ外粘膜ニモ亦膿疱ヲ發生シ、特ニ口粘膜ノ如キハ境界不正ナル灰白色ノ剝脫面ヲ
 呈シテ疼痛スベシ。
 本症ハ常ニ全身障害ヲ伴ヒ、膿痂疹ノ進行ニ伴ヒテ益々著明トナリ、屢惡寒戰慄シ、且ツ
 稽留性又ハ弛張性ノ不規則ナル熱候ヲ呈スベシ。殊ニ新ニ發疹スル際ニ於テ然リ、隨

疱疹樣膿痂疹

ツテ精神少シク朦朧トナリ、譫語アリ、舌根乾燥シテ嘔吐搐搦下痢蛋白尿等ヲ呈スベシ。大抵妊娠ノ後半期ニ於テ現ハレ、屢早産ヲ招クノミナラズ、多クハ三四週ノ間ニ死ヲ致ス。幸ニシテ危険ヲ免ル、モ恢復マデニ尙ホ三四ヶ月ノ日子ヲ要ス。而モ治癒セル患者ノ幾分ハ新ニ妊娠セル場合ニ於テ再ビ本症ニ罹リテ終ニ斃ルベシ。稀ニハ本症ヲ男子ニ於テ目撃スルコトアリト云フ。

原因 本症ノ原因ハ全ク不明ニ屬シ其妊娠ト關係アルヨリ神經性反射的機轉トナシ(カネシイ氏 Kagan) 或ハ臨牀上ニ戰慄蛋白尿、脾腫等ヲ伴ヒ、或ハ病理解剖ノ際ニ敗血性子宮内膜炎、腎臓炎、心筋炎、腸炎等ヲ認メシニヨリ、敗血症又ハ中毒症ニ歸スル者アリ(ノイマン氏 Neumann) 蓋シ後説ヲ正シトスベシ。

膿疱中ニハ細菌ヲ發見セズ(フライエル氏 Frey) 或ハ化膿菌ヲ證明セル者アリ(デュメーニル氏 Dumessnil、マルックス氏 Marx、デュプロイール氏 Duprouill) 而モ其接種ハ陰性ニ終レリ。血液ヲ用キテ培養試験ヲ行ヒシ者モ亦成效セザリキ。

診斷 固有ノ部位進行性膿疱疹ノ發生、熱發、寒戰、其他全身ノ重症狀態。

類症鑑別 濕疹、Eccema ハ境界明劃ナラズ、中心ハ邊緣ヨリモ濕潤著明ニ且ツ瘙痒著シ。増殖性天疱瘡 Pemphigus vegetans モ亦鼠蹊腋窩外陰部肛裂等ニ發生シテ本症ト最モ混同シ易キガ故ニ、水泡ノ有無ニ注意スベシ。其他本症ノ間歇時ニ於テ邊緣ニ膿疱ヲ認メザルニ當リテハ頑癬若クハ鱗屑疹ト誤認スルコト無キニアラズ、而モ頑癬 Eccema marginatum ニアリテハ鱗屑及ビ血痂ヲ見テ膿疱ヲ認メズ、且ツ決シテ境界線外ニ孤立

セル膿疱ヲ存セズ、進行モ亦極メテ緩慢ナリ。花環狀鱗屑疹 Psoriasis gyrata ハ濕潤面ヲ有セズ膿疱ヲ作ラズ、且ツ圈内ノ皮膚ハ健常ナルベシ。

豫後 不良ニシテ、本症ノ爲ニ斃ル、ヲ常トス。

療法 效ナシ其妊娠ト關係アルニ依リ早産ニヨリテ本症ノ進行ヲ防止シ若クハ一度罹病セシ者ノ再患ヲ豫防スベシトノ考案モ亦徒勞ニ歸セリ。局處療法ニハ藥浴ヲ用キテ其上ニ防腐的粉末劑(オイグホルム、デルマトール、亞鉛華澱粉等)ヲ散布スベシ。全身症狀殊ニ熱發ニ對シテハ適宜内服藥ヲ處ス。

引用書目

1) *Zeits. Impetigo herpetiformis*, Hebra-Koposi, Handbuch, Bd. I, S. 954.

初生兒剝脫性皮膚炎 Dermatitis exfoliativa neonatorum Ritter.

釋義 初生兒ノ皮膚ニ水泡ヲ生ジテ皮膚爲ニ剝脫シ、生後二三週ノ間ニ死ニ歸スル急性性症ヲ謂フ。

症候 本症ハリッテル氏 Ritter v. Rittersheim (一八七八年)ノ始メテ記載スル所ニ係リ、生後ノ第二週ヨリ第五週ノ間ニ來ルモノニシテ、輕症ニアリテハ先ヅ顔面下半部殊ニ口圍ニ於テ境界明劃ナラザル皮膚ノ潮紅ヲ來シテ、尋デ速ニ全身ニ蔓延シ、表皮ノ糝糠樣

落屑ヲ呈シ、口角、鼻孔、眼眦ニ於テハ皸裂ヲ生ズベシ。此落屑ハ一二週ニシテ皮膚ノ褪色ト共ニ休止シ、若クハ患者衰弱日ニ加ハリテ斃ルベシ。重症ニ至リテハ顔面、軀幹及四肢ノ皮膚著シク潮紅腫脹シテ浮腫狀ヲナシ、殊ニ表皮ハ恰モ第二期火傷ノ如ク大ナル水疱狀ニ於テ連續シテ剝脫スベシ。此他口粘膜ハ亞布答様ヲナシ、角膜上皮モ亦溷濁シテ剝離ス。斯クシテ體溫ト體液トノ消耗ノ爲ニ患兒速カニ衰弱ニ陥リ、或ハ腸加答兒肺炎等ヲ續發シテ、終ニ死ヲ致ス。其死亡率ハ約五〇%ニ及ブト云ヘリ(リッセル氏 Riker)。

解剖 皮膚慢性炎ノ狀ヲ呈シ、表皮ハ幾下角層ヲ缺ク。

病理 不明ノ原因ノ爲ニ表皮先ヅ離解シ、隨ツテ真皮ノ露出ト漿液ノ滲出ヲ續發スルモノノ如シ(ウインテルニッツ氏 Winternitz、ルートレン氏 Luthlen、ベンデル氏 Bender)蓋シ一種ノ膿毒症若クハ敗血症ナリ。

診斷 初生兒ニ於テ、口角ノ皸裂及ビ顔面下半部ノ潮紅ヲ以テ起リ、表皮廣ク剝脫シ、體溫下降シ衰弱甚シ。

類症鑑別 剝脫性天疱瘡 Pemphigus foliaceus. 潮紅ナクシテ水疱ヲ生ジ、水疱膜ハ輪狀ヲナシテ皮膚ニ附著スベシ。傳染性膿痂疹 Impetigo contagiosa. ハ初生兒ニ來ル急性水疱瘡タルニ於テ本症ニ似タルモ、毫モ衰弱ヲ伴ハズ、且ツ水疱ハ皮膚ノ健康面ニ發生シ決シテ潮紅面ニ於テセズ、好シク露出部ニ來リ、疱液中ニハ容易ニ白色葡萄狀球菌ヲ證明スベシ。疱疹狀皮膚炎 Dermatitis herpetiformis Dühring. ノ水疱ハ小ニシテ集簇シ、搔痒アリ。

慢性ニシテ多ク大人ニ來ルモノナリ。

豫後 不良ナルコト前ニ述ブルガ如シ。

療法 注意シテ患兒ノ皮膚ノ摩擦及ビ壓迫ヲ避ケシメ、剝脫面ニハ硼酸軟膏ヲ貼用シ或ハ散布劑(亞鉛華、滑石タンノホルム等)ヲ散布シ、綿ニテ包ミ、乾燥セザル溫室中ニ置キ、勉メテ體溫ノ消耗セザルヤウニ保護スベシ。入浴ハ旺盛期ニ於テハ寧ロ忌ムベシ。否ズンバ蒸發ニ依ツテ體溫ノ損失更ニ大ナルベシ。但シ患兒稍輕快ニ向ハバカミツレ浴乾葉浴等ヲ行フモ妨ゲナシ。

口粘膜ニハ特ニ注意シテ、水疱アラバ頻回ニ%硼砂水ヲ塗布スベシ。

引用書目

- 1) Ritter, Die exfoliative Dermatitis jüngerer Säuglinge. Zentralzeitung für Kinderheilkunde. 1878. Jahrgang II.
- 2) Winternitz, Ein Beitrag zur Kenntnis der Dermatitis exfoliativa neonatorum. Kilder.
- 3) Luthlen, Dermatitis exfoliativa Kilder. Archiv f. P. u. S. 1899. Bd. 47.

第十八章

水 瘡 Noma

異名 病院壞疽 Nosokomialgangrän.

釋義 一種ノ桿菌ニ因リ、進行潰瘍共ニ極メテ迅速劇烈ナル皮膚及ビ粘膜ノ腐敗性傳染病タリ。

症候 皮膚限局シテ壞疽ニ陥リ、中心ニ向ヒテ次第ニ傾斜シテ深ク陥没シ、汚穢惡臭ノ灰白色帶綠色乃至黑色ノ泥狀物ヲ成スベシ。此壞疽部ノ周圍ニハ帶綠灰白ノ帶アリ、蓋シ既ニ壞疽ニ陥リテ而モ未ダ全ク腐敗スルニ至ラザル部分ニシテ其表面ニ附著セル多少ノ惡臭アル壞廢物ハ容易ニ拭ヒ去リ得ベシ而シテ一帶ノ暗紅暈ハ更ニ其外方ヲ繞リテ存スベシ。

經過 斯クテ數日ノ後ニハ壞疽ノ全部既ニ溶解セラレテ潰瘍ノ周縁ハ截然トシテ斷崖狀ヲナシ、底面ニハ一片ノ黑痂ヲ中心ニ留メ及ビ膿汁腐敗物壞疽組織ヲ充タシ、且ツ附近ニ著シキ腫脹ヲ來シ、例ヘバ陰脣陰莖等ノ如キハ普通ノ二三倍ニ達スベシ。幸ニ潰瘍ノ進行休止スレバ痂皮ハ一時ニ放離セラレテ、其下ニ肉芽速ニ發生スベシ。全身症狀トシテハ貧血著明ニシテ衰弱甚シク體温ハ上昇シテ三十九度以上ニ及ブモ、潰瘍中止スルト共ニ下降スベシ。否ザレバ發病後五六日ニシテ敗血症ヲ起シ虚脱

ノ爲ニ死ヲ致ス。

部位 顔面陰部會厭等ニシテ、特ニ其顔面ニ於ケルモノハ往々頬粘膜ヨリシテ浸潤板ノ如ク硬ク、其上ノ皮膚始メハ殆ド常色ナルカ或ハ僅ニ潮紅シ、尋デ綠色ニ變ジ、終ニ破潰シテ壞疽ニ陥リ、甚シキハ口腔ニ穿孔シテ顎骨齒牙等ヲ露出シ、間、頬皮ノ一半之ガ爲ニ缺損シテ恰モ狼口ノ如ク、外觀慘狀ヲ極ムルコトアリ(第百九及百十圖)

第 百 九 圖



病機 本症ノ多數ハ二歳乃至十一二歳ノ衰弱セル貧血性小兒ニ來ルモ、大人ニモ亦發スルコトアリ。特ニ麻疹痲瘋紅熱實扶的里赤痢麻刺里亞ノ如キ傳染病ノ恢復期ニ於テ又ハ微毒結核潰瘍性口内炎赤毒毒性口内炎等ニ續發シ、若クハ非衛生的生活狀態ノ爲メ局處又ハ全身ノ抵抗力減弱セル場合ニ發生ス。マツチエナウエル氏 *Matschner* ハ水瘡ト病院壞疽トノ同症タルコトヲ證明セリ。蓋シ本症ハ十七世紀ノ頤和蘭ノ醫家ガ *Vanctancer* (水瘡)ト稱セルニ始マリ、數病院育兒院又ハ家族内ニ流行スルコトアルニヨリ、其病原體ヲ檢索シテ或ハ球菌(ランケ氏 *Kanke*)或

病院壞疽

水瘡桿菌

ハ分芽菌(ニルテス氏 *Tulas*)或ハ實扶的里菌(フライムート氏 *Frymuth*)或ハ桿菌(シムメル
 プシ氏 *Schimmelbusch*)ヲ發見シ殊ニ晩近ニ至リテハ多ク桿菌說ニ傾キタルモ(グラウツ
 Grunitz ギセーチー *Gusecki* マンチナウエル *Mantzenauer* 諸氏其性状ニ就テ諸家ノ記載スル所往
 ヲ翻離シテ全然一致セズ。

伊東氏ガ我教室ニ於テ水瘡
 患者ノ病竈ヨリ發見セル桿
 菌ハ形狀大小共ニ不同ニシ
 テ多クハ一端鈍圓ニシテ太
 ク他端ハ細ウシテ尖リ通ジ
 テ弓形ニ彎曲シグラム氏法
 ニヨリ著色セズ普通ノ培養
 基特ニ寒天面ニ點狀ニ圓盤
 狀ニ發育シテ灰白色及至黃
 綠色ヲ帶ビ通性好氣性菌タ
 リ而シテ此桿菌ハ水瘡組織

第 百 十 圖



中主トシテ潰瘍ノ炎症線ニ存シ殊ニ同氏ハ新ニ銀染色法ヲ用キテ最モ鮮明ナル標本ヲ
 得タリ蓋シ伊東氏桿菌ノマツチエウエル氏桿菌ト異ナル所ハ後者ハグラム氏法ニ染色シ
 且ツ眞性嫌氣性タルニ在リ。

解剖 水瘡組織ハ早く凝固壞疽ヲ作り著色不全ニシテ真皮組織ノ構造明ナラズ其周圍ニ

ハ著明ノ炎症性細胞浸潤アリテ結締織肥厚シ血管閉塞シ又ハ擴張シテ處々ニ出血アリ。
 此炎症組織層ハ明カニ壞疽層ト識別シ得ベシ表皮ハ一般ニ著シク肥厚シ表皮突起ハ延
 長ス壞疽若シ分界線ヲ作りテ放離セラレバ其下ニハ已ニ新鮮ナル肉芽創面ヲ露出ス
 ンシ。

診斷 頬邊又ハ陰部ニ於テ健全ノ皮膚面ニ卒然發生スル潰瘍ニシテ其中心ハ泥狀ノ
 壞疽ヲ成シ破壊猛烈ニシテ劇臭ヲ放チ高熱ヲ伴フ。

類症鑑別 壞疽 *Gangren* ノ他病ニ原因スルモノハ原病ノ症候ヲ呈スベク且ツ破壊本症
 ノ如ク迅速ナラス下疳 *Ulcus venereis* ニハ熱發ヲ缺ク。

豫後 ハ患者ノ體質如何ト患者ニ適當ノ治療ヲ施シ得ルヤ否ヤトニ關ス。治癒後患部
 ニハ毎ニ大ナル缺損ヲ貽スベシ。

療法 患部ヲ全身麻痺ノ下ニ燒灼又ハ切除シ沃度仿謨綿紗ヲ插入シテ繃帶スベシ。斯
 ノ如クスルトキハ潰瘍ノ進行急ニ中止シテ速カニ新鮮ノ肉芽組織ヲ形成ス。

引用書目

1) *Mitsunaka, Noma und Nosokomialgangrän. Archiv f. D. u. S. 40. Bd. 1902.*
 2) 伊東徹太水瘡ノ病理補説皮膚九卷一號(明治四二年)

馬鼻疽 Malleus.

釋義 馬鼻疽菌ノ馬又ハ驢馬ヨリ人ニ傳染スルニ因リテ起ル所ノ急性稀ニハ慢性ノ傳染病ニシテ皮膚ニ炎症性結節ト廣キ潰瘍ヲ作りテ必ズ死ヲ致ス。

馬鼻疽結節

馬鼻疽下疳又潰瘍

症候 皮膚若シ病毒侵入ノ門ヲナストキハ、感染後數日ニシテ接種部ニ硬結(馬鼻疽結節 Ratzknöten)又ハ膿疱ヲ生ジ、速ニ潰瘍(馬鼻疽下疳又潰瘍 Ratzschanker, Ratzgeschwür)ニ變

急性馬鼻疽

慢性馬鼻疽

ジ創縁潜蝕ヲ呈シテ洞穴ヲ作り、底面ハ黃色ヲ帶ビ、附近ニハ淋巴管炎及ビ淋巴腺炎ヲ伴フ。但シ多クノ場合ニ於テハ此原疹ヲ證明シ得ザルモノト知ルベシ。既ニシテ急性馬鼻疽ニアリテハ不規則ノ高熱戰慄ニ伴ヒ、下痢脾腫及ビ著明ノ虛脱ヲ來シ、皮膚ノ表面ニハ小斑膿疱水疱浸潤等多形ノ發疹ヲ發生シ崩潰シテ馬鼻疽潰瘍ヲナスベシ。此他丹毒蜂窠織炎等ヲ併發スルコトアリ。又ハ出血性腎臟炎關節炎肺炎肺水腫腦膜炎等ノ爲ニ發病後ノ數日內若クハ數週ノ間ニ必ズ死ヲ致ス。慢性馬鼻疽ハ全身症狀ヲ缺キ粘膜炎ノ侵サル、コト亦割合ニ稀ナリ。先ヅ皮膚皮下組織及筋肉中ニ於テ馬鼻疽結節ヲ形成シ、經過緩慢ニシテ一部ハ吸收セラレテ癩痕ヲナスモ、多數ハ弛緩性潰瘍ヲ作り瘻孔ヲ呈ス。而シテ淋巴管炎淋巴腺炎及浮腫性腫脹稀ナラズシテ、急性症ニ變ズルコトアリ。

部位 皮膚ニ原發シ、或ハ結膜鼻粘膜其他ノ呼吸器粘膜及ビ消化器ヨリ續發ス。其鼻粘膜ヨリ感染スルモノハ高度ノ化膿性鼻炎ヲ起シテ鼻背眼險等ノ皮膚ニ丹毒様腫脹

ヲ來スベク、肺ヨリセルモノハ異型ノ肺炎ヲナスベシ。

診斷 諸家記載スル所一致セズ、之ヲ要スルニ病毒ニ對スル組織ノ反應ハ半バ化膿性ニシテ半バ増殖性ナリ。前者ハ急性症ニ多キモ、後者ハ慢性症ニ來リ、主トシテ巨態細胞ヲ有セザル肉芽組織ヨリ成レリ。

原因 馬鼻疽菌 *Coccidiosis* ハレフレル氏 *Löffler* (一八八三年)ノ發見セル細小ノ桿菌ニシテ、形ヲ結核菌ニ似テ兩端較、圓シ。

本菌ハ普通ノアニリン色素ニヨリテ染色シ、殊ニレフレル氏ノチーレン青ヲ用ユルトキハ菌體中ニ微小ノ顆粒ヲ證明スベシ、グラム氏法ニテハ著色セズ。最モ好ク三十三度乃至三十七度ニ於テ便利施林寒天ニ蕃殖ス。

診斷 鼻部口蓋口唇等ニ於ケル潰瘍ト同時ニ、身體ノ爾餘ノ部分ニ於ケル膿腫及ビ癩痕ノ併存、患者ノ職業馬丁獸醫等ニ注意シ、疑ハシキ場合ニハ細菌ノ染色培養及ビ動物試驗ヲ行ウベシ。最モ簡易ナル試驗ハ本菌ヲ馬鈴薯割面ニ培養スルニ在リ。又膿汁ヲ雄性天竺鼠ノ腹腔内ニ注射シテ二三日ノ後ニ睾丸炎ヲ發スルヤ否ヤヲ確ムベシ(ストラウス氏 *Strauss*)。

類症鑑別 敗血症及膿毒症 Septicæmic et Pyæmic ト急性馬鼻疽ノ區別ハ困難ナルモ、皮膚ノ表面ニ於ケル數多ノ浸潤及ビ潰瘍鼻粘膜ノ合併症等ニヨリ馬鼻疽タルコトヲ略推察シ得ベシ。梅毒 Syphilis 微毒性潰瘍ハ邊縁鏡ク浸潤著シキモ、馬鼻疽ニアリテハ浸潤ヲ缺キ創縁潜蝕ヲ呈シ且ツ炎症ヲ帶ブ。尙ホ細菌検査ヲ行ウベシ。皮膚腺病 Sebop-

phuloderma に比スレバ馬鼻疽ノ經過ハ遙ニ急性ニシテ潰瘍ノ形成亦迅速ナリ。

豫後 急性馬鼻疽ハ救治ノ道ナシ慢性症ニアリテモ亦頗ル重症ト看做サルヲ得ズ。

療法 原發シ又ハ續發セル馬鼻疽結節ハ悉ク切除シ潰瘍ハ抓破シテ後燒灼スベシ。全

身療法トシテ水銀塗擦沃度ノ内服ヲ勸ムル者アリ其他ハ對症療法ニ依ルベシ。近時

モルウオン *Morvin* 又ハマレイン *Mallein* ト稱スル馬鼻疽菌ノ新陳代謝的產物ヲ人體ニ

注射スル者アリ(二滴乃至十滴宛隔日注射十數回)ブシケ氏 *Buschke* ハ其反應ヲ認メテ

之ヲ診斷ニ用ユベシト言ヘリ。

引用書目

- 1) *Löffler*, Die Aetiologie der Rotzkrankheit. Mittheilungen aus dem deutschen Gesundheitsamte. 1886.
- 2) *Straus*, Sur un moyen de diagnostic rapide de la morve. Archiv de med. experim. 1888.
- 3) *Buschke*, Über chronischen Rotz der menschlichen Haut nebst einigen Bemerkungen über die Anwendung des Malleins beim Menschen. Archiv f. D. u. S. Bd. 26. 1896.

鼻硬腫 Rhinoscleroma.

釋義 鼻翼口唇又ハ鼻咽喉粘膜ニ於テ限界セル硬腫ヲ生ジテ極メテ慢性ニ進行シ組織中ニハ一種ノ被膜性桿菌ヲ證明スベシ。

症候 硬腫ハ彈力硬ノ厚板又ハ結節ヲナシ境界常ニ明割ニシテ或ハ孤立シ或ハ融合シ、壓抵スレバ微痛アリ。表面ハ常色ヲ呈シ又ハ微シク紅褐色ヲ帶ビ、血管縱横シ毛根

消失シテ光澤アリ、周圍ノ皮膚ハ健常ニシテ絶エテ炎症腫脹ノ跡ヲ留メズ、外觀稍、癩痕息肉ニ類シ、且ツ決シテ破潰セザルモ、間、癩痕様萎縮ニ陥ルコトアルベシ。

經過 大抵鼻翼又ハ鼻中隔ヨリ始マリ、炎症ノ微候ナクシテ次第ニ浸潤肥厚シ、鼻翼ハ宛モ左右ニ壓平セラレ且ツ固定シテ動かズ、鼻孔ハ牽引セラレテ狹隘トナルベシ、而シテ歲月ヲ經ルト共ニ浸潤益、加ハリ、一方ニ於テハ口唇ヨリ齒齦齒槽ニ進達シ、他方ニ於テハ鼻粘膜ニ沿ウテ後鼻竇ヨリ軟口蓋口蓋弓ニ及ビ又淚管ニ由リテ眼内眥ニ若クハ歐氏管ヲ經テ耳中ニ到ルベシ、甚シキハ咽頭壁ヨリ會厭喉頭氣管ニ傳播シ若クハ該部ニ原發スルコトアルベシ。

而シテ患部ノ癩痕様萎縮ヲ呈スルヤ、例ヘバ懸壜垂ハ消失シ口蓋弓ハ咽頭後壁ト癒著シテ微毒性癩痕ニ酷似シ、細小孔ヲ殘シテ僅ニ鼻腔ニ通ズベシ、此他會厭ハ牽縮セラレ、聲門ハ狹窄シ、呼吸之ガ爲ニ困難トナリ、數、失音ヲ來シ、稀ニハ窒息スベシ。本症ハ思春期以前ニハ幾下稀ニシテ、大抵二十歳ヨリ三十歳ノ間ニ於テ發生ス、但シ全身状態ハ毫モ左右セラレズ、且ツ患部決シテ破壊シテ潰瘍ヲ成サズ、又附近淋巴腺ノ腫脹ヲ來サルモノトス。

論理 本症ハヘブラ氏 *Hebra* (一八七〇年)ノ始メテ報告セル稀有症ニシテ、概テ中年ニ多シ、國ニ依リテ多少アリ、著者ハ維納、伯林、プレスラウ等ニ於テ其數例ヲ實驗セシモ、我國ニテハ未ダ曾テ正確ナル症例ニ接セズ。

原因 フリッシ氏 *Frisch* (一八八二年)ハ鼻硬腫桿菌 *Sclerobacillen* ナルモノヲ證明シ、バルタウフ

ミクリッツ氏細胞

Paltauf、アイゼルスベルグ、Eiselsberg 兩氏ハ其純培養ニ成效セリ。即チ太キ被膜桿菌ニシテ、硬腫組織中ニ夥シク存在シ、特ニ固有ノミクリッツ氏細胞 Mikritzsche Zellen 中ニ包裹セラレテ、容易ニ純培養ヲ作り得ベシ。然レモ木菌ハ他ノ被膜菌例ヘバフリードレンデル氏菌及ビ粘液菌(臭鼻菌 Bacillus ozaenae)ニ對シテ形態及ビ培養上ニ特異ノ惡徵ヲ缺キ、且ツ該菌ヲ動物及ビ人間ニ移植スルモ未ダ同一ノ病的變化ヲ起シ得ザルモノトス。

解剖 初ノハ血管ニ富メル肉芽組織ニシテ、健常組織ヲ驅除シテ之ニ代ハリ、時ヲ經ルト共ニ萎縮シテ硬キ結締織ニ變ズ。ミクリッツ氏細胞ハ一種固有ノ膨大セル細胞ニシテ浸潤中ニ存シ、外形明測ナラズシテ溶解ニ傾キタル核ヲ具ヘ、原形質中ニハ細菌ヲ充填ス。

診斷 鼻唇咽喉間ニ占據シ、浸潤及ビ結節ヲ作り、象牙様ノ硬度ヲ有シ、經過慢性ニシテ、炎症缺如シ、膿壞セズ、腺腫ヲ作ラズ、鼻頭ノ畸形、粘膜炎ノ癒著ヲ致シ、且ツ組織中ニ有膜細菌ヲ證明スベシ。

類症鑑別 護謨腫 Gumma 潰瘍ヲ作り、浸潤遙ニ柔軟ナリ。但シ咽頭ニ癩痕ヲ形成セル場合ニ於テハ診斷頗ル困難ナルベキヲ以テ既往症及ビ他部ニ於ケル微毒徵候ノ有無等ニ著目スベシ。尋常性狼瘡 Lupus vulgaris 潰瘍アリ、癩痕中ニ狼瘡結節アリ、浸潤硬カラズ。表皮癩 Epithelioma 軟骨様硬度ヲ有スルト同時ニ、破壊シ易ク、軟骨膜ヲ侵蝕シ又腺腫ヲ作ル。

豫後 不良ニシテ切除ヲ施スモ、直チニ再發シ、多年ニ涉リテ徐々ニ進行ス。

療法 是故ニ療法ハ單ニ空氣ノ交通ヲ妨グベキ原因ヲ除クニ止ムベシ。例ヘバ氣道ノ

リノスクレリン

障礙物ヲ切除燒灼又ハ腐蝕シ、鉛管又ハ護謨管ヲ插入スルノ類ナリ。パウロフスキイ氏 Panlowsky ハ鼻硬腫菌ノ新陳代謝產物タルリノスクレリン Rhinosklerin ノ注射ニヨリテ特異ノ全身反應ヲ呈シテ良好ノ成績ヲ得タリト言ヘルモ、未ダ他ニ之ヲ證明スル者アラズ。此他フロイント Freund 氏ハレントゲン線療法ニヨリテ硬腫ノ縮小ヲ致セリト云ヘリ。

引用書目

- 1) Mebra, Über ein eigentliches Neugebilde an der Nase-Rhinostierom, Wiener med. W. 1870.
- 2) Frisch, Zur Aetiologie des Rhinoskleroms, Wiener med. W. 1882.
- 3) Paltauf u. Eiselsberg, Zur Aetiologie des Rhinoskleroms, Vortschritte der Medicin. 1886.
- 4) Mikulicz, Über das Rhinosklerom, Langenbecks Archiv. 1877.

放線菌病 Aktinomyces

譯義 放線菌 Aktinomyces ノ感染ニヨリテ或ハ皮膚ニ原發シ或ハ續發的ニ他ノ器管(骨肺腸)ヨリ轉移シ、皮膚及ビ皮下ノ浸潤ヲ呈シ常ニ軟化ノ傾向ヲ有スルモノナリ。

症候 原發性皮膚放線菌病ハ表面ヨリ深部ニ進行シ、慢性ノモノハ深層ヨリ皮膚ノ表面ニ露ハル、モノニシテ兩者孰レモ皮膚ニ板ノ如ク硬キ扁平浸潤ヲ作りテ基底ニ固著セシム。而シテ皮膚初メハ常色ナルカ或ハ微ニ潮紅スルノミナルモ、浸潤ノ加ハルト共ニ蒼紅色又ハ紫色ニ變ジ、大小ノ結節ヲ生ジテ凹凸不平トナリ、著明ノ波動

放線菌病

ヲ呈スルニ至リ、遂ニ外方ニ穿孔シテ迂曲セル瘻管ヲ成シ常ニ帶褐色ノ凝膿ヲ排洩シ、肉眼ヲ以テ灰白色黄色ノ微細顆粒ノ夥シク其分泌液中ニ混ズルヲ認メ得ベク、之ヲ顯微鏡下ニ照シテ其純然放線狀菌ヨリ成レルヲ知ルベシ。此際基底ノ浸潤ハ徐々ニ進行シテ根ヲ四圍ト深層トニ張り、表面ノ結節ハ破潰シテ次第ニ瘻孔ヲ成シ長ク膿汁ヲ漏洩セル後、一部治癒シテ索縮セル瘻痕ヲ遺スト同時ニ、更ニ其周圍ニ新結節ヲ生ズルコト前ノ如ク、終ニ瘻痕ト結節ト相混ゼル凹凸ノ浸潤ヲ作ルベシ。

部位 原發性ノモノハ稀中ノ稀ニ屬シ、皮膚ノ損傷部ニ久シク潜伏スルモノニシテ、主トシテ手下腿顔面及軀幹ニ生ジ續發性ノモノハ數、口腔底下顎骨扁桃腺ヨリ發シ、隨ツテ頬邊下顎及頸部ノ皮膚ヲ侵蝕スルコト最多シ。其他胸壁腹壁等ニモ亦來ル。

經過 本症ハ極メテ弛緩性ニシテ自覺的及他覺的證候ノ著シキモノナク、浸潤徐々ニ増大シ表面ニ破潰スルト同時ニ深部ニモ侵入シテ、肋膜腹膜ノ諸腔ニ及ビ或ハ肺臟腸管等ニ新病竈ヲ作り、肋膜炎肺炎腹膜炎等ニ因リテ死ヲ致ス。

剖割 放線菌塊ヲ圍ミテ急性炎症性小細胞浸潤ヲ呈シ、中心ハ脂化壞死ノ傾向著シキト同時ニ、周圍ハ慢性肉芽性炎症ヲ呈ス。

原因 本症ハボルリッゲル氏 *Bollinger* (一八七七年) 始メテ病原菌ト共ニ之ヲ牛ニ發見シ、次デイストラエル氏 *Strael* (一八九九年) 之ヲ人體ニ於テ證明セル所ニシテ、肉食ニヨリ又ハ接觸ニヨリテ牛豚等ノ動物ヨリ人ニ傳染スルコトアリ、最モ普通ノ傳染運路ハ木菌ガ種々ノ穀物類(殊ニ大麥粒)ニ寄生シテ身體中ニ入り、長キ潜伏ノ後遂ニ症候ヲ表ハスモノナリ。

放線菌ニハ種々ノ形狀アリテ分岐セルアリ、否ザルアリ、障壁ノ有ルアリ無キアリ、又ハ大小ノ桿菌狀ヲナシ或ハ球菌樣狀態ヲ呈シ、各種ノ培養基ニ發育スル通性嫌氣性細菌ナリ。

診斷 部位、暗紅色慢性ノ浸潤、波動索狀ノ瘻孔、細菌顆粒ノ證明。

類症鑑別 本症ハ、護謨腫 Gumma 皮膚腺病 Scrophuloderma 骨瘍 Caries 等ニ酷似スルコトアルガ故ニ、仔細ニ注意シテ瘻孔及ビ膿瘍中ニアル灰白黄色ノ放線菌顆粒 Actinomycetes-Kornen ノ有無ヲ檢スベシ。若シ多少ニテモ疑アラバ膿汁ヲ採リテグラム氏染色法ヲ行フベシ。肉芽組織ノ切片ニ於テハ、ソイゲルト氏染色法ニ依リテ最モ能ク之ヲ證明シ得ベシ。此他本症ニハ附近淋巴腺ノ腫脹ヲ缺クテ常規トス。

療法 部位ト大小トニヨリテ同カラス限局性ニシテ外間ニ近キモノハ局處療法ニヨリテ全治シ得ベシ。然レドモ病勢緩慢ニシテ自覺症狀少ナク知ラズ識ラズノ間ニ數月數年ヲ經過スルガ故ニ、往々重要器官ニ轉移シ若クハ肋膜炎腦膜炎腹膜炎等ヲ續發シテ衰弱ノ爲ニ死亡ニ歸ス。

療法 瘻孔ノ切開、浸潤ノ搔破ヲ行ヒタル後十分燒灼シテ沃度仿謨綿紗ヲ挿入スベシ。外科手術ノ充分ニ達セザル處ニアリテハ、已ムナク昇汞水石炭酸水沃度丁幾ニ沃度加里液ヨチピン等ヲ注射スベシ。

沃度加里ハ之ヲ内服セシムルモ亦可ナリ(ノカール氏 *Nocard*) 大抵一日一瓦乃至六瓦ヲ投ズルコト一二ヶ月ニシテ放線菌病ノ全治ヲ認ムベシト云ヘリ。口腔ニアリテハ含嗽用沃度加里〇二沃度〇〇三水一〇〇〇トナスベシ(笹岡氏)。

引用書目

- 1) *Bullinger*, Über eine neue Pilzkrankheit beim Rinde. *Centralbl. f. d. med. Wissenschaften*. 1877, Nr. 27.
- 2) *Stern*, Klinische Beiträge zur Kenntnis der Aktinomykose des Menschen. *Berlin* 1885.
- 3) 笹岡芳名博士「チノキョロビ」一例附標本供覽(十全四九號,明治四一年)。

足菌腫 Mycetoma pedis.

異名 マンラ足 Madurafuss 交趾足 Cochibeim 印度菌腫 indisches Mycetoma, Fungus disease of India (*Carter*) 其他方言ニハ Padavalmicum (梵語) Perikal, Anaikal (タミール地方) Sipada (マラガリー地方) Goutton nandi (ムルラーイ地方語) 卵足ノ義 Taboucht (カビール地方語) 小蟲ノ義等ノ名アリ。

釋義 一種慢性ノ足病ニシテ、病菌ノ侵入ニヨリテ足部非常ニ腫大シ、表面ニハ數多ノ結節ト瘻孔トヲ呈シ、多年ノ後衰弱ノ爲ニ死ヲ致ス。

本症ハ元ト前印度ニ於テ發見セルモ、埃及アルゼリヤ、伊太利、合衆國、智利、ギユヤナ等ニ於テモ發ス。

症候 足趾又ハ足背ニ於テ皮下ニ結節ヲ生ジ、往々増大軟化シ、遂ニ破潰シテ瘻孔ヲ遺シ、患足ハ次第ニ腫大シテ象皮病狀ヲナシ、且ツ豆大ノ結節數多存在シテ、靴レモ瘻孔ヲ作り、漿液膿様ノ分泌物ト共ニ魚卵ノ如キ帶黃白色又ハ黑褐色ノ顆粒ヲ漏洩ス、之

ヲ顯微鏡下ニ照セバ二種ノ細菌ヨリ成ルヲ認ムベシ。

病症更ニ進マバ患足ノ使用ニ堪ヘズシテ腓腸筋及ビ上腿筋ノ萎縮ヲ來スベシ、而シテ結節及ビ腫瘍ハ軟部ヨリ骨ニ達シテ海綿狀ノ肉芽組織ニ變ジ、後ニハ纖維様組織ヲ成ス。但シ本症ガ斯ノ如キ程度

ニ達スルニハ十數年ヲ經過スルモノニシテ、患者ハ早晚衰弱ノ爲ニ死亡スベシ

部位 足ニアリテハ右足ハ左足ヨリ多シ、稀ニハ手頸肩胛腹壁等ニ來ル。

解剖 一種ノ肉芽組織ニシテ一方ニ膿潰ノ傾向アルト同時ニ、他方ニ於テハ癩痕組織ヲ形成ス。横斷面ニハ空洞アリテ其中ニ二種ノ細菌ノ凝塊ヲ含密ス。

原因 其ノ一ハ即チ黃色ノ菌凝塊

(yellow or ochroid) ニシテ其一種ノ放線菌ニ外ナラザルコトニ於テ諸家デルバンコ *Delfano* ウンナ *Umma* バルタウフ *Yakub* ノ說一致シ、ワンサン氏 *Wanam* ハ之ヲストレプトトリキス、

足菌腫

第 百 十 一 圖
(Raynaud.)



マツローフ Streptothrix Madurac と名ク、ルグレーン氏 *Lezrain* ハデスコミチヌ、マツローフ *Discomyces* Madurac と稱セリ。

他ノ黒色ノ菌塊 (*Black variety*) ニ就テハ其性狀詳ナラザルモ、恐ラクハオイヂウム菌又ハ絲狀菌ナルベシト云フ。

診斷 部位腫脹、結節及瘻孔、菌有細菌ノ證明

類症鑑別 護・誤・腫・*Gumma* 瘻孔ヲ缺キ骨ノ肥大アリ、潰瘍・性・狼・瘡・*Lupus ulcerosus* ハ瘻孔ナクシテ紅褐色ノ狼瘡疹アリ。

療法 初期ニアリテハ切開、抓、彼、燒、灼ヲ行キ、末期ニアリテハ切斷ヲ施スベシ、對症療法トシテハ溫浴法最モ效アリト云フ。

引用書目

- 1) *Delaney*, Ein amerikischer Fall von Mycetozoa pedis. Festschrift Neumann. 1898.
- 2) *Unger*, Beiträge zur Anatomie des indischen Madurafasses (Mycetozoa). Monatshefte f. pr. D. 31. Bd. 1901.
- 3) *Paltauf*, Über Madurafuss. Wiener klin. W. 1894.
- 4) *Vincenz*, Etude sur le parasite du Pied de Madura. Annales de l'Inst. Pasteur. III. 1894.
- 5) *Lezrain*, Bull. de l'Académie de méd. 1896.

釀母菌病 Blastomycosis.

異名 オイヂウム菌病 *Oidiomycosis*.

釋義 或種ノ分芽菌ニ因リテ發生スル稀有ノ皮膚病ナリ。

本症ハ時重氏始メテ之ヲ馬ニ於テ發見シ、八九三年、尋テ獨逸ニ在テハアッヒヒン、グレン、グレン、グレン、*Buschke*、ノ兩氏、マタ米國ニ在リテハギルクリスト氏

Chilley、東西殆ド時ヲ同ウシテ(八九四年六月)人間ノ皮膚ニ於テモ亦同一ノ病症ヲ證明セリ。

爾來諸家ノ研究ニ據レバ本症ニハ蓋シ二種アリ

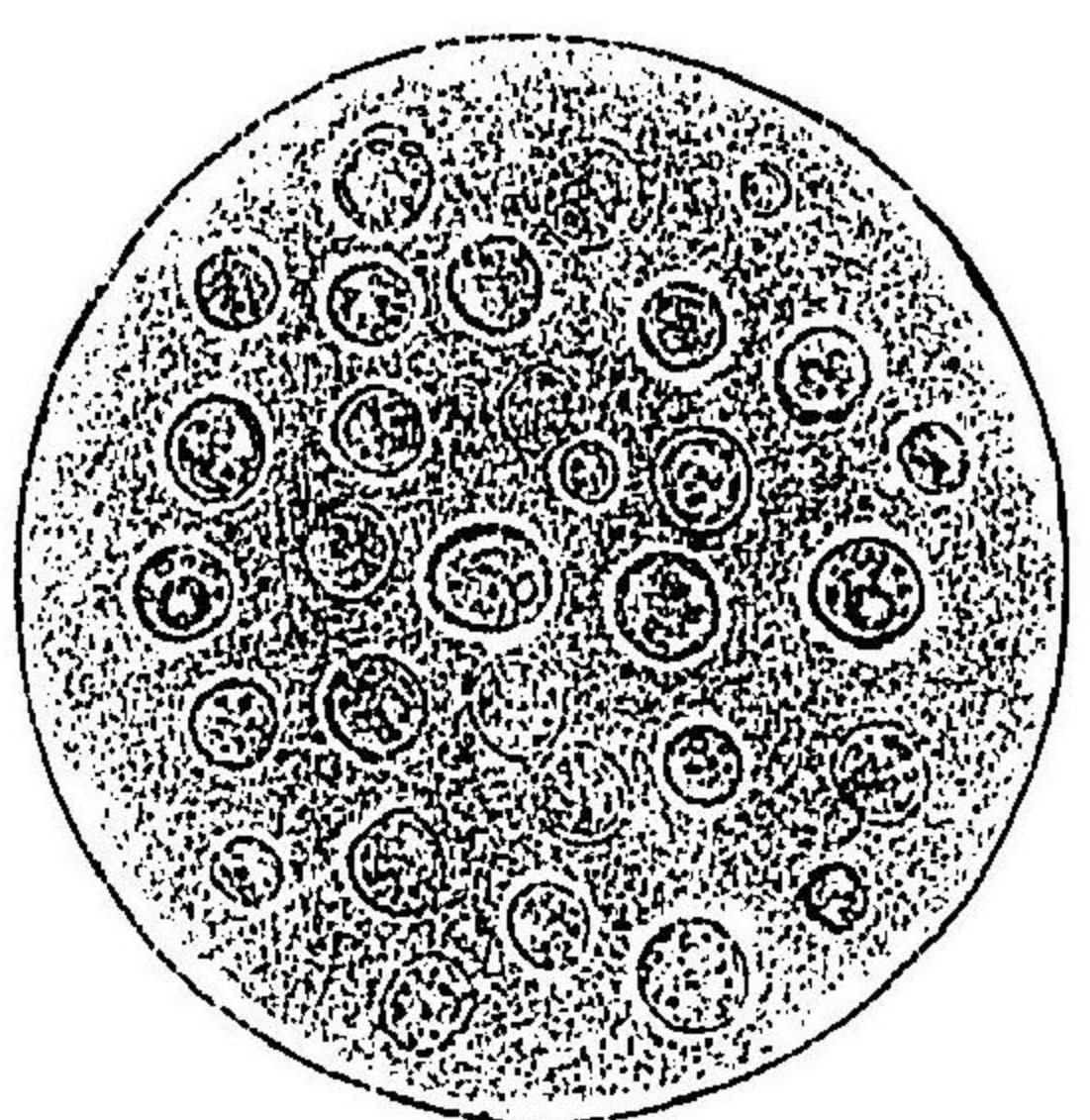
テ、アシケ氏ノ發見セルモノ(第百十二回)ハ眞ノ釀母

菌ナルモ、ギルクリスト氏ノ證明セルハオイヂウム

菌 *Oidiomyces* (第百十三回)ナルガ如シ、櫻根氏ノ例(一九〇

五年)モ亦後者ニ屬セリ。

圖 二 十 百 第



症候 皮膚及皮下組織ニ於テ數多ノ膿疱又ハ結

節慢性ニ稀ニハ急性ニ發生シテ破潰シ易ク、融合

シテ銳縁ノ潰瘍ヲ作り、中心ハ柘榴狀ノ乳頭増殖

ヲナスノ傾向著シ而シテ一方ニハ周圍ニ向ツテ

進行スルト同時ニ、中央ハ漸ク癬痕ヲ形成シテ治

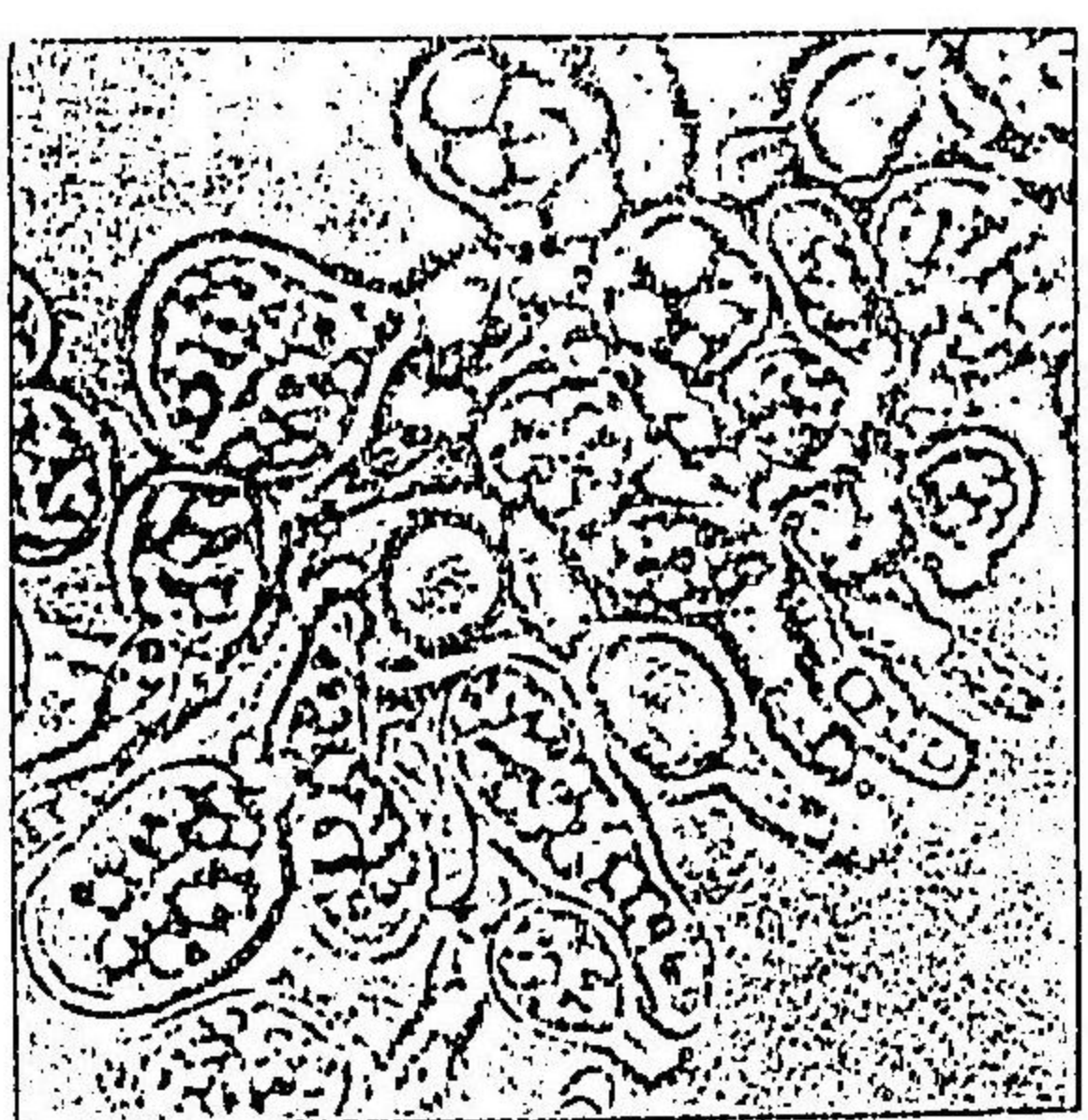
ニ就クベシ、或ハ肉腫又ハ皮膚腺病ノ形狀ヲナス

モノアリ

自覺症ナク又全身症ナシ

部位 結節潰瘍及乳頭腫ノ所在ハ主トシテ顔面ニシテ、殊ニ鼻梁及鼻中隔ニ來リテ醜

圖 三 十 百 第



形ヲナシ(第百十四圖)稀ニハ軀幹及ビ四肢第百十五圖)ニ發生ス。時トシテハ骨及ビ内臓ニ轉移シテ脾臟腎臟肺臟辜丸中樞神經系ニ於テ本菌ヲ證明スベシ。斯ノ如キ場合ニアリテハ患者漸々貧血及ビ惡液質ニ陥リ精神昏朦ヲ來シ敗血熱ノ爲ニ死ヲ致スヘシ。

酵母菌及マイグム菌

●**病原** 本症ハ酵母菌及ビマイグム菌ニ因リテ發生スルモノニシテ新鮮ナル膿疱ノ内容若クハ潰瘍面又ハ内部ノ轉移竈ヨリシテ試ミニ分泌物ヲ採リテ顯微鏡下ニ照セバ染色セザルモ尙ホ且ツ分明ニ分芽菌ヲ證明シ得ベシ。又諸種ノアニリン色素及ビグラーム氏法ニ依リテ染色シ、最モ好クワイゲルト氏法ニ適シ、又各種ノ培養基ニ發育スベシ。特ニ葡萄糖マルトーゼ等ヲ含メルモノヲヨシトシ、多クハ白色黃色等ノ連續セル膜ヲ作ル。

第百十四圖 (Sakurane)



櫻根氏ノオイヂウム菌ハ固形培養基上ニ黑褐色ノ聚落ヲナセリ。

●**解剖** 組織上ニハ上皮様細胞及ビ巨態細胞ニ富ミタル肉芽組織ヲ呈シ、内ニ前記ノ細菌折光力強キ帶綠黃色無紋ノ小體ヲナシテ存スルヲ見ル。

●**診斷** 部位殊ニ顔面ニ於ケル櫻實大乃至鷄卵大ノ結節、深キ潰瘍癩痕ノ結成、細菌ノ證明等ニ據ルベシ。

●**類症鑑別** 破潰性狼瘡 Lupus exulcerans 及ビ護謄腫 Gumma 等ニ對シテハ本症ハ潰瘍深ク、著色淡ク且ツ透射性ニシテ、邊緣ノ浸潤著シカラズ、附近ニ於テ瘰癧様ノ膿疱ヲ存シ、酵母菌ヲ含有スベシ。

●**豫後** 再發シ易ク、且ツ内臓ノ轉移ヲ來シテ衰弱ニ陥ルコトアルニヨリテ、不良ナリ。

●**療法** 限局セル病竈ハ切開抓破シテ後燒灼スベシ。

内服ニ多量ノ沃度加里一日四〜六(〇)ヲ用キテ全治スルコトアリトハモントゴメリイ氏 Montgomery ヲ始メトシテ諸家ノ稱道スル所ニシテ、三四週間ノ服藥後ニハ結節消滅シテ殆ド痕迹ヲ留メザルニ至ルト云ヘリ。

第百十五圖 (Hyde u. Montgomery)



引用書目

1) Yelishko, Ueber pathogene Blastomyzeten, Zentralblatt f. Bakter. Parasitenk. 1896, Bd. 19, Journ. v. the Central

酵母菌病

皮膚科學 上卷 尾

物名索引

イヒチオール石鹼
 イヒチオール療法
 岩淵夜話
 伊東氏水痘桿菌
 伊香保温泉
 異汗症
 頰部瘰癧
 萎縮性扁平紅色苔癬
 咽頭炎(尋常性)
 印度菌腫
 陰汗
 陰囊濕疹
 陰部疱疹
 陰部癬疹
 陰部濕疹
 陰極線
 陰毛
 ろ
 狼瘡
 紅斑性——
 尋常性——
 老人癬痒症
 老人壞疽
 老人皮膚萎縮

物名索引

老人性紫斑	六〇	發汗	六〇	剝脫性皮膚炎	三〇〇
老年性批癩疹	六〇	半面——	六〇	流行性——	三三〇
羅斯	六〇	分利的——	六〇	真性急性性——	三三〇
は	六〇	瀕死——	三	慢性——	三三〇
ハツチンソン氏鶏眼	一八〇	發汗過多症	七〇	亞急性性——	三三〇
パラブソリアツス	三〇〇	發汗缺乏症	七〇	亞急性性及慢性真正全身性——	三三〇
パラブラスト硬骨	三〇〇	發疹室扶斯	一六〇	急性——	三三〇
パラフェニレンヂアミン	三〇〇	發疹熱	一五〇	小兒——	三三〇
バネドワ氏病	一〇〇	巴拉賓	一五〇	初生兒——	三三〇
ばやくさ	一〇〇	巴斯答	一〇〇	全身性——	三三〇
黴毒	一〇〇	白癩	一〇〇	多角中毒(慢性)	三三〇
黴毒性皮膚炎	一〇〇	白癩	一〇〇	破傷風血清	一〇〇
黴絲性濕疹	一〇〇	白濁	一〇〇	斑	一〇〇
敗血症	一〇〇	白陶色尋麻疹	一〇〇	斑狀紫斑	一〇〇
敗血症疹	一〇〇	白濁	一〇〇	斑狀出血	一〇〇
敗血症性紅熱	一〇〇	白降赤軟膏	一〇〇	斑紋紫斑	一〇〇
敗血症性紅熱樣苔癬	一〇〇	白聖	一〇〇	斑紋狀扁平紅色苔癬	一〇〇
敗血症性水疱熱	一〇〇	白色葡萄酒	一〇〇	斑紋性紅斑	一〇〇
普胸帶狀疹	一〇〇	白色葡萄酒狀球菌性膿痂疹	一〇〇	斑狀扁平紅色苔癬	一〇〇
普胸帶狀疹	一〇〇	白色尋麻疹	一〇〇	斑狀出血	一〇〇
拔術撒謨疹	一〇〇	白癩	一〇〇	斑狀紫斑	一〇〇
馬鈴薯粉	一〇〇	剝離軟膏	一〇〇	斑狀出血	一〇〇
馬鼻疽	一〇〇	剝脫性紅皮膚症	一〇〇	斑紋狀扁平紅色苔癬	一〇〇
馬鼻疽下疳及潰瘍	一〇〇	慢性——	一〇〇	斑紋性紅斑	一〇〇
馬鼻疽新節	一〇〇	急性及亞急性性——	一〇〇	斑狀出血	一〇〇
馬鼻疽菌	一〇〇	全身性——	一〇〇	斑紋性紅斑	一〇〇
	一〇〇	剝脫性紅熱樣紅斑(再發性)	一〇〇	斑狀出血	一〇〇

半面發汗	三〇	蜂窠織炎性丹毒	三〇	便毒	二二
半浴	三〇	蜂窠織腫	三〇	癩疹性—	二二
播種狀天疱瘡	三〇	硼酸亞鉛華糊(土肥氏)	三〇	疥癬腫	二二
播種狀疣贅	三〇	硼酸亞鉛華糊(土肥氏)	三〇	疥癬狀濕疹	二二
尿毒發疹	三〇	放射量	三〇	偏側帶狀疹	二二
日光濕疹	三〇	放射病	三〇	偏側多汗症	二二
乳房及乳暈濕疹	三〇	陰部—	三〇	變種性猩紅熱	二二
乳頭	三〇	判斯—	三〇	と	二二
乳頭中ノ神經	三〇	顏面—	三〇	ドーリウム	二二
乳頭下淋巴管	三〇	帶狀—	三〇	トラウマチン	二二
乳頭下血管網	三〇	單純性—	三〇	糖尿病	二二
乳頭層	三〇	熱性—	三〇	糖尿病性發疹	二二
乳頭狀扁平紅色苔癬	三〇	結膜—	三〇	糖尿病性壞疽	二二
乳頭狀皮膚炎(頭部)	三〇	月經性—	三〇	蛇行性水泡性—	二二
乳嘴	三〇	虹彩狀—	三〇	盜汗	二二
肉腫(深在)	三〇	口腔—	三〇	痘瘡	二二
入浴(濕疹ニ)	三〇	狀斯的里性—	三〇	室狀疹	二二
ホーランド乳癩病	三〇	痘疹樣膿痂疹	三〇	膿疱性出血性—	二二
ボツクハルト氏膿痂病	三〇	痘疹熱	三〇	膿瘻	二二
母斑	三〇	痘疹狀皮膚炎	三〇	瘰癧	二二
血管擴張性—	三〇	痘疹性安魏那	三〇	淋巴管	二二
牡蠣粉	三〇	飽肥細胞	三〇	淋巴管細管網	二二
發疹	三〇	飽肥細胞腫	三〇	淋病性膿痂疹	二二
發疹性血色素尿	三〇	木菓狀天疱瘡	三〇	淋病性副睾丸炎	二二
蜂窠織炎	三〇	奔富性猩紅熱	三〇	輪狀扁平苔癬	二二

痘疹性齧齒疹	一六三	毒物性紅斑	六	綠石酸	二二
痘疹性舌炎	一六三	毒物性皮膚炎	六	流動石酸	二二
痘疹	一六三	毒飽ニ因ル皮膚ノ火傷的負傷	六	ナフトール—	二二
第二次—	一六三	土肥氏刺刺林膏	六	下山氏—	二二
疼痛性麻痺	一六三	土肥氏布苔糊膏	六	流行性剝脫性皮膚炎	二二
塔ノ澤溫泉	一六三	土肥氏弱弱糊膏	六	癰腫	二二
冬季癩痒症	一六三	土肥氏參兒膏(土肥氏參兒膏)	六	隆線(瓜ノ)	二二
透明層	一六三	土肥氏亞鉛華護膜糊膏	六	淋巴管	二二
動脈硬結	一六三	土肥氏石炭酸亞鉛華護膜糊膏	六	淋巴管	二二
凍死	一六三	頓挫性帶狀疹	六	淋病性膿痂疹	二二
凍傷	一六三	頓挫性麻疹	六	淋病性副睾丸炎	二二
第一度—	一六三	脈脂	六	淋病性膿痂疹	二二
第二度—	一六三	チトリグテス、ソリオール	六	輪狀天疱瘡	二二
第三度—	一六三	チオノール(下山氏無臭イヒチオノール)	六	輪狀傳染性膿痂疹	二二
紅斑性—	一六三	チオノール軟膏	六	鱗屑	二二
壞疽性—	一六三	チオノール(紫藍斑)	六	鱗屑(濕疹ノ)	二二
水泡性—	一六三	チオノール氏痘疹狀皮膚炎	六	鱗屑疹	二二
凍瘡	一六三	チオノール氏痘疹狀皮膚炎	六	汎發性—	二二
特異質	一六三	チオノール氏痘疹狀皮膚炎	六	地圖狀—	二二
相對的—	一六三	チオノール氏痘疹狀皮膚炎	六	貨幣狀—	二二
局處的—	一六三	知覺點(皮膚ノ)	六	花環狀—	二二
絕對的—	一六三	弛緩性充血	六	環狀—	二二
特發性膿痂疹	一六三	腸炎扶斯性齧齒疹	六	點狀—	二二
特發的帶狀疹	一六三	潮紅	六	蛇行性—	二二
赤癩	一六三	血管神經障礙性—	六	尋常性—	二二
壯年—	一六三	眞性—	六		
圓形—	一六三	丁字油	六		
批癩疹性—	一六三	長毛	六		

飛沫狀	三六	疣科秘録	三六	慢性單純性	三六
鱗屑性濕疹	三三	癩疽	三六	紅色	三六
ルッフ・ニー氏小體	三三	腰肌蹠帶狀疹	三三	出血性	三六
類丹毒	三六	腰痛	三三	小兒尋麻疹	三六
カイトロビン	三二	腰股帶狀疹	三三	尋麻疹樣	三六
ガイヂウム菌	三二	葉狀落屑	三三	尋麻疹性	三六
ガイガルロール	三二	換疹性便毒	三三	腺病性	三六
阿列布油	三二	換疹性小結節	三三	尖圭紅色	三六
黃蠟	三二	換疹性濕疹	三三	苔癬樣濕疹	三六
黃金毛	三二	浴湯	三三	苔癬狀變化	三六
黃色汗	三二	たれ	三三	苔癬狀批癩疹(慢性)	三六
黃色ノ菌凝塊	三二	胎毒氣	三三	多發性神經性皮膚壞疽	三六
黃色腫樣尋麻疹	三二	大痘	三三	多發性皮膚炎(急性)	三六
黃癬	三二	大理石斑皮	三三	多汗症(發汗過多症)	三六
汚疹	三二	大理石斑皮	三三	汎發性	三六
溫覺	三二	大楓子油	三三	偏側	三六
溫覺神經	三二	對側多汗症	三三	特發的	三六
溫熱調節(皮膚ノ)	三二	對側性壞疽	三三	兩側	三六
溫熱的紅斑	三二	對症的多汗症	三三	眼又前頭	三六
溫熱的濕疹	三二	壞疽性	三三	頭椎鎖骨下部	三六
溫濕法	三二	帶狀疱疹	三三	頸椎上胸	三六
溫泉	三二	亞砒酸性	三三	頸部	三六
溫泉浴(濕疹ニ)	三二	帶狀偏行疹	三三	不全	三六
ソレゲン	三二	帶狀疹	三三	後頭部	三六
				坐骨陰部	三六
				胸部及肋間	三六
				出血性	三六
				薦坐	三六
				水疱性	三六
				苔癬	三六
				敗血性猩紅熱樣	三六
				扁平紅色	三六
				扁平赤色	三六
				ワルソン氏輪狀扁平	三六
				ワグネル氏	三六

瀧注浴	四	背腹	一	角痘	三六
瀧浴法	四	背部	一	角化(不全)	三六
感應能作	七	偏側	一	角化症	三六
感應電流	七	特發的	一	角葉	三六
應疹	二〇	兩側	一	角層離解症(先天性)	三六
眼帶狀疹	二〇	眼又前頭	一	角層增殖	三六
眼臉濕疹	二〇	頭椎鎖骨下部	一	角質過生	三六
含氣上皮	二〇	頸椎上胸	一	角狀扁平紅色苔癬	三六
含羞性紅斑	二〇	頸部	一	過錫侃酸加里浴	三六
肝油	二〇	不全	一	過硬管	三六
顔面疱疹	二〇	後頭部	一	夏季水疱疹	三六
顔面帶狀疹	二〇	坐骨陰部	一	夏季	三六
顔面濕疹	二〇	胸部及肋間	一	髮油	三六
環狀尋麻疹	二〇	出血性	一	痲皮	三六
環狀紅斑	二〇	薦坐	一	甘肅桃油	三六
環狀尋麻疹	二〇	水疱性	一	甘草散(複方)	三六
痛腫	二〇	苔癬	一	汗泡	三六
深入性	二〇	敗血性猩紅熱樣	一	汗孔	三六
關節供麻質斯	二〇	扁平紅色	一	汗疹性濕疹	三六
眞性急性	二〇	扁平赤色	一	汗腺	三六
關節供麻質斯性(急性)發疹	二〇	ワルソン氏輪狀扁平	一	汗腺體	三六
乾癬	二〇	ワグネル氏	一	汗腺ノ血管	三六
乾性脂漏	二〇			汗腺ノ神經	三六
完全治癒	二〇			汗腺分泌	三六
沃度速疥	二〇			汗腺炎	三六
沃度疹	二〇			汗腺輸出管閉塞性囊腫	三六
結節性	二〇			汗腺腫	三六
恙蟲病性尋麻疹	二〇				

不斷浴法
不全角化
不全帶狀疹
不全天疱瘡
風疹
布苔刺骨(土肥氏)
覆盆子樣毛疥
覆盆子樣舌
覆盆子狀吳素疹
腹部帶狀疹
副睪丸炎(淋病性)
副睪丸
副睪丸
膿毒疹
匍行疹樣膿痂疹
輻射能作
輻射能作沈著物
輻射能作性藥品
輻射能作性物質
輻射線
浮腫
雙血性
浮石石鹼
憤怒性紅斑
分利的發汗
粉末劑
動物性
礦物性

植物性	含羞性	紅斑性濕疹	二三〇
粉末石鹼	打撲傷樣	紅光療法	二三〇
粉狀落屑	多形滲出性	虹彩狀地疹	二三〇
コ	迂迴狀	虹彩狀紅斑	二三〇
コロン氏エヒテレン	膿毒疹	紅色汗	二三〇
コロヤウム	結節性	紅色苔癬	二三〇
コプリック氏斑	虹彩狀	汎發性	二三〇
格魯布性天疱瘡	固定	扁平	二三〇
孤立性天疱瘡	轉移性	珊瑚珠數樣	二三〇
戊列刺性蕁麻疹	轉移性(膿毒疹)滲出性	猩紅疹樣	二三〇
故造蕁麻疹	器械的	滲出性	二三〇
護謨糊膏(ヒック氏)	丘疹性	尖圭	二三〇
口圍濕疹	猩紅熱樣	紅色器癬疹	二三〇
口唇疱疹	小兒	紅色病	二三〇
口圍濕疹	小水疱性	紅色批癩疹	二三〇
口圍毛	蜀黍	ヘブラ氏	二三〇
口圍毛	蛇行狀	亞急性	二三〇
口圍毛	持久性	毛孔性	二三〇
紅斑	種痘性	紅皮症	二三〇
紅斑	尋麻疹樣	剝脫性	二三〇
紅斑	精神的	落屑性	二三〇
紅斑	水疱性	紅毛	二三〇
紅斑	紅斑期(濕疹)	硬度計	二三〇
紅斑	紅斑性濕疹	硬化性扁平紅色苔癬	二三〇
紅斑	紅斑性凍傷	硬化性項部毛囊炎	二三〇
紅斑	紅斑性火傷	硬管	二三〇
紅斑	紅斑性紫斑	硬結性瘰癧	二三〇
紅斑	紅斑性紫斑	硬膏	二三〇

物名索引

硬皮症	六〇三	疥癬糊膏(土肥氏)	五	眞性蛇行性	一〇
限局性	一〇二	えんそ	六三	輪狀	一〇
硬毛	一〇	エイヤン	七〇七	精膜	一〇
硬石瘰	一〇	エマナチオン	七〇七	瘰癧性	一〇
交趾足	一〇	エマノザール錠	七〇七	増殖性	一〇
交流	一〇	エシプス	七〇七	落葉狀	一〇
後療法	一〇	エヒテルミン(コーン氏)	一〇	格魯布性	一〇
後頭部帯狀疹	一〇	榮發障礙性表皮水疱症	一〇	慢性	一〇
膠樣質	一〇	依的兒	一〇	經久性	一〇
膠劑	一〇	壞疽	一〇	限局性	一〇
糠浴	一〇	老人	一〇	不全	一〇
項部息肉	一〇	糖尿病性	一〇	孤立性	一〇
項部毛囊炎(硬化性)	一〇	特發	一〇	壞疽性急性	一〇
高山氣候	一〇	乾性	一〇	悪性	一〇
工業的銀症	一〇	多發性神經皮膚	一〇	悪液性	一〇
工業濕疹	一〇	對側性	一〇	攪痰性	一〇
光線療法	一〇	限局性	一〇	急性	一〇
黒痘	一〇	電擊性	一〇	有熱急性	一〇
黒色汗	一〇	壓迫性	一〇	實扶的里性	一〇
黒色ノ菌塊	一〇	濕性	一〇	初生兒急性	一〇
黒毛	一〇	欺斯的里性	一〇	蛇行狀	一〇
糊膏	一〇	壞疽性凍傷	一〇	尋常性	一〇
糊膏	一〇	壞疽性帶狀疱疹	一〇	天花粉	一〇
肥料かぶれ	一〇	壞疽性帶狀疹	一〇	天正記	一〇
固定丹毒	一〇	壞疽性丹毒	一〇	電流	一〇
固定紅斑	一〇	壞疽性濕疹性深膿胞	一〇	電流開閉器	一〇
固形石瘰	一〇	壞疽性急性天疱瘡	一〇	電流感應器	一〇
狐臭	一〇	壞疽性深膿胞症	一〇		

四三二

電流ノ強サ	三〇	亞鉛華油(ラッサール氏)	一四七	產疹性猩紅熱樣發疹	一〇
電解開閉器	三〇	亞細亞丸	一四七	山慈姑粉	一〇
電擊性瘰癧	三〇	亞砒酸	九三三	規尼濕疹	一〇
電氣療法	三〇	亞砒酸角化症	一四七	器械的紅斑	一〇
電氣分析術	三〇	亞砒酸曹達	一四七	器械的充血	一〇
點狀鱗屑疹	三〇	亞砒酸曹達	一四七	魚鱗癬	一〇
點狀瘰癧	三〇	亞砒酸劑	一四七	初生兒脂性	一〇
點狀出血	三〇	亞砒酸疹	一四七	虛性充血	一〇
澱粉浴	三〇	亞砒酸性帶狀疱疹	一四七	胸部及肋間帶狀疹	一〇
傳染性膿痂疹	三〇	赤萬膏	一四七	胸毛	一〇
輪狀	三〇	熱海溫泉	一四七	癩皮症	一〇
アトロペン	三〇	壓迫性瘰癧	一四七	莢狀落屑	一〇
アトキシール	三〇	惡液性天疱瘡	一四七	癩	一〇
アガリチン	三〇	惡液性深膿胞(壞疽性)	一四七	癩皮症	一〇
アラブリン	三〇	惡液性膿胞	一四七	癩皮症	一〇
アクチニウム	三〇	淺川氏丹毒液	一四七	癩皮症	一〇
アデプス、ラーテ	三〇	蘆ノ湯	一四七	癩皮症	一〇
あかばな	三〇	雅法	一四七	癩皮症	一〇
あかぎれ	三〇	安知必林疹	一四七	癩皮症	一〇
亞爾加里性石瘰	三〇	安息香脂	一四七	癩皮症	一〇
亞拉比亞護膜漿	三〇	安那那	一四七	癩皮症	一〇
亞麻仁油	三〇	痘疹性	一四七	癩皮症	一〇
亞鉛華	三〇	猩紅熱性	一四七	癩皮症	一〇
亞鉛華護膜糊膏(土肥氏)	三〇	さ	一四七	癩皮症	一〇
亞鉛華膠	三〇	さくろはな	一四七	癩皮症	一〇
		細胞間橋	一四七	癩皮症	一〇
		坐浴	一四七	癩皮症	一〇

物名索引

四三三

物名索引

吸入性脾脫疽	六九	植物性	四三	脂漏性濕疹	四三八
急性紫癩	六九	油性多汗症	四三	脂腺排泄管	四三六
急性限局性皮膚水腫	七〇	油性脂漏	四三	脂肪過剩石鹼	四三六
牛痘疹	七〇	柚子ノ皮	四三	脂肪質	四三六
救治的丹毒	七〇	メントール	四三	脂腺	四三六
丘疹	七一	メントール糊膏	四三	脂腺體	四三六
漿液性	七一	メントール石鹼	四三	脂腺血管	四三六
濕疹性	七一	面皰	四三	脂腺分泌	四三六
充實性	七一	面皰壓出器	四三	脂腺腫脹	四三六
丘疹期(濕疹ノ)	七一	免癢(局處的)	四三	紫癩	四三六
丘疹狀紫癩	七一	み	四三	老人性	四三六
丘疹性持久性蕁麻疹	七一	ミクリツツ氏細胞	四三	斑狀	四三六
丘疹性麻疹	七一	明礬浴	四三	痘疹性	四三六
丘疹性紅斑	七一	水	四三	中毒性	四三六
丘疹性濕疹	七一	水カボレ	四三	淋病性	四三六
丘疹性猩紅熱	七一	水むし	四三	假麻質斯性	四三六
丘疹性蕁麻疹	七一	宮ノ下溫泉	四三	外傷性	四三六
脚汗	七一	シツプ氏フケルモケーン	四三	炭素熱性	四三六
氣候療法(濕疹ニ)	七一	シモン氏三角	四三	單純性	四三六
基底層	七一	四肢濕疹	四三	蛋殼性	四三六
基底細胞層	七一	脂衣	四三	紅斑性	四三六
起毛筋	七一	脂漏	四三	丘疹性	四三六
莖外線	七一	乾性	四三	濕熱性	四三六
金屬孤燈	七一	頭部	四三	出血性	四三六
銀症	七一	油性	四三	尋麻疹樣	四三六
汎發性	七一	脂漏小桿菌	四三	紫癩性(出血性)桿菌	四三六
工業的	七一				
局處性	七一				

四三四

紫癩斑(チアノーゼ)	七一	濕熱法	四三	初生兒脂性魚鱗癬	四三六
鹽原溫泉	七一	蒸氣浴	四三	漆劑	四三六
自汗	七一	瘴氣性傳染病	四三	濕潤期(濕疹ノ)	四三六
自體中毒	七一	消滅性表皮水疱症	四三	濕潤性濕疹	四三六
小斑	七一	硝子膜	四三	濕疹	四三六
小兒剝脫性皮膚炎	七一	硝表皮	四三	陰囊	四三六
小兒斑	七一	密液油	四三	陰部	四三六
小兒紅斑	七一	密液疹	四三	微絲性	四三六
小兒尋麻疹樣蕁麻疹	七一	痘疹性	四三	汎發性	四三六
小兒ストロフルス	七一	腸室扶斯性	四三	日光	四三六
小泡	七一	恙蟲病	四三	乳房及乳暈	四三六
小泡期(濕疹ノ)	七一	虎列刺性	四三	疥癬狀	四三六
小泡性丹毒	七一	睫毛	四三	鱗屑性	四三六
小泡性又小泡性濕疹	七一	睫毛腺	四三	濕熱的	四三六
小泡性麻疹	七一	止痒劑	四三	眼瞼	四三六
小痘	七一	觸覺	四三	顔面	四三六
小膿疱	七一	觸覺神經	四三	汗疹性	四三六
小結節	七一	尋瘡	四三	癩疹性	四三六
小水疱	七一	熾熱燈	四三	苔蘚樣	四三六
小水疱期(濕疹ノ)	七一	食餌療法(濕疹ノ)	四三	搔癢	四三六
小水疱性紅斑	七一	蜀黍中毒症(慢性)	四三	頭部	四三六
小水疱性紅斑	七一	蜀黍紅斑	四三	圓畫狀	四三六
醃母菌病	七一	對黍紅斑	四三	膿痂疹性	四三六
燒傷性火傷	七一	進行性	四三	膿疱性	四三六
燒死(第一期)	七一	前驅性	四三	皸裂性	四三六
晶樣角素	七一	初生兒剝脫性皮膚炎	四三	慢性	四三六
苜蓿根末	七一	初生兒多發性皮膚膿瘍	四三		
昇水浴	七一	初生兒天疱瘡球菌	四三		
昇水石炭酸軟膏	七一	初生兒急性天疱瘡	四三		

物名索引

四三五

物名索引

慢性汎發性	三	蛇行狀紅斑	一四	種痘	三三
頸部	三三	蛇行狀天疱瘡	一六	種痘樣水疱症	三三
結痂性	三三	蛇行狀鱗屑疹	三六	種痘性紅斑	三三
口圍	三三	蛇行性水疱性糖尿病性病性壞疽	三三	種子屑	三三
肛圍	三三	蛇行性尋麻疹	三三	手汗	三三
紅斑性	三三	上海皮膚質斯	一〇	手掌癢痒症	三三
工業	三三	四萬溫泉	三三	癩瘡	三三
丘疹性	三三	四股濕疹	三三	鬚髯毛囊炎	三三
急性	三三	刺戟現象	三三	出血	三三
肩面性	三三	血管運動神經性	三三	斑狀	三三
疣贅狀	三三	充血性	三三	出血性痘瘡	三三
脂漏性	三三	貧血性	三三	出血性桿菌	三三
小泡性(小水疱性)	三三	實扶的里(猩紅熱性)	三三	出血性帶狀疹	三三
濕潤性(糜爛性)	三三	實扶的里血清	三三	出血性苔癬	三三
四肢	三三	實扶的里性發疹	三三	出血性麻疹	三三
人工的	三三	實扶的里性天疱瘡	三三	出血性紫斑	三三
毛疥狀	三三	色汗	三三	出血性猩紅熱	三三
毛癩性	三三	色素(皮膚)	三三	臭汗	三三
赤色	三三	色素沈著	三三	臭素瘡	三三
水銀性	三三	色素ヲ有スル尋麻疹	三三	膿疱性結節性	三三
濕疹ノ多様症	三三	色素乾皮症	三三	膿瘡	三三
濕疹死	三三	色素性尋麻疹	三三	膿瘡	三三
濕疹狀變化	三三	持久性紅斑	三三	膿瘡	三三
濕疹性丘疹	三三	持久性尋麻疹	三三	膿瘡	三三
實性充血	三三	單純性	三三	膿瘡	三三
白癩染	三三	丘疹性	三三	膿瘡	三三
終末器	三三	疣狀	三三	弛緩性	三三
青年瘡瘡	三三				

四三六

腎臟炎性發疹(慢性)	一四	水疱性	一四	皮膚ノ組織的構造	一四
深膿胞	一四	尋麻疹樣苔癬	一四	皮膚ノ血管	一四
壞疽性惡疫性	一四	小兒	一四	皮膚ノ分泌	一四
壞疽性	一四	尋麻疹樣紅斑	一四	皮膚ノ呼吸	一四
尋常性	一四	尋麻疹樣紫斑	一四	不知覺的	一四
深在肉腫	一四	尋麻疹性苔癬	一四	皮膚ノ掩護	一四
尋麻疹	一四	神經(皮膚)	一四	皮膚ノ吸收	一四
尋麻疹	一四	神經痛	一四	皮膚ノ全面積	一四
尋麻疹	一四	神經性皮膚障礙症	一四	皮膚ノ色素	一四
尋麻疹	一四	人工尋麻疹	一四	皮膚ノ神經	一四
尋麻疹	一四	人工膿瘡	一四	皮膚ノ病理	一四
尋麻疹	一四	人工的瘡瘡	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	人工的濕疹	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	人工的皮膚炎	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	進行性跗系紅斑	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	尋常性咽喉炎	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	尋常性鱗屑疹	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	尋常性膿瘡	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	尋常性深膿胞	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	尋常性毛疥	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	尋常性天疱瘡	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	侵蝕性膿瘡	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	侵蝕性下疳	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	滲出性中癬疹	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	滲出性紅色苔癬	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	色素性	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	色素ヲ有スル	一四	皮膚ノ生理	一四
尋麻疹	一四	人工	一四	皮膚ノ生理	一四

物名索引

四三七

皮膚病療法通論	二四〇	脾脫疽淨腫	三六七	モル氏腺	二二	鬚禿	二〇
皮膚病學	二四一	脾脫疽菌	三六八	しへじり	二一	毛囊周圍炎	二〇
皮膚貧血	二四二	癩癧	三六九	毛衣	二〇	毛囊性濕疹	二〇
皮膚水腫(急性限局性)	二四三	癩癧期(濕疹ノ)	三七〇	毛髮	二〇	毛囊腫	二〇
皮膚	二四四	癩癧性濕疹	三七〇	毛髮過生症	二〇	毛囊腺	二〇
皮丘	二四五	毳麻子油	三七〇	毛髮ノ方向	二〇	毛孔性紅色毛根	二〇
皮質(毛幹ノ)	二四六	飛沫狀鱗屑疹	三七〇	毛髮ノ横断面	二〇	毛根	二〇
皮脂缺乏症	二四七	批糠疹	三七〇	毛髮ノ形成	二〇	毛根外鞘	二〇
皮脂細胞	二四八	老衰性	三七〇	毛髮ノ形成	二〇	毛根内鞘	二〇
皮膚	二四九	ヘアラ氏紅色	三七〇	毛髮ノ構造	二〇	毛根鞘	二〇
病院壞疽	二五〇	單純性	三七〇	毛髮ノ色澤	二〇	毛細管鞘	二〇
病源候論	二五一	ツウエルヤー氏毛孔性	三七〇	毛乳頭	二〇	毛球	二〇
猫舌	二五二	頭部	三七〇	毛流	二〇	毛脂	二〇
表皮	二五三	慢性苔癬狀	三七〇	毛瀉	二〇	毛表皮	二〇
表皮突起	二五四	批糠疹性秃髮	三七〇	毛幹	二〇	毛線	二〇
表皮中ノ神經	二五五	砒鐵丸	三七〇	毛疥	二〇	毛刺	二〇
表皮鱗屑	二五六	非寄生性毛疥	三七〇	單純性	二〇	毛細胞	二〇
表皮痛	二五七	眉毛	三七〇	葡萄狀球菌性	二〇	網突起	二〇
表皮肥厚	二五八	歇斯の里性毛疥	三七〇	覆盆子様	二〇	蒙古人斑	二〇
表皮水疱症	二五九	歇斯の里性壞疽	三七〇	尋常性	二〇	孟子	二〇
單純性	二六〇	貧血	三七〇	非寄生性	二〇	セルラック漆	二〇
榮養障礙性	二六一	限局性	三七〇	毛疥狀濕疹	二〇	背色汗	二〇
消滅性	二六二	先天性	三七〇	毛囊	二〇	精神の紅斑	二〇
先天性	二六三	肥大性扁平紅色苔癬	三七〇	毛囊蟲	二〇	糞毛	二〇
脾脫疽	二六四	脾脫疽	三七〇	毛囊ノ神經	二〇	正線輪	二〇
嚙下性及吸入性	二六五	嚙狀桿菌	三七〇	毛囊炎	二〇	舌炎(痘疹性)	二〇
脾脫疽血清	二六六	モルツキ	三七〇	硬化性項部	二〇		

物名索引

舌癢痒症	二九	前頭座瘡	三〇	水疱性火傷	二〇
絶體の特異質	二〇	前驅反應	三〇	水疱性帶狀疹	二〇
攝護腺肥大	二〇	前驅性蜀黍紅斑	三〇	水疱性丹毒	二〇
癩腫	二〇	尖圭紅色苔癬	三〇	水疱性紅斑	二〇
蜂窠癩	二〇	穿孔病	三〇	水疱性猩紅熱	二〇
汗腺	二〇	葛坐帶狀疹	三〇	水疱性尋麻疹	二〇
脂腺	二〇	腺病性苔癬	三〇	水疱性皮膚炎(先天性)	二〇
毛葉	二〇	腺病性皮膚病	三〇	水疱性水痘	二〇
石灰水	二〇	線狀扁平紅色苔癬	三〇	水痘性	二〇
石灰酸丸	二〇	線狀出血	三〇	水痘性腎臟炎	二〇
石灰酸亞鉛華糊膏	二〇	全身療法(皮膚病ノ)	三〇	水痛	二〇
石灰酸亞鉛華糊膏(土肥氏)	二〇	全身多汗症	三〇	水痛桿菌	二〇
石鹼(普通)ノ效用	二〇	全身病性中毒疹	三〇	伊東氏	二〇
石鹼ノ使用法	二〇	全身剝脫性紅皮膚病	三〇	マツチナウエル氏	二〇
石鹼硬膏	二〇	全身剝脫性皮膚炎	三〇	水銀閉閉器	二〇
石松子末	二〇	亞急性及慢性真正	三〇	水銀硬膏	二〇
石英燈療法	二〇	水	三〇	水銀蒸氣燈	二〇
赤色濕疹	二〇	ストロパトトリッキス、マツ	三〇	水銀疹	二〇
赤血球増加症	二〇	ストロパトトリッキス(小兒)	三〇	水銀性濕疹	二〇
赤遊丹	二〇	レニ	三〇	髓質(毛幹ノ)	二〇
先天性表皮水疱性	二〇	水疱	三〇	衰弱性麻疹	二〇
前兆疹	二〇	水疱熱(敗血性)	三〇	砂石鹼	二〇
痘疹ノ	二〇	水疱症(種痘様)	三〇	相撲膏	二〇
前額座瘡	二〇	水疱疹(夏季)	三〇		
前頭帶狀疹	二〇	水疱症凍傷	三〇		

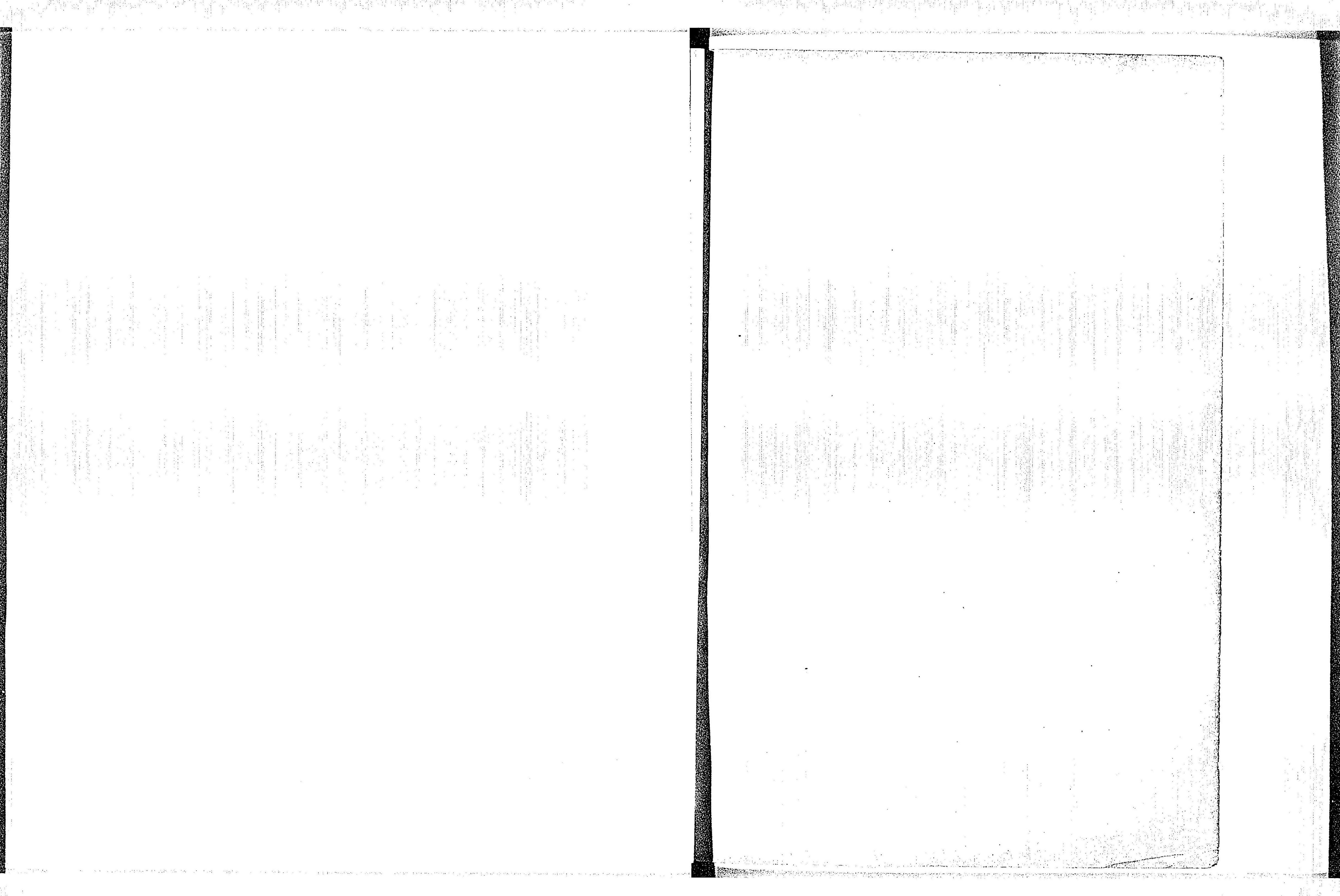
物名索引

ライオン	二二〇	ライオン	二二〇	ライオン	二二〇
ルロア	二二〇	ルロア	二二〇	ルロア	二二〇
ルビー	二二〇	ルビー	二二〇	ルビー	二二〇
ルルウ	二二〇	ルルウ	二二〇	ルルウ	二二〇
ルカシーウキツ	二二〇	ルカシーウキツ	二二〇	ルカシーウキツ	二二〇
ルレンド	二二〇	ルレンド	二二〇	ルレンド	二二〇
ルクレーン	二二〇	ルクレーン	二二〇	ルクレーン	二二〇
ルプ子ル	二二〇	ルプ子ル	二二〇	ルプ子ル	二二〇
ルサージェ	二二〇	ルサージェ	二二〇	ルサージェ	二二〇
ルストガルトン	二二〇	ルストガルトン	二二〇	ルストガルトン	二二〇
カ、お	二二〇	カ、お	二二〇	カ、お	二二〇
カインブルグ	二二〇	カインブルグ	二二〇	カインブルグ	二二〇
カホルチエ	二二〇	カホルチエ	二二〇	カホルチエ	二二〇
カスレル	二二〇	カスレル	二二〇	カスレル	二二〇
カステルライヒ	二二〇	カステルライヒ	二二〇	カステルライヒ	二二〇
太田英一	二二〇	太田英一	二二〇	太田英一	二二〇
大野豊太	二二〇	大野豊太	二二〇	大野豊太	二二〇
岡村龍彦	二二〇	岡村龍彦	二二〇	岡村龍彦	二二〇
岡崎桂一郎	二二〇	岡崎桂一郎	二二〇	岡崎桂一郎	二二〇
億川攝三	二二〇	億川攝三	二二〇	億川攝三	二二〇
奥村真筑	二二〇	奥村真筑	二二〇	奥村真筑	二二〇
荻野登州	二二〇	荻野登州	二二〇	荻野登州	二二〇
わ	二二〇	わ	二二〇	わ	二二〇
ワイル	二二〇	ワイル	二二〇	ワイル	二二〇
ワイゲルト	二二〇	ワイゲルト	二二〇	ワイゲルト	二二〇
ワイエル	二二〇	ワイエル	二二〇	ワイエル	二二〇
ワイテンフェルト	二二〇	ワイテンフェルト	二二〇	ワイテンフェルト	二二〇
ワイス	二二〇	ワイス	二二〇	ワイス	二二〇
ワルグアイエル	二二〇	ワルグアイエル	二二〇	ワルグアイエル	二二〇
ワルテル	二二〇	ワルテル	二二〇	ワルテル	二二〇
ワレンチン	二二〇	ワレンチン	二二〇	ワレンチン	二二〇
ワッセルマン	二二〇	ワッセルマン	二二〇	ワッセルマン	二二〇
ワントレルエフ	二二〇	ワントレルエフ	二二〇	ワントレルエフ	二二〇
ワンスン	二二〇	ワンスン	二二〇	ワンスン	二二〇
ワントレルデン	二二〇	ワントレルデン	二二〇	ワントレルデン	二二〇
渡邊管	二二〇	渡邊管	二二〇	渡邊管	二二〇
カター	二二〇	カター	二二〇	カター	二二〇
カホシイ	二二〇	カホシイ	二二〇	カホシイ	二二〇
カレウスキー	二二〇	カレウスキー	二二〇	カレウスキー	二二〇
ガッロウエイ	二二〇	ガッロウエイ	二二〇	ガッロウエイ	二二〇
カフマン	二二〇	カフマン	二二〇	カフマン	二二〇
カフン	二二〇	カフン	二二〇	カフン	二二〇
カザール	二二〇	カザール	二二〇	カザール	二二〇
カブナフ	二二〇	カブナフ	二二〇	カブナフ	二二〇
カンパーナ	二二〇	カンパーナ	二二〇	カンパーナ	二二〇
壁島爲造	二二〇	壁島爲造	二二〇	壁島爲造	二二〇
加藤照磨	二二〇	加藤照磨	二二〇	加藤照磨	二二〇
加納和夫	二二〇	加納和夫	二二〇	加納和夫	二二〇
陸山顯二	二二〇	陸山顯二	二二〇	陸山顯二	二二〇
よ	二二〇	よ	二二〇	よ	二二〇
吉田忠	二二〇	吉田忠	二二〇	吉田忠	二二〇
た	二二〇	た	二二〇	た	二二〇
ダバーメ	二二〇	ダバーメ	二二〇	ダバーメ	二二〇
ダベルニエー	二二〇	ダベルニエー	二二〇	ダベルニエー	二二〇
ダリヤー	二二〇	ダリヤー	二二〇	ダリヤー	二二〇
田中友治	二二〇	田中友治	二二〇	田中友治	二二〇
田中必大	二二〇	田中必大	二二〇	田中必大	二二〇
竹中成憲	二二〇	竹中成憲	二二〇	竹中成憲	二二〇
丸	二二〇	丸	二二〇	丸	二二〇
レイン	二二〇	レイン	二二〇	レイン	二二〇
レイノウ	二二〇	レイノウ	二二〇	レイノウ	二二〇
レブンドウスキー	二二〇	レブンドウスキー	二二〇	レブンドウスキー	二二〇
レツチェルリヒ	二二〇	レツチェルリヒ	二二〇	レツチェルリヒ	二二〇
レックリンガハッゼン	二二〇	レックリンガハッゼン	二二〇	レックリンガハッゼン	二二〇
レツセル	二二〇	レツセル	二二〇	レツセル	二二〇
レウイ	二二〇	レウイ	二二〇	レウイ	二二〇
レウキン	二二〇	レウキン	二二〇	レウキン	二二〇
レフレル	二二〇	レフレル	二二〇	レフレル	二二〇
そ	二二〇	そ	二二〇	そ	二二〇
ソロウツォフ	二二〇	ソロウツォフ	二二〇	ソロウツォフ	二二〇
ンペルンハイム	二二〇	ンペルンハイム	二二〇	ンペルンハイム	二二〇
ソワージェ	二二〇	ソワージェ	二二〇	ソワージェ	二二〇
ンチンアルグ	二二〇	ンチンアルグ	二二〇	ンチンアルグ	二二〇
ンメルフェルト	二二〇	ンメルフェルト	二二〇	ンメルフェルト	二二〇
つ	二二〇	つ	二二〇	つ	二二〇
ツイトレホント	二二〇	ツイトレホント	二二〇	ツイトレホント	二二〇
ツイトン	二二〇	ツイトン	二二〇	ツイトン	二二〇
ツウエルヤー	二二〇	ツウエルヤー	二二〇	ツウエルヤー	二二〇
筒井八百珠	二二〇	筒井八百珠	二二〇	筒井八百珠	二二〇
ね	二二〇	ね	二二〇	ね	二二〇
ダバーメ	二二〇	ダバーメ	二二〇	ダバーメ	二二〇
ナイセル	二二〇	ナイセル	二二〇	ナイセル	二二〇
ナウニ	二二〇	ナウニ	二二〇	ナウニ	二二〇
ナサロウ	二二〇	ナサロウ	二二〇	ナサロウ	二二〇
中西總太郎	二二〇	中西總太郎	二二〇	中西總太郎	二二〇
中野等	二二〇	中野等	二二〇	中野等	二二〇
中島明	二二〇	中島明	二二〇	中島明	二二〇
ら	二二〇	ら	二二〇	ら	二二〇
ラーベ	二二〇	ラーベ	二二〇	ラーベ	二二〇
ラーブ	二二〇	ラーブ	二二〇	ラーブ	二二〇
ライナル	二二〇	ライナル	二二〇	ライナル	二二〇
ライト	二二〇	ライト	二二〇	ライト	二二〇
ライエル	二二〇	ライエル	二二〇	ライエル	二二〇
ライスチコフ	二二〇	ライスチコフ	二二〇	ライスチコフ	二二〇
ラウベル	二二〇	ラウベル	二二〇	ラウベル	二二〇
ラウエルニエー	二二〇	ラウエルニエー	二二〇	ラウエルニエー	二二〇
ラザフォード	二二〇	ラザフォード	二二〇	ラザフォード	二二〇
ランウキ	二二〇	ランウキ	二二〇	ランウキ	二二〇
ラング	二二〇	ラング	二二〇	ラング	二二〇
ランケ	二二〇	ランケ	二二〇	ランケ	二二〇
ランゲル	二二〇	ランゲル	二二〇	ランゲル	二二〇
り	二二〇	り	二二〇	り	二二〇
ウーゲン	二二〇	ウーゲン	二二〇	ウーゲン	二二〇
ウイトホフ	二二〇	ウイトホフ	二二〇	ウイトホフ	二二〇

人名索引

コラニイ	三六	アルムキスト	三三	メルク	一八九	ピンクス	一九三
河本重次郎	一三	アダムキークワツ	一七九	メンデル	一〇五	日高捨吉	三二
え		アツチエナウエル	高四	み		も	
エーホルマン	二七	アウスビッツ	高	水尾源太郎	一七	モル	一九
エツキス子ル	二五	旭憲吉	五	ルゲン	一五	モントゴメリー	三三
エビー	二七	旭憲吉	五	ショルツ	五	モンチ	一〇九
エス子ル	二七	旭憲吉	五	シヤルツ	二五	森方正	一〇九
エングマン	二七	旭憲吉	五	シヤルツ	二五	森正道	一〇九
江馬幸太郎	二七	旭憲吉	五	シヤルツ	二五	森安達吉	一〇九
て		旭憲吉	五	シヤルツ	二五	せ	一〇九
デーレ	一〇九	サプロウ	一〇九	シヤルツ	二五	セギエイン	三三
デーブレ	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	センナー	三三
テイロー	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	す	三三
テリウス	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	ストレリツ	三三
テルパンコ	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	ストラウス	三三
テレータ	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	スターダ	三三
テ、アミナス	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	スタイナー	三三
テヒヨ	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	スタイナー	三三
テンメ	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	スタイナー	三三
あ		サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	スツッペンラウハ	三三
アーマン	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	スクリーバ	三三
アイゼルスベルグ	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	スクラーホ	三三
アイヒステッド	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	ステルゴゴン	三三
アロ、ボウ	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	スビーグレル	三三
アハルド	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	杉右一	三三
アポランド	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五	鈴木弘道	三三
アリペール	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五		
アルベルス、シモンベルグ	一〇九	サングスター	一〇九	シヤルツ	二五		

人名索引



8

LEHRBUCH
DER
DERMATOLOGIE

FÜR ÄRZTE UND STUDIERENDE

VON

Dr. K. DOHI

PROFESSOR UND CHEF DER UNIVERSITÄTSKLINIK UND POLIKLINIK
FÜR DERMATOLOGIE UND SYPHILIDOLOGIE IN TOKYO, VORSITZENDER
DER JAPANISCHEN DERMATO - UROLOGISCHEN GESELLSCHAFT,
MITGLIED DES CENTRALSANITÄTSAUSSCHUSSES DES KAISERLICH
JAPANISCHEN MINISTERIUMS DES INNERN, CORRESPONDIERENDES
MITGLIED DER WIENER DERMATOLOGISCHEN GESELLSCHAFT UND DER
BERLINER DERMATOLOGISCHEN GESELLSCHAFT, SOCIO ONORARIO
DELLA SOCIETÀ ITALIANA DI DERMATOLOGIA E SIFIOGRAFIA

BAND I

MIT 15 FARBENTAFELN UND 115 TEXTABBILDUNGEN.

TOKYO

VERLAG VON ASAKAYA

22 Kanda Kajichō 22

1910

DEM ANDENKEN

KAPOSIS

und

als Zeichen der Hochschätzung führender

Lehr- und Forschertätigkeit

Herrn Geheimrat Prof. Dr. A. NEISSER

IN BRESLAU

und

Herrn Prof. Dr. J. JADASSOHN

IN BERN

in dankbarer Verehrung gewidmet

vom

Verfasser.

SACHREGISTER.

<p>A</p> <p>Abschuppung 36</p> <p>Acantholysis hollosa 138</p> <p>Acanthose 37, 285</p> <p>Acarus folliculorum 16</p> <p>Achselhaare 17</p> <p>Acne artificialis *355</p> <p>— bromica *180, 355</p> <p>— chéloidique 359</p> <p>— frontalis 354</p> <p>— indurata 347</p> <p>— jodica 355</p> <p>— juveniles 346</p> <p>— mentagra 343</p> <p>— necrotica 354</p> <p>— picea 355</p> <p>— pilaire 354</p> <p>— punctata 347</p> <p>— pustulosa 346</p> <p>— rosacea 356</p> <p>— varioliformis *354</p> <p>— vulgaris *346</p> <p>Acnebacillus 349</p> <p>Acnenarben 346</p> <p>Acute Exantheme *193</p> <p>Adeps bonzoatus 45</p> <p>— lanæ 45</p> <p>— suillus 45</p> <p>Adipis *44</p> <p>Aëro-Epithel 21</p> <p>Aether sulfuricum 54</p> <p>Afterdrüsen 13</p> <p>Aktinomykosis *413</p> <p>Alapurin 45</p> <p>Alkohol 53</p> <p>Alopecia areata 67</p> <p>— pityrodes 259</p> <p>— praematura s. praesenilis 259</p> <p>Anylum 43</p> <p>— marantæ 43</p>	<p>Anylum Oryzae 43</p> <p>— Solani 43</p> <p>— Tritici 43</p> <p>Anaemiae cutis *73, 77</p> <p>Anaemisches Reizphänomen 76</p> <p>Anaesthesia dolorosa 145</p> <p>Anaikal 416</p> <p>Angina herpetica 151</p> <p>Angiome 68</p> <p>Anhangsorgane der Haut *13</p> <p>Anidrosis *267</p> <p>Anthrax *387</p> <p>Antipyrinexantheme *172</p> <p>Apex pili 20</p> <p>— unguis 24</p> <p>Aqua 41</p> <p>Argyrie *186</p> <p>— allgemeine 186</p> <p>— localisierte 187</p> <p>Arsenic cancer 184</p> <p>Arseniexantheme *183</p> <p>Arsenkeratose 184</p> <p>Arsenmelanose 184</p> <p>Arzneiexantheme *169</p> <p>Asphyxie, locale 83</p> <p>Asteatosis *263</p> <p>Atonische Umwandlung 70</p> <p>Augenbraunen 17</p> <p>Augenwimpern 17</p> <p>Äussere Wurzelscheide 23</p> <p>Autointoxication 105, 108, 113, 168</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>Bacillus anthracis 388</p> <p>— haemorrhagicus 92</p> <p>— ozenae 412</p> <p>— purpuræ haemorrhagicae 92</p> <p>Bal 41</p> <p>Balsamexantheme *186</p> <p>Barba 17</p> <p>Bartlinie 343</p> <p>Barthaare 17</p> <p>Basalschicht 4</p> <p>Basalzellenschicht 4</p> <p>Benzin 54</p> <p>Bimsteinseife 57</p> <p>Bindegewebsfasern 7</p> <p>Bismutum subnitricum 43</p> <p>Black variety 418</p> <p>Bläschen 37</p> <p>Blase 37</p> <p>Blastomycosis 418</p> <p>Beiliment Boeck 51</p> <p>Blutborke 38</p> <p>Borstenhaare 17</p> <p>Brand, feuchter 235</p> <p>— trockener 235</p> <p>Bromakne 180</p> <p>Bromexantheme *180</p> <p>Bromidrosis 268</p> <p>Bromoderma framboesiforme 181</p> <p>— pustulotuberosum 181</p> <p>— tuberosum 181</p> <p>Brusthaare 17</p> <p>Bulbus pili 21</p> <p>Bulla 37</p> <p>Butyrum Cacao 44</p> <p style="text-align: center;">C</p> <p>Calcaria carbonica 43</p> <p>Cancroid 68</p> <p>Capillarschlingen 9</p> <p>Capilli 17</p> <p>Carbunculus *384</p> <p>Cera alba 45</p> <p>— flava 45</p> <p>Cetaceum 45</p> <p>Cheiroponpholyx 301</p> <p>Chininexantheme *175</p> <p>Chloroform 54</p> <p>Chromidrosis 268</p>
--	---

Chromoradiometer	66	Dermatite exfoliatrice générale		Exceina figuratum	278
Chrysoarabin-Dermatitis	311	liscée	320	— folliculare	278
Cicatrix	38	Dermatitis	76	— genitalium	279
Cilia	17	— acuta	286	— impetiginosum	272
Cochinbein	416	— artificialis	282	— intertriginosum	277
Collapsschweiss	264	— bullosa hereditaria	138	— lichenoides	278
Collodium	55	— exfoliativa	*320	— madidans	272
Combustio	*241	— chronica	315	— mercuriale	176
— bullosa	241	— neonatorum Ritter	*401	— mykoticum	277
— erythematosum	241	— herpetiformis Dühring		— papulatum	272
— escharotica	242		124, *136	— pruriginosum	111
Comedo	16, 29, 347	— lichenoides pruriens	340	— pustulosum	72
Conchae praeparatae	43	— papillaris capillitii Kaposi		— rhagadiforme	277
Congelatio	*247		67, *359	— rubrum	272, 276
— bullosa	248	— psoriasiformis nodularis	312	— seborrhoicum	*298
— erythematosum	247	— toxica	*256	— skroti	279
— escharotica	249	— venenata	*256	— solare	284
Constanter Strom	58	Dermatologie	1	— squamosum	272
Corium	4	Dermographismus	95	— sudamen	278
Cornu Hutchinson	184	Desquamatio furfuracea	206	— sykosiforme	276
Corpus glandulae sebaceae	15	— lamellosa	206	— trunci	278
— — sudoriferae	13	— membranacea	206	— tyloticum	281
— unguis	24	— siliquosa	206	— universalis	273
Creta alba	45	Desquamation	36	— verrucosum	280
Cristae cutis	3	— scarlatiniforme recidivante		— vesiculosum	272
— matricis unguis	25		320	Echymosen	86
Cuticula pili	21	Diabetische Gangrän	*237	Ecthyma gangraenosum	379
— vaginae	24	Diphtherieheilserum	165	— — cachecticorum	*379
Cutis	*3	Diplococcus scarlatinae	209	— vulgare	*378
— marmorata	77	Discomyces Madurae	417	Efflorescenz	36
— testacea	259	Douche	41	Eiterbläschen	38
Cyanidrosis	268	Druckgangrän	236	Eiterblase	38
Cyanose	77	Ductus sudoriferus	13	Ekthyma	38
— regionäre	83	Dunstumschläge	41	Ekzematization	111, 120, 285
Cylinderzellenschicht	4	Dysidrosis	301	Ekzematod	296
Cystis	38			Elastische Fasern	7
Cytrictes variolae	226	E		Electrolyse	58
		Eccena	67, 114, 120, *270	Eläidin	6, 21
		— acutum	270	Emanation	70
		— ani	279	Emanosal-Tablette	71
		— artificialis	285	Emplastra	*51
		— caloricum	284	Emplastrum Hydrargyri	52
		— capillitii	273	— Lithargyri	52
		— chronicum	270, 272	— saponatum	52
		— colli	277	Euanthema	172, 194
		— crustosum	272	Endorgan des Nerven	10
		— exrthematosum	271	Ephidrosis	264
		— extremitatum	279	Epidermin <i>Cohn</i>	56
		— faciei	275	Epidermis	4
				Epidermisschuppen	6

Epidermiszapfen	4	Erythema toxicum	58, 165	Fuluxus sebaceus	258
Epidermolysis bullosa hereditaria Köhler	*138	— traumaticum	76	Fungus disease of India	416
— — la forme bulleuse et dystrophique	138	— tuberculatum	154	Furunculus	*381
— — — — — simple	138	— urticatum	155		
— — — — — frust	139	— vaccinicum	75	G	
Erfrierung	247	— variolosum	213	Gangrän, multiple neurotische	
— I ^{ten} Grades	247	— venenatum	76	— — — — —	238
— II ^{ten} Grades	248	— vesiculosum	155	— diabetische	237
— III ^{ten} Grades	249	Erythematosus	67	— spontane	236
Erfrierungstod	249	Erythema, fixe	170	Gangraena cutis	*235
Ergotivergiftung, chronische	84	— metastatische	165	— — — — —	
Erosion	36	Erythèmes scarlatiniformes desquamatis recidivants	321	— diabetica bullosa serpiginosa	237
Eruptionstieber	195	Erythrodermies exfoliantes généralisées	320	— — — — —	82
Erysipelas	391	— — — primitives	322	Gangrène foudroyante	390
— ambulans	392	— — — secondaires	322	— — — — —	238
— bullosum	392	— — — secondaires accidentelles on épisodique	322	Gerade Haare	20
— confluens	392	Erythromelalgie	*78	Geschlechtshaare	17
— crustosum	392	Exanthema, postvaccinale	167	Geschwür	38
— fixum	392	— septische	165	Gewerbeargyrie	187
— gangraenosum	392	— toxische exsudative	*164	Gewerbekzem	280
— migrans	392	Excoriation	36	Glandulae ciliares Molli	13
— miliare	392	Exfoliation	36	— — — — —	13
— phlegmonosum	392			— sebaceae	*15
— vesiculosum	392	F		— sudoriferae	*13
Erysipeloid	396	Falten der Haut	3	Glashaut	22
Erysiprèle salutaire	398	Faradische Ströme	58	Glatte Muskelfasern	7
Erythema	38, 74	Farina Pisi	43	Gleichstrom	64
— abaeutilus	76	Favus	67	Glossitis variolosa	219
— annulare	154	Febris bullosa septica	124	Glühlicht	58
— bullosum	156	— herpetica	150	Glycerinum	46
— circinatum	154	— morbillosa sine Exanthematae	197	Glycérolé d' amidon	50
— contusifforme	161	Fette	*44	Goutton mandi	416
— caloricum	76	Filmogen <i>Schiff</i>	56	Grande vérole	227
— exsudativum multiforme Hebra	*154	Finsenlampe	58	Guajaco	55
— gyrratum	154	Firnisse	*53	Guttapercha-Pflastermull	53
— infantile	75	Fissura	38		
— iracundiae	75	— — — — —	279	H	
— Iris	155	Flaschenbazillen	279	Haare	*17, 20
— maculosum	154	Fleck	38	Haarbalg	20
— mechanicum	76	Flamina pilorum	19	Haarbalgdrüsen	15
— nodosum	*160	Flüssige Seifen	56	Haaroberhäutchen	21
— papulatum	154	Folliculitis	348	Haarpapille	21
— polymorphe	154	— — — — —	343	Haarschaft	20
— psychicum	75	— — — — —	359	Haarscheiden	22
— pyaemicum	165	Folliculus pili	20	Haarstrich	19
— pudoris	75	Follikularfurunkel	381	Haarströme	19
— serpiginosum	154			Haarwirbel	19
				Haarwurzel	21
				Haarzwiebel	21
				Halbbad	41

Hämatidrosis	269	Hyperkeratose	36	Kieselguhr	44
Hämoglobinurie	243	Hypertrichosis	67	Kinderflecken	26
Hämorrhagiae cutaneae	*86			Knäuel	13
Hämorrhagie	78	I		Knollen	37
Harte Röhre (Röntgenröhre)	65	Ichthyosis sebacea neonatorum	259	Knötchen	37
Harte Seifen	56	Idiosynkrasie	40	Knoten	37
Haut	*3	— absolute	171	Kollagene Substanz	7
Hautgangrän, acute multiple	238	— locale	170	Kopfhaare	17
— emultiple	238	— relative	170	Kopflische Flecken	195
Hautsinn	*34	Immunität, locale	170	Kratzkezem	111, 285
Heilung ad integrum	37	Impetigo	38, 272, *364	Krümelhaare	20
Hemihyperidrosis	264	— albostaphylogenes <i>Dohi</i>	365	<i>Kruses</i> Endokolben	11
Herpes	37	— <i>Bockhart</i>	364, *375	Kreuzschmerzen	212
— cristicus	150	— circinata <i>Umma</i>	368	<i>Kromayer-Lampe</i>	58
— facialis	150	— contagiosa	364, *365, 371	Krusta	38
— febrilis	150	— — circinata <i>Dohi</i>	368	Kruste	38
— genitalis	150	— erysipelatodes	364	Kurzhaare	17
— Iris	155	— figurata	364		
— labialis	150	— herpetiformis	364, *399	I	
— menstrualis	151	— rodens	364	Langhaare	17
— mucosae	151	— scabida	364	Lanolin	45
— pyaemicus	399	— sparsa	364	— anhydricum	45
— simplex	*150	— staphylogenes	375	Lanolinpasta <i>Dohi</i>	48
— Zoster	*144	— streptogenes <i>Dohi</i>	365, 371	Lanugo Haare	67
— — gangranosus	238	— vulgaris	364, 365, *371	<i>Lassarsche Pasta</i>	47
Himbeerzunge	205	Impetigokokken	364	Lederhaut	4
Hirci	17	Indisches Mycetoma	416	Leisten	3
Hornplättchen	6	Induktor	65	Lepra	103
Hornsicht	4	Induzierte Aktivität	71	Leucoderma	39
Huxleysche Schicht	24	Innere Wurzelscheide	23	Leukämie	68
Hydra aestivale	142	Intertrigo	265	Lichen	37, 324
— vacciniiforme Bazin	*142	Interzellularbrücke	5	— annulatus <i>Wilson</i>	328
Hydroadenitis	381	Ischämie, regionäre	82	— de <i>Wilson</i>	327
Hyperaemiae cutis	*73, 74			— exsudativus rubra	325
Hyperaemie, aktive	73	J		— haemorrhagicus	86
— asthenische	74	Jodakne	178	— planus	325, 327
— atonische	74, 76	Jodexantheme	*178	— ruber	*324
— mechanische	77	Jododerma tuberosum	178	— — acuminatus	324, *334
— passive	74			— — acutus (subactus)	331
Hyperaemisches Reizphänomen	76	K		— — monileformis	330
Hyperhydrosis oleosa	260	Karzinome, tiefergreifende	68	— — planus	67, 324, *327
Hyperidrosis	67, *263	Kathodenstrahlen	62	— — atrophicus, sclerosus,	
— axillarum	265	Katzenzunge	205	keloidiformis s. morphaeicus	
— genitalium	265	Keimschicht	4	— — pemphigoides	330
— localis	264	Keratin	6	— — striatus s. linealis	330
— manum	265	Keratohyalin	6, 21, 285	— — verrucosus, corneus,	
— pedum	265	Keratolysis bullosa hereditaria	138	papillomatosus, hypertrophicus	
— symptomatische	264	Keratosis	36	s. tuberosus	330
— unius lateris	264				
— universalis	263				

Pellagratyphus	189	Pityriasis rubra pilaris	324,	Purpura fulminans	89
Pemphigus	37,*122	326,*334		— gonorrhoeica	90
— abortiver	126	— — — Devergie	324	— haemorrhagica	91
— acutus	122, 123	— simplex	260	— morbillosa	86
— — febrilis	123	— tabescentium	260	— papulosa	86
— — gangraenosus	123	Plica polonica	273	— pulicosa	86
— — neonatorum	122, 305	Pockennabel	214	— rheumatica	*87, 92
— cachecticorum	127	Pockennarben	216	— scarlatiosa	86
— chronicus	122	Polymorphie des Ekzems	271	— senilis	86
— circinatus	126	Pompholyx	*301	— simplex	87
— confertus	126	Polycytaemia rubra	79	— toxica	86
— crouposus	128	Porussudoriferus	13	— traumatica	86
— diphtheriticus	128	Primaere Haare	18	— urticatus	87
— disseminatus	126	Primaerflorescenzen	39	— variolosa	86, 220
— diutinus	127	Primaerspule	65	Pustula	38
— foliaceus	129	Prodromalexantheme	213	— maligna	387
— localis	125	Prostatohypertrophie	68		
— mucosae	130	Prurigo	68, 108,*109	Q	
— pruriginosus	128	— agria s. ferox	111	Quaddel	37, 94
— serpiginosus	126	— mili s. milis	111	Quarzlampe	58
— — benignus	126	Prurigoknötchen	110	Quecksilberdampflampe	58
— solitarius	125	Prurigobubonen	111	Quecksilberexantheme	*176
— vegetans	129	Pruritus	68		
— vulgaris	125	— analis	119	R	
Perniones	80	— cutaneus	98, 117	Radioaktive Deposits	71
Perifolliculitis	348	— genitalium	119	— Ablagerung	71
Perikal	416	— hiemalis	119	— Medicamente	71
Permanentes Wasserbad nach		— linguae	119	— Substanzen	70
<i>Hebra</i>	41	— localis	119	Radioaktives Bad	80
Pemphigus desquamativa	260	— palmar manus	119	Radioaktivität	70
Pemphigus suppurans	248	— plantae pedis	119	Radiogenschlamm	71
— ulcerans	248	— senilis	118	Radiogenwasser	71
Perspiratio insensibilis	31	— universalis	117	Radiometer (Röntgentherapie)	66
Petechien	86	Pseudoleukämie	68	Radium	69
Petite vérole	227	Pseudo-Lichen	340	Radiumbromid	69
Pflaster	*51	Psoriasis geographica	306	Radiumdermatitis	255
Phlegmone	*390	— guttata	306	Radix pili	21
Phyma	37	— gyrata	306	— unguis	24
Physikalische Therapie	58	— nummularis	306	Raynaudsche Krankheit So,	*82
Pigmentatio	39	— orbicularis	306	Reils toter Finger	81
Pigmentflecke	38	— punctata	306	Reizphänomen, anaemisches	76
Pigmentierung	39	— serpiginosa	306	— hyperaemisches	76
Pili	17	— universalis	306	— vasomotorisches	76
Pilus	20	— vulgaris	67,*306	Rete Malpighii	4
Pityriasis	36	Pubes	17	Retezapfen	4
— capitis	259	Puder	43	Rhagades	38
— lichenoides chronica	*312	Pulverseifen	56	Rhinophyma	356
— pilaris	325	Purpura	86	Rhinoscleroma	*410
— rubra	322	— anthracosa	86	Rhinosklerin	413
— — Hebra	*315	— erythematosus	89	Rhizoma Iridis flor.	43

Kindengewebe	21	Schälpasten	353	Stadium madidans	270
Röntgen-Frühreaction	*253	Schamhaare	17	— papulosum	270
Röntgengermatitis	252	Scharlach, puerperaler	165	— pustulosum	270
— chronische	253	— traumatischer	165	— squamosum	270
Röntgenhand	254	Scharlachangina	204	— vesiculosum	270
Röntgentherapie	*62	Scharlachzunge	205	Staphylococcus albus butyricus	
Röntgenröhre	65	Schellack	55	<i>Sabouraud</i>	349
Röntgenverbrennung	253	Schenkeldreieck (Simon)	213	Status spongoides	285
Rosacea	348,*356	Schliessungsstrom	65	Stauungshyperaemie	74
— Iten Grades	356	Schrunde	38	Stauungsödem	74
— IIten Grades	356	Schuppen	36	Strahlen	70
— IIIten Grades	356	Schutzpockenimpfung	228	Strahlendosis	66
Rose	391	Schwarze Blattern	220	Stratum corneum	4
Roseola	38, 74	Schweiss, kritischer	264	— germinativum	4
— vaccinica	167	Schweissdrüsenfurunkel	381	— granulolum	4
— variolosa	213	Schweissporen	13	— lucidum	4
Rotzbacillus	409	Scorbut	92	— papillare	8
Rotzgeschwür	408	Seborrhoea	*258	— spinosum	4
Rotzknoten	408	— oleosa	258	Streptokokkenserum	165
Rotzschanker	408	— sicca	258	Streptothrix Madurac	417
Rubeola	*202	Seife	*56	Stromstärke	62
Rubor essentialis s. angioneu-		Secundäre Haare	18	Strophulus infantum	106, 114
roticus	75	Secundäreflorescenzen	39	Stückseifen	56
Ruffinis Körperchen	11	Sekundärspule	65	Subcutanes Fettgewebe	4
Rupia	38	Semen Lycopodii	43	— Gefässnetz	9
		Seropapel	37	Subcutangewebe	4
		Serumexantheme	165	Subcutis	4
S		Sinnespunkte	35	Subpapillares Gefässnetz	9
Salbe	*46	Sitzbad	41	Substantia corticales	21
Salbenleim	51	Skabies	109, 114	— medullaris	21
Salbenmull	53	Sklerodermia	80	Substanzverlust	38
Salicylseifenpflaster	52	Sklerombacillen	411	Sudamen	278
Sandseife	57	Slipada	416	Sulci cutis	3
Sapo	*56	Small pox	226	Suleus matricis unguis	24
— kalinus s. viridis	56	Solide Papel	37	Summerruption	142
Sarcoma cutis	68	Spaltrichtung	7	Supercilia	17
Sarcome, tiefliegende	68	Spannung des elektrischen		Sycosis non parasitaria	343
Scapus pili	20	Stroms	62	— framboesiformis	359
Scarlatina	*204	Spermacetum	45	— simplex	343
— adynamica	207	Spiritus saponis kalinus		Sycosis staphylogenes <i>Unna</i>	*343
— afebrilis	207	<i>Hebra</i>	57	— vulgaris	343
— fugax	207	Spiritus vini	53	Sykosis	67
— haemorrhagica	207	Sporodium vaccinale	226	Synkope, locale	82
— lacuis	207	Squama	36	Syphilide	103
— papulosa miliaris et vesic-		Stachel	5		
ularis	207	— puerperalis	210	T	
— puerperalis	210	— septica	207	Tabaucht	416
— septica	207	— sine exanthemate	207	Taches cerebrales	76
— typhosa	207	— typhosa	207	Talcum venetum	43
— variegata	207	— erythematosum	270	Talgdrüsen	*15

Talgdrüsenfurunkel	381	Urticaria perstans papulosa	96		
Talgzellen	15	— — simplex	96	W	
Tela subcutanea	4	— — verrucosa	96	Warzenpocken	218
Terra silica	44	— pigmentosa	*100	Wasser	*41
Tetanusserum	165	— papulata	107	Waterkancer	405
Theerpasta <i>Dohi</i>	48	— porcellanea	94	Wechselstrom	64
Therapie, allgemeine	40	— rubra	94	Weiche Röhre	65
— locale	40	— serpigiosa	9	— Seifen	56
— medicamentöse	58	— urens	97	Wollhaare	17
— physikalische	41	— xanthelasmaiden	101	Wurzelscheiden	23
Tragi	17				
Traumaticin	54			X	
Trichophytie	67	Vaccination	228	Xerosis	*263
Tuberculinexantheme	*167	Vallum unguis	24		
Tuberculum	37	Varicella	108, *231	Y	
Tyloma	281	— bullosa	231	Yellow or ochroid	417
		Variola	*212		
U		— confluens	219	Z	
Überharte Röhre	65	— corymbosa	215	Zellgewebsfurunkel	381
Ulcus	38	— discretæ	214	Zincum oxydatum	43
— cruris	280	— hæmorrhagica	220	Zinkleim	51
— rodens	68	— — pustulosa	221	Zinköl <i>Lassar</i>	47
Unguentum	*46	— mitigata	217	Zona	*144
— Diachyli <i>Helm</i>	47	— sine exanthemate	218	Zoster	*144
— <i>Dohi</i>	48	— — variolus	221	— abdominalis	147
Ung. <i>Käpferi</i>	115	— typhosa	219	— abortivus	146
— simplex	46	— vera	212	— arsenicalis	183
— <i>Wilsoni</i>	48	Varioloïden	217	— bilateralis	147
— <i>Wilkinsoni</i>	116	Varioloïdes verrucosæ	218	— bullosus	146
Unguis	*24	Variolois	217	— cervico-brachialis	146
Uniolampe	58	Vaselin	45	— cervico-subclavicularis	146
Unterbrecher	65	Vasogen	45	— dorso-abdominalis	146
Unterhaut	4	Vasomotorisches Reizphäno-		— dorso-pectoralis	146
Uridrosis	269	men	76	— facialis	146
Urtica	37	<i>Vater-Pacini's</i> Körperchen	11	— frontalis	147
Urticaria	*94, 103, 106, 108, 114	Verbrennung	241	— gangraenosus	146
120		— I ^{ten} Grades	241	— hæmorrhagicus	146
— acuta	95	— II ^{ten} Grades	241	— hystericus	238
— alba	94	— III ^{ten} Grades	242	— incompletus	146
— annularis	95	Verbrennungstod, primärer	243	— intercostalis	147
— bullosa	95	— secundärer	244	— lumbo-femoralis	146
— chronica	96	Vernix caseosa	29, 259	— lumbo-inguinalis	146
— evanida	95	Verrucæ disseminatæ	67	— occipito-collaris	146
— externa	97	Vesicula	37	— ophthalmicus	147
— factitia	95	Vibices	86	— pectoralis	147
— figurata	94	Vibrissæ	17	— sacro-genitalis	147
— gyrata	95	Vitiligo	39	— sacro-ischiadicus	147
— interna	97	Vollbad	41	— unilateralis	147
— mit Pigmentbildung	102	Vorreaktion	69	Zyste	38
— perstans	96	Vortices pilorum	19		

NAMENREGISTER.

	A	Brochet	364	368, 369, 371, 373, 383, 394,	
		Brocq	99, 111, 282, 314, 321,	398	
			325, 326, 333, 340, 341	Dohi, Sh.	187, 365, 369, 373
Achard	192	Bruck	282	Döhle	199
Adachi, B.	27	Brunn	13	Domorowski	226
Adamkiewicz	179	Bulkley	326	Doutrelepont	102, 238
Aeby	27	Busch	398	Doyon	151, 152
Albers-Schönberg	63	Buschke	410, 419	Drasche	269
Alibert	324	Busse	418	Dubreuilh	168, 400
Almquist	123	Buttersack	225	Duhring	119, 124, 136
Amann	268	Buzzi	56	Dummesnil	400
Apolant	174			Dupray	364
Asahi, K.	95	C		Düring	156
Auspitz	54	Campana	162	Duval	209
		Canon	199		
		Carter	416	E	
Baelz	19, 26	Casal	188	Ehrmann	27, 143, 314, 315,
Baerensprung	148, 152	Cazenave	324	341, 359, 363	
Baginsky	209	Class	209	Eichstedt	374
Baker	331	Coley	398	Eiselsberg	394, 412
Bareggi	233	Collins	105	Elliot	326
Barthelemy	254	Colombini	140	Engmann	364
Bateman	324, 364	Crocker	303	Eulenburg	75
Bay	225	Crooks	62	Exner	255
Bazin	142, 354, 359	Curie Sklodowska, <i>Alme.</i>	69		
Behrend	138	D		Faber	365
Bender	283, 402	Darier	254	Fehleisen	394
Benoist	66	Davaine	388	Felsenthal	394
Besnier	113, 282, 322, 323, 326,	De Amicis	326	Fereol	320
333, 353		Delio	79	Fickler	225
Bielt	282	Delbanco	417	Finger	191
Blix	34	Delius	394	Fordos	268
Blumer	102, 140	Demme	89	Fox	182, 301, 303, 304, 326,
Bockhardt	283, 344, 364, 375	Després	398	364, 367	
Bollinger	414	Devergie	324, 325	Frank	226
Bonaïuté	140	Diday	151, 152	Fränkel	209, 394
Bondini-Uffreduzzi	394	Dohi, K.	52, 97, 105, 109, 113,	Freudenberg	209
Bonome	394	116, 118, 140, 151, 152, 172,		Freund	63, 252, 413
Bosc	233	182, 187, 236, 296, 303, 307,		Frey	34
Bousquet	364	316, 327, 357, 361, 362, 365,		Freymuth	406
Brandweiner	239				
Breier	400				

Friese	374	Isawa	140	Lavergnes	325
Frisch	411	Ishitani	71	Lebet	192
Fujikawa	27	Ishizu	284	Legrain	417
		Israel	414	Leistikow	49
G		Itō, T.	140, 406	Leloir	113, 308, 364
Galewsky	327			Leredde	282, 327
Galloway	282	J		Leroux	364
Gaucher	238	Jadassohn	102, 152, 162, 170,	Lesage	199
Gerhardt	152		261, 282, 308, 312, 313, 317,	Lesser	187, 304
Gerlach	283		318, 323, 326, 373	Letzerlich	92
Geronne	374	Jarisch	27, 162, 192, 300,	Levy	225
Giarré	199		304, 326	Lewandowsky	373
Gilchrist	419	Jenner	228	Lewin	182, 187, 333
Goldscheider	34, 139, 140	Jessner	40, 49, 353	Litten	89
Grawitz	406	Joseph, Max.	326	Löffler	409
Greve	310	Jordan	394	Lomry	349
Guarnieré	224	Juliusberg	314	Luithlen	402
Guisetti	406			Lukasiewicz	326
Gundorow	180	K		Lustgarten	244
		Kabashima	105		
H		Kageyama	104	M	
Hajek	394	Kanō	135	Mackenzie	185
Halberstädter	63	Kaposi	2, 112, 115, 136, 154,	Madelung	386
Hallopeau	138, 327		182, 211, 221, 226, 230, 237,	Mallory	209
Haslund	310		238, 240, 244, 282, 304, 308,	Manabe, K.	71
Haushalter	191		325, 330, 357, 361, 400	Marcuse	252
Hebra, F.	109, 113, 122, 126, 135,	Katō, T.	26	Marmorek	165, 397
	154, 157, 199, 225, 226, 230,	Kaufmann	364	Marschoux	389
	259, 282, 320, 324, 325, 326,	Kent	225	Marsun	229
	336, 339, 354, 355, 357, 359,	Kienbeck	252	Martin	225
	364, 399, 411	Kihara	317	Marx	400
Hebra, H.	326, 357	Kobert	187	Matsuura	185, 283
Heinecke	63	Köbner	138, 326, 333	Matzenauer	123, 304, 364, 406
Hemoch	89, 232	Koch	225	Mendel	105
Hersheimer	310	Kollb	92	Merk	189, 192
Hesse	233	Kolle	389	Meyr	199
Hidaka	282	Kölliker	27	Mizuo, G.	174
Hintner	238, 239	Kōmoto	131	Möll	19
Hittorf	62	Koranyi	387	Montgomery	421
Hofmann	268	Krause	17	Monti	109, 167
Hoggan	102	Kreibich	96, 282, 327, 342, 380	Mori, H.	104
Holzknacht	252, 253, 254, 255,	Kromayer	49, 113, 294, 311	Mori, M.	296
	312	Kurth	364	Moriyasu	182
Homma	359	Küster	397		
Hutchinson	123, 142, 184, 185,	Kusunoki	296	N	
	301, 303, 304			Nakajima	316
Hütter	397	L		Nakanishi	225
		Lang	327	Nakano	394
I		Langer	7	Nasarow	389
Inouye	97	Lassar	47, 353, 357	Nannin	237

Neisser	168, 307, 312, 313			Shimodaira	104
	326, 340, 341, 398			Shimoyama	56
Nettleship	101	Q		Shishido	172
Neufeld	394	Quinke	104	Simon, O.	116, 324
Neuhauss	192			Simon, Th.	213
Neumann	187, 326, 327, 337	R		Singer	192
	399, 400	Raab	282	Sklavo	389
Niehaus	397	Rabl	27	Sobernheim	389
Nishimura	104	Ranke	405	Solowzow	225
Nocard	415	Ranvier	14	Sommerfeld	209
Noire	66	Rauber	3, 22	Sonnenburg	244
Nothnagel	81	Rave	294	Spiegler	244
Novak	192	Rayer	238, 282, 324	Steinach	33
		Raynaud	85	Steiner	233
		Recklinghausen	249	Stelwagon	327, 365
O		Rehn	195	Stieda	15
Ogino	229	Reil	81	Straus	409
Okamura	131, 175, 274	Richard	325	Strelitz	123
Okasaki	229, 351	Rieck	398	Stubenrauch	238
Okukawa	314	Riecke	239, 324, 326	Sugi	104
Okumura	229	Riehl	27, 113	Suzuki	132
Ono	274	Rille	326		
Osler	80	Kindfleisch	226, 398	T	
Ota, E.	341	Ritter	401	Takenaka	245, 257
Osterreich	353	Robinson	303, 326	Tanaka, H.	229
Oudir	254	Rona	314, 327	Tanaka, T.	316, 318
		Rosenbach	396	Tavernier	113
		Rülmer	32	Taylor	326
		Rutherford	70	Thiery	245
P				Thin	179
Paltauf	411, 417	S		Tilden	171
Panum	194	Sabouraud	66, 260, 282, 349	Tokishige	418
Paschkis	310	Sachs	80	Tomita	398
Pasteur	389	Sakakuchi	140	Tommasoli	340
Paulowsky	413	Sakata	104	Török	138, 260, 282, 304, 322,
Pelagatti	51	Sakurane, K.	129, 226, 314, 419		327
Pellizari	359	Sangster	101	Touton	341
Perthes	406	Sasagawa, M.	132, 173, 296	Tōyama	172, 186
Petruschky	394	Sasaoka	415	Tsutsui	316
Pezzoli	192	Sata	260		
Pfeiffer	226	Satō, G.	284	U	
Picchi	199	Satō, K.	172	Unna	51, 53, 102, 105, 162,
Piek	96	Sauvage	122		192, 260, 282, 299, 300, 303,
Pielicke	199	Schiff	252		304, 333, 349, 359, 364, 365,
Pinkus	19, 314	Scholtz	252, 282, 364		368, 375, 417
Pirogoff	390	Schwalbe	27	Uno	321
Pogge	364	Schwimmer	326		
Pollender	388	Scriba	228	V	
Pontoppidan	365	Seguin	31	Valentin	138, 140
Post	27	Shidachi	180	Van der Loeff	226
Powe	245	Shimmellush	406		

明治四十三年七月十一日印刷
明治四十三年七月十五日發行

皮府科學上卷
正價金參圓五拾錢

兼著
發行者

東京市麴町區下二番町四十六番地
土肥慶藏

印刷者

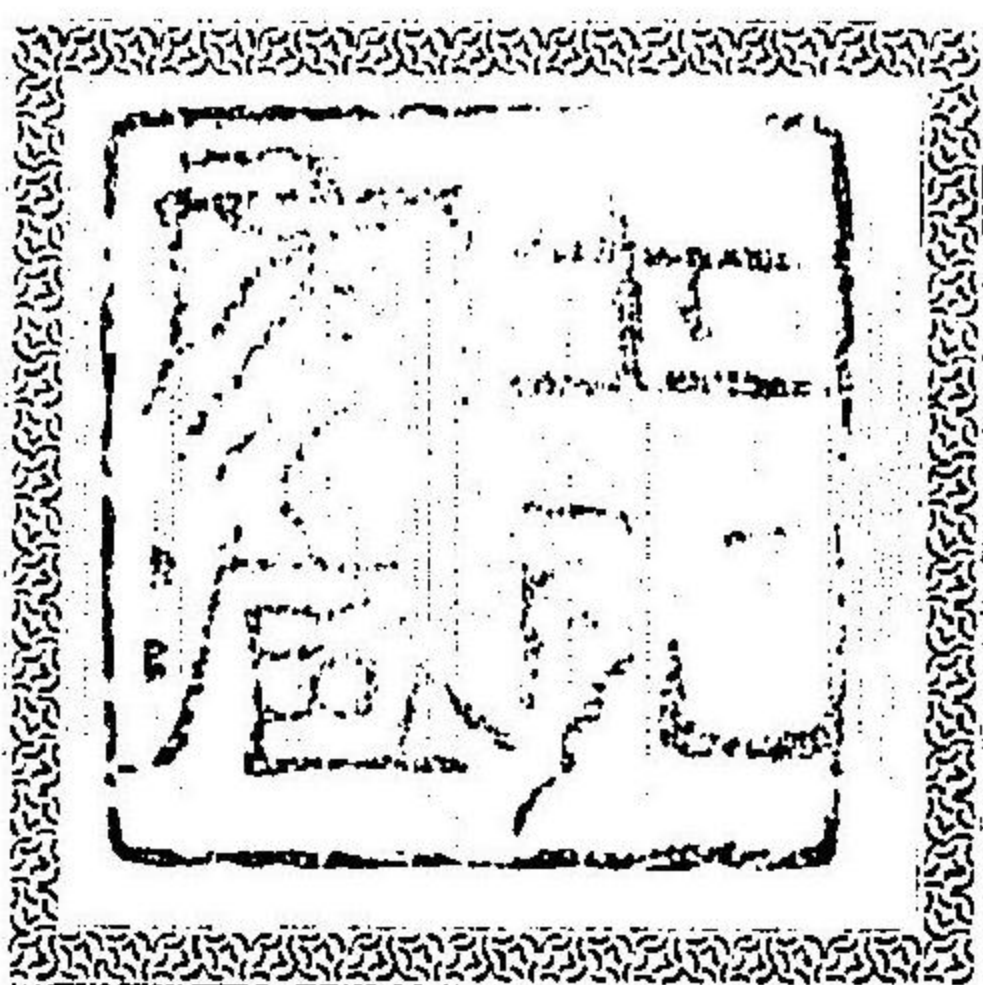
東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
今井甚太郎

印刷所

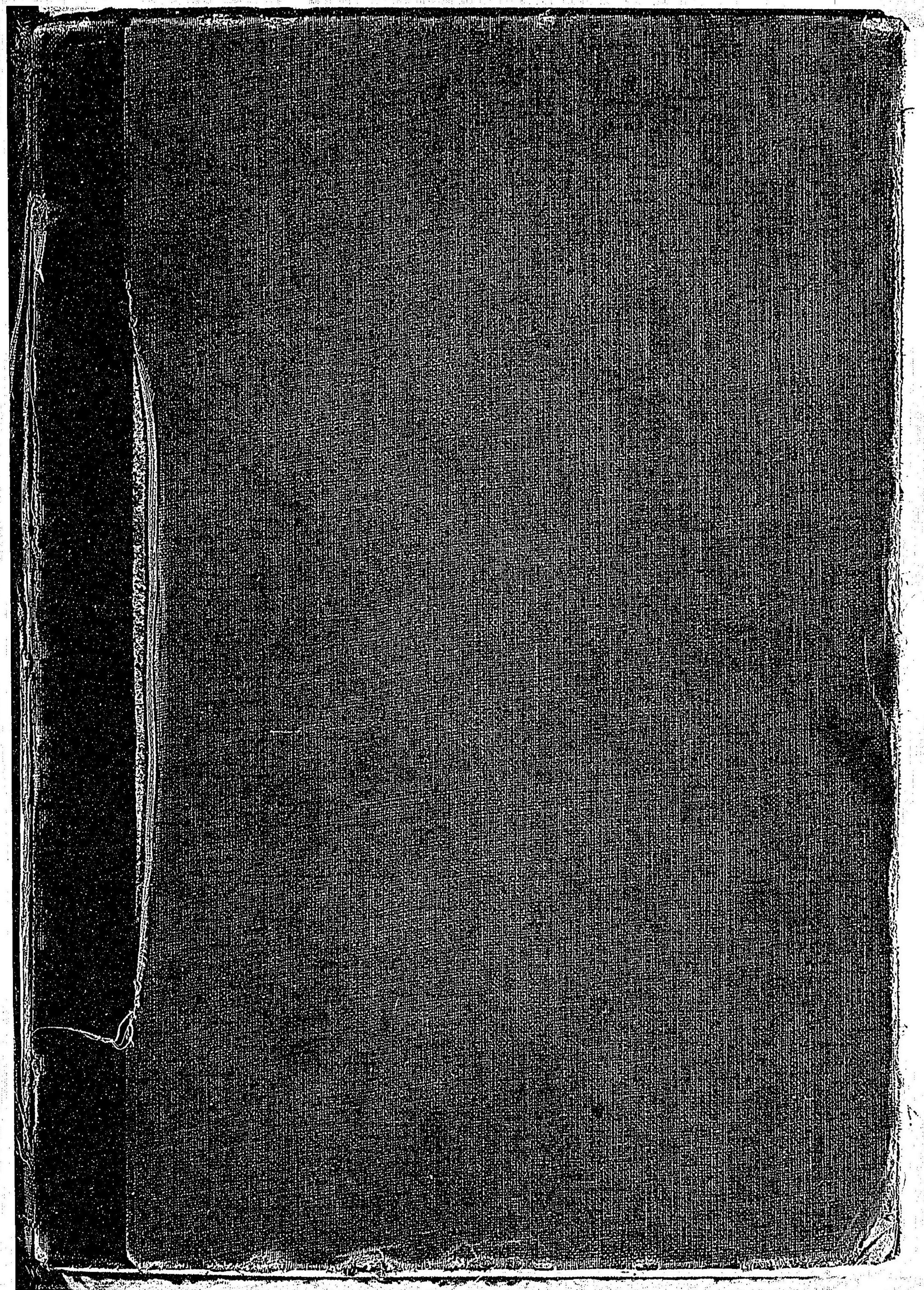
東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
杏林舍

發兌元

東京市神田區鍛冶町二十二番地
朝香屋書店
振替貯金口座東京第二四三番
電話本局一六三三番



57
18



57
18

Ⓜ

059752-001-4

57-18

皮膚科学

土肥 慶蔵/著

上

M43, T3

CBH-0433

